

拘ラス之ニ該法條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ判決ニシテ破毀ヲ免レサルモノト思料スル次第ナリ(一)
 被告人岩田龜治郎カ相被告人タル大塚勇藏トノ間ニ賄路交付ノ約束ヲ爲シタル約旨ハ「被告人上田ヨ
 リ投票報酬トシテ千圓又ハ千二百圓位ヲ供與セシムヘキ旨ヲ申向ケ」タル事實ニアリ即チ被告人岩田
 カ大塚ニ對シ賄路交付ノ直接當事者トシテ約束ヲ爲シタルモノニ非スシテ對話者以外ノ第三者ヲシテ
 賄路ヲ交付セシムトノ主旨ナリ斯ル場合第三者ニ履行セシムル約束ハ第三者ノ承諾アル場合又ハ約束
 ノ締結ニ際シテ第三者トノ間ニ代理關係アル場合ナルコトヲ要スルモノトス即チ當事者ニ於テ處分ノ
 權限ナク且ツ第三者ニ於テ實現性ナキ利益ノ如キハ結局ニ於テ人ノ慾望ヲ充タスニ足ル利益ト云フヲ
 得サルヲ以テ賄路罪ノ目的物タル適性ナキモノト信スル次第ナリ本件ニ於テ所謂「千圓又ハ千二百圓
 位ヲ支出サスヘシトノ話」ノ根據ハ全ク虛構ノ事實ニ基因スルモノナリ岩田龜治郎豫審調書(十二月二
 十三日附)「福本卯三郎カ赤松市長ヲ選舉スレハ三千圓又ハ夫以上出ルカモ知レヌ大島議員ハ民政黨ノ
 三分ノ一ヲ占メ居ルカラ千圓又ハ千二百圓位ノ報酬ハ九島議員ニ出ル様ニナルヲウツ福本卯三郎カラ
 聞キマシタ墨田勉ニ對シ千二百圓九島議員ニ報酬ニ渡スコトハ聞イテ居ラス協議モセス其ノ眞否ヲ聞
 イテ居ラス」ト供述シ同人ノ強制處分訊問調書モ同趣旨ヲ供述アリ此等ノ證據ニ依リ「千圓又ハ千二
 百圓位」ト云フ話ハ福本卯三郎カ虛構ノ事實ヲ申傳ヘタルコト及黒田ト岩田トノ間ニ於テ斯ノ如キ協
 議ヲ爲シタルコトナキハ勿論其ノ眞否ヲ質シタルコトモナシ然ラハ被告人大塚勇藏ト黒田勉間ニ於テ

ル此ノ事實ニ付キ交渉アリタルヤ如何七月三日夜大海樓ニ於テ大塚ト黒田ト會見シタル際此ノ事實ニ
 觸レ居ラス更ニ今治屋旅館ニ於テ大塚カ黒田ニ對シ報酬ヲ請求シタル際黒田ハ具體的事實ヲ聞知シ居
 ラサリシコト明白ナリトス此等ノ證據ニ依リ明白ナル如ク「千圓又ハ千二百圓位」ノ事實ハ全ク虛構
 ノ事實ナルコト及關係者間ニ於テ何等協議話合等ナキヲ以テ全然實現不可能ナル利益ニシテ且ツ虛構
 ノ利益ナルヲ以テ賄路ノ利益タル適性ナキモノト信スル次第ナリ(二)以上賄路ノ目的タリ得ル利益
 ノ適性ヲ客觀的ニ觀察シタル時ハ其ノ見解ノ正當ナルモノト信スルモ之ヲ賄路ヲ受クル者ノ側ヨリ觀
 察スル時ハ「賄路タル利益ハ必スシモ確實ナルヲ要セス其ノ需要慾望ヲ充タスト否トカ第三者ノ意思
 ニ係リ其ノ者ノ承諾ナクシテハ實現ヲ見ルコト能ハサル場合ニ於テモ其ノ第三者ニ於テ供與ヲ爲スヘ
 キコトカ期待シ得ラルルニ於テハ其ノ機會ヲ與フルコトハ即チ人ノ慾望ヲ充タスニ足ル利益ナリ」ト
 ノ說アリト雖本件ニ於テハ敍上ノ如ク關係者間ニ於テ何等協議話合等ナク全ク虛構ノ事實ニ基因シ
 テ岩田カ大塚ニ申向ケタルコト及大塚ハ約束成立當時岩田ト黒田又ハ上田トノ間ノ關係ヲ知ラス又岩
 田ハ大塚ニ對シ黒田又ハ上田ノ依頼ニ依リ請託スル旨ヲ申傳ヘ居ラサル點及犯行ノアリタルハ七月初
 頃ニシテ大塚ト黒田カ七月三日頃大海樓ニ於ケル初對面前ニテ且ツ百圓又ハ百二十圓ヲ大塚ニ交付ス
 ル以前ナルコト明白ナル狀態ノ下ニ其ノ虛構ノ事實ノ實現ノ斡旋ヲ約スルカ如キハ賄路ノ目的タリ得
 ル利益ノ適性アリト斷スル能ハス以上ノ事由ニ依リ原判決ハ重大ナル事實ニ付キ誤認アルコトヲ疑フ

ニ足ルヘキ顯著ナル事由アルカ又ハ罪トナラサル事實ヲ罰シタル擬律錯誤ノ判決ナリト信スルヲ以テ破毀ヲ免レスト云フニ在リ

仍テ按ズルニ、凡ソ一定ノ利益ニシテ吾人ノ需要又ハ慾望ヲ充スニ足ルベキモノナルニ於テハ、其ノ種類數量及之ガ實現ノ時期不確定ナルトキト雖モ、賄賂タルニ妨ナク、隨テ自己ノ處分圏内ニ在ラザル利益ニ付テモ能ク賄賂罪ノ成立アルベキコトハ既ニ昭和八年十二月二日ノ本院判例ノ趣旨トスル所ナリトス。所論ニ反對説トシテ舉示セルモノ亦右判決ヲ指示スルニ似タリ。之ヲ要スルニ第三者ノ處分圏内ニ在ル利益ト雖モ、之ガ供與ヲ約スル者ニ於テ第三者ニ對シ影響ヲ及ボシ得ル地位ニアリテ、人ヲシテ賄賂實現ノ可能ヲ期待セシメ得ル場合ニ於テハ、賄賂約東罪ノ成立ヲ認ムベキモノト謂ハザルベカラズ。今、原判決認定ノ事實ニ依レバ、被告人岩田龜治郎ハ原審相被告人大塚勇藏ニ對シ其ノ職務トシテ市長ノ選舉ヲ爲ス際ハ赤松桂ヘ投票セラレ度ク且ツ九島俱樂部所屬員全部ノ投票ヲ取締メラレ度キ旨請託シ、若シ勇藏ニ於テ右請託ヲ應諾スルニ於テハ原審相被告人上田亮三ヲシテ勇藏其ノ他前記俱樂部ノ議員全部ニ之ガ報酬トシテ千圓又ハ千二百圓ヲ供セシムベキ旨申向ケテ其ノ承諾ヲ得、以テ賄賂交付ノ約束ヲ爲シタリト云フニ在リ。而シテ記録ヲ精査スルニ被告人ニ於テ此ノ如キ約束ヲ爲シタルコトガ福本卯三郎ノ言ヲ輕信シタルニ基因スルハ洵ニ所論ノ如シト雖モ、上田亮三ト福本卯三郎ト、又同人ト被告人トハ互ニ相識ノ間柄ナルノミナラズ、現ニ大塚勇藏ハ黒田勉ヲ通ジテ上

【要旨】

田亮三ヨリ金三百圓ノ交付ヲ受ケ居レル事實アルニ徴スレバ、被告人ガ勇藏ニ對シ前記約束ヲ爲シタルハ明カニ自己ガ影響ヲ及ボシ得ベキ福本卯三郎ヲ通ジテ上田亮三ヨリ金圓ヲ支出セシメントシタルニ外ナラズシテ、右ハ人ヲシテ之ガ實現ノ可能ヲ期待セシムルニ足ルヲ以テ、賄賂約東罪ヲ構成スルモノタルヤ言フ俟タザルナリ。然ラバ原判決ニハ所論ノ如キ違法存在スルコトナク、論旨ハ理由ナシ。(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス。

検事村上常太郎關與

○法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十三年(九)第一六六三號 棄却)
同十四年三月十七日第三刑事部判決

【上告人】 被告人 中原 泰治 辯護人 (堤 松尾 菊太郎)

法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條ノ代理ト抵當權實行ノ爲ニスル競賣申立ノ代理

○判示事項

法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條ノ代理ト抵當權實行ノ爲ニスル競賣申立ノ代理

○判決要旨

抵當權實行ノ爲ニスル競賣申立ノ代理行爲ハ法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條ニ所謂他人間ノ非訟事件ノ紛議ニ關シ代理ヲ爲シタル場合ニ該當ス

【參照】法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條 辯護士ニ非ザル者ハ報酬ヲ得ル目的ヲ以テ他人間ノ訴訟事件ニ關シ又ハ他人間ノ非訟事件ノ紛議ニ關シ鑑定、代理、仲裁若ハ和解ヲ爲シ又ハ此等ノ周旋ヲ爲スヲ業トスルコトヲ得ズ但シ正當ノ業務ニ附隨シテ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人中原泰治ヲ禁錮四月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人中原泰治ハ辯護士ニ非スシテ報酬ヲ得ル目的ヲ以テ業トシテ

- 一 昭和十二年一月頃債權者宮崎康夫債務者河野道福間ノ金六十圓ノ貸金事件ニ付債權者側ヲ代理シテ道福ノ子河野秋郷名義ニテ島原區裁判所ニ金錢債務調停ノ申立ヲ爲シ
- 二 同年四月頃債權者吉川大六郎債務者小林保男間ノ金二百九十七圓三十九錢ノ貸金事件ニ付債權者ヲ代理シテ同區裁判所ニ支拂命令ノ申請ヲ爲シ
- 三 同年六月頃債權者都築ミネ債務者山口松藏間ノ金六十四圓九十五錢ノ肥料代金事件ニ付債權者ヲ代理シテ同區裁判所ニ支拂命令ノ申請ヲ爲シ
- 四 同年八月頃債權者都築ミネ債務者吉田末松間ノ金十五圓四十二錢ノ肥料代金事件ニ付債權者ヲ代理シテ同區裁判所ニ支拂命令ノ申請ヲ爲シ
- 五 辯護士中山八郎ニ訴訟代理ヲ爲サシムル爲其ノ事務員杉森松一ニ對シ同年八月頃長崎縣南高來郡島原町同區裁判所前荒木飲食店方ニ於テ債權者福田庄次郎債務者吉村福政間ノ金四百圓ノ總貸貸等事件ニ付債權者ノ爲訴訟ノ委任ヲ爲シ
- 六 其ノ頃前記荒木飲食店方ニ於テ前記杉森松一ニ對シ前同一理由ノ下ニ債權者松尾晴應債務者小谷關右衛門間ノ酌婦引渡事件ニ付債權者ノ爲訴訟ノ委任ヲ爲シ
- 七 其ノ頃同區裁判所構内ニ於テ前同一理由ヲ以テ前記杉森松一ニ對シ債權者市川金太債務者金子榮三郎間ノ金四百五十圓ノ貸金事件ニ付債權者ノ爲訴訟ノ委任ヲ爲シ
- 八 同年十月頃債權者山本富治債務者原喜三郎間ノ金二十圓餘ノ貸金事件ニ付債權者ノ代理人ト爲リテ同區裁判所ニ抵當權實行ノ申立ヲ爲シ
- 九 其ノ頃債權者宮崎イサ債務者酒井喜久之助間ノ金三百圓ノ貸金事件ニ付債權者ヲ代理シテ同區裁判所ニ支拂命令ノ代理

法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條ノ代理ト抵當權實行ノ爲ニスル競賣申立ノ代理

ノ申請ヲ爲シ

- 一〇 同年十一月頃債權者山本富治債權者松島藤吉間ノ金八百圓ノ貸金事件ニ付債權者ノ代理人ト爲リテ同區裁判所ニ抵當權實行ノ申立ヲ爲シ
 - 一一 同年十二月頃前記荒木飲食店方ニ於テ前記杉森松一ニ對シ(五)ノ冒頭所載ト同一事由ニ依リ債權者市川金太債權者山口勇間ノ金三十圓ノ貸金事件ニ付支拂命令申請方ノ委任ヲ爲シ
 - 一二 昭和十三年一月頃債權者森崎勇債權者若島コガネ間ノ金千圓ノ貸金事件ニ付債權者ノ代理人ト爲リテ同區裁判所ニ抵當權實行ノ申立ヲ爲シ
 - 一三 其ノ頃同區裁判所構内ニ於テ前記杉森松一ニ對シ(五)ノ冒頭所載ト同一事由ニ依リ債權者相良清一郎債權者石橋太市間ノマオラン損害金事件ニ付債權者ノ爲訴訟ノ委任ヲ爲シ
 - 一四 同年二月頃債權者森崎兼治債權者木村英次郎間ノ金二百圓ノ左官材料代金事件ニ付債權者ヲ代理シテ同區裁判所ニ支拂命令ノ申請ヲ爲シ
 - 一五 其ノ頃債權者松崎長治債權者大町末治間ノ金七十圓ノ貸金事件ニ付債權者ヲ代理シテ同區裁判所ニ支拂命令ノ申請ヲ爲シ
- 以テ他人間ノ訴訟事件ニ關シ竝他人間ノ非訟事件ノ紛議ニ關シ其ノ代理ヲ爲シ及他人間ノ訴訟事件ニ關シ代理ノ周旋ヲ爲シタルモノナリ
- 法律ニ照スニ被告入中原泰治ノ所爲ハ法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條第四條第一項前段ニ該當スルヲ以テ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ刑期間範圍内ニ於テ禁錮四月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告入中原泰治辯護人堤敏太、松尾菊太郎上告趣意書第一點凡ソ法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條ニハ「辯護士ニ非ザル者ハ報酬ヲ得ル目的ヲ以テ他人間ノ訴訟事件ニ關シ又ハ他人間ノ非訟事件ノ紛議ニ關シ鑑定、代理、仲裁若ハ和解ヲ爲シ又ハ此等ノ周旋ヲ爲スヲ業トスルコトヲ得ズ」ト規定スルヲ以テ苟モ同條違反ノ行爲タルニハ辯護士ニ非サル者カ同條所定ノ「鑑定、代理、仲裁、和解、周旋」ヲ爲シタルコトヲ要スルモノトス而シテ本件ニ於テ被告入中原泰治ハ原判決認定ノ事實中第一ノ(一)ノ金錢債務調停ノ申立及同(二)乃至(四)同(九)(十四)(十五)ノ各支拂命令ノ申請ハ何レモ本人名義ヲ以テ爲サレタルモノニシテ同被告入カ各債權者又ハ債權者ノ所謂代理人トシテ爲シタルモノニ非サルコトハ原審公判廷ニ於ケル係檢事ノ論告ニ明ナル處ナリ然ラハ同被告入ハ單ニ右本人等カ裁判上ノ手續ニ疎キ爲同被告入カ本人ニ代リテ書類ヲ作成シ之ヲ裁判所ニ提出シタルニ過キササルモノニシテモトヨリ被告入カ辯護士ノ業務ニ類似ノ行爲ヲ爲シタルモノニ非ス然ルニ原判決被告入ノ書類作成及提出行爲ヲ以テ所謂「代理」行爲ヲ爲シタルモノトシテ當該法條ヲ適用シテ處罰シタルハ違法ナリト云フニ在リテ

原判第一ノ(一)ノ金錢債務調停ノ申立及同(二)乃至(四)同(九)(十四)(十五)ノ各支拂命令ノ申請カ孰レモ夫々本人名義ヲ以テ爲サレタルコトハ記録ニ徴シ定ニ所論ノ如クナリト雖案スルニ昭和八年五月一日法律第五十四號法律事務取扱ノ取締ニ關スル件ナル法律ノ全趣旨ハ國家カ法律事務取扱ニ適當ナリト認メタル者即チ辯護士以外ノ者ニシテ其ノ正當業務ニ附屬シテ之ヲ爲ス場合ハ格別然ラスシテ報酬ヲ得ル目的ヲ以テ他人間ノ訴訟事件ニ關シ又ハ非訟事件ノ紛議ニ關シ代理其ノ他鑑定、仲裁、和解等ニ關シ若ハ之ニ類スル同法律ノ各條項掲記ノ行爲ニ關スルニ於テハ事件解決ニ貢獻スルコトノ尠ナルニ反シ徒ニ之ヲ混亂紛糾ニ陥レ延テ社會秩序ノ維持ニ害毒ヲ流スコトノ多

法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條ノ代理ト抵當權實行ノ爲ニスル職責申立ノ代理

キニ鑑ミ此ノ種行為ヲ業トスル者ノ一掃ヲ企圖スルニ在ルコト一點疑ナキトコロナルカ故ニ同法律第一條ニ所謂「代理」ニハ手續法規ニ規定セラルル代理行為ノ外事實上紛議ノ當事者ニ代リテ紛議ノ處理ニ關スル各般ノ行為ヲ爲スコトヲモ包含セシメタル法意ナリト解スルヲ正當トス果シテ然ラハ被告人中原泰治カ單ニ本人ニ代リテ書類ヲ作成シ之ヲ裁判所ニ提出シタル所論摘示ノ原判示事實ト雖前掲法律第一條ニ所謂「代理」行為ヲ爲シタル場合ニ該當シ之ヲ業トシテ爲シタル者ハ同法律第一條第四條第一項前段ニ依リ所罰セラルヘキコト勿論ナリ從テ右ト同旨ニ出テタル原判決ハ寔ニ正當ニシテ毫モ所論ノ如キ違法アルヲ見ス論旨理由ナシ

同第四點本件被告人ニ對スル判示事實中第一ノ(八)(十)(十二)ハ抵當權實行ノ競賣申立事件ニシテ訴訟事件ニ非サルハ勿論非訟事件ノ紛議ニ關スルモノニモ亦屬セス右判示事實ハ法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條違法ノ行為ニ非ス然ルニ原判決カ訴訟事件ニ非ス又非訟事件ノ紛議ニモ關セサル故上抵當權實行ニ依ル競賣ノ申立ヲ主人ノ命ニ依リ傭人カ爲シタル行為ヲ右法條違反ノ行為ナリトシテ處罰シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ

【要旨】

抵當權實行ノ爲ニスル競賣申立カ其ノ性質上非訟事件ニ屬スルコトハ夙ニ本院判例ノ示ストコロナルヲ以テ所論判示第一ノ(八)(十)(十二)ノ被告人中原泰治ノ各犯行カ前掲法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條ニ所謂非訟事件ノ紛議ニ關シ債權者ノ代理ヲ爲シタル行為ニ各該當スルハ勿論右競賣申立カ同被告人カ主人ノ命ニ依リ傭人トシテ爲シタルモノナルコトハ原判決ノ認定セサルトコロナルカ故ニ原判決ニ於テ同被告人ノ該犯行ヲ認定シ原判示法條ヲ適用處斷シタルハ極メテ正當ナリ論旨理

由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事横田麟二關與

○常習賭博被告事件(昭和十四年(九)第四二號 棄却)

(昭和十四年三月二十二日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 松本武五 辯護人 石川 偉 三

【第一審】 京都區裁判所 【第二審】 京都地方裁判所

○判示事項

競馬法第三十三條第三號ト刑法第八十五條——常習賭博罪ノ構成

○判決要旨

一 競馬ノ競走ニ關シ多數ノ者ニ對シ財物ヲ以テ賭事ヲ爲スモ業ト

競馬法第三十三條第三號ト刑法第八十五條 常習賭博罪ノ構成

シテ之ヲ爲シタルニ非サルトキハ競馬法第三十三條第三號ニ該當セスシテ刑法ノ賭博罪ヲ構成ス【要旨第一】
二 刑法ノ常習賭博罪ハ賭博ノ習癖ヲ有スル者カ其ノ發現トシテ賭博行爲ヲ反覆スルニ依リテ成立シ其ノ賭博ノ性質方法如何ヲ問ハサルモノトス【要旨第二】

【參照】競馬法第一條 本法ニ依ル競馬ハ日本競馬會ニ限リ之ヲ行フコトヲ得

同法第三十三條 左ノ各款ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰

金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

一 日本競馬會ニ非ズシテ馬投票券ヲ發賣シタル者

二 第二十七條第二號ノ停止又ハ制限ニ違反シテ馬投票券ヲ發賣シタル者

三 本法ニ依ル競馬ノ競走ニ關シ業トシテ多數ノ者ニ對シ財物ヲ以テ賭事ヲ爲シタル者

四 第五條第二項ニ掲グル者ニシテ前號ニ規定スル行爲ノ相手方ト爲リタル者

刑法第八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓

以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラ

ズ

同法第八十六條第一項 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役

ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人松本武五ヲ懲役四月ニ被告人羽栗卯之助ヲ懲役一年ニ處ス押收ニ係ル證第一號賭金中被告人羽栗卯之助所有ノ分ハ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人兩名ハ原審相被告人荒木丑松ト共ニ昭和十三年五月四日京都府乙訓郡新神足村長岡競馬場ニ於テ俗ニ「春屋」又ハ「握り」ト稱シ競馬競走ニ際シ胴トナリタル者カ豫メ賭者ヲシテ優勝馬ヲ豫想指定セシメ其ノ豫想適中スルトキハ競馬主催者ノ爲ス配當金ト同率ノ拂戻ヲ爲シ然ラサルトキハ賭金ヲ胴ノ所得ト爲ス方法ノ下ニ賭博ヲ爲サンコトヲ共謀シ當日第六競走ニ際シ被告人松本武五ニ於テ胴トナリ被告人羽栗卯之助及原審相被告人荒木丑松ニ於テ各賭者ト爲リ同競走第七號馬ニ各金五圓ヲ賭シ以テ常習トシテ賭博ヲ爲シタルモノナリ

右事實ハ常習ノ點ヲ除キ原審第一回公判調書中被告人兩名ノ判示同旨ノ供述記載ヲ綜合シ之ヲ認メ得ヘタ常習ノ點ハ被告人松本武五カ昭和十三年三月二十三日大阪地方裁判所ニ於テ賭博罪ニ因リ罰金四百圓ニ處セラレタル外昭和三年以降昭和八年迄前後三回ニ互リ孰レモ賭博罪ニ因リ罰金刑ニ處セラレ又被告人羽栗卯之助カ(一)昭和七年七月十四日京都區裁判所ニ於テ賭博開張圖利常習賭博罪ニ因リ懲役一年六月(二)昭和十一年五月十四日大阪地方裁判所ニ於テ常習賭博罪ニ因リ懲役一年二月ニ各處セラレ當時孰レモ其ノ執行ヲ受ケ終リタル外昭和三年中賭博開張常習賭博罪ニ因リ懲役一年二月ニ處セラレタルコト夫々被告人等ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ旨ノ自白ニ依リ明ナルト被告人等カ孰レモ右最終受刑後幾何ナラスジテ更ニ本件犯行ヲ敢行シタル事跡トニ徴シ之ヲ認メ得ルヲ以テ判示事實ハ其ノ證明十分ナリ

法律ニ照スニ被告人兩名ノ所爲ハ夫々刑法第百八十六條第一項ニ該當スルヲ以テ被告人松本武五ニ對シテハ右所定期範圍内ニ於テ懲役四月ニ處スヘク被告人羽栗卯之助ニ付キテハ前示(一)及(二)ノ前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十九條第五十七條ニ依リ之ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役一年ニ處スヘク押收ニ係ル證第一號賭金中被告人羽栗卯之助所有ノ分ハ本件犯行ヲ組成シタルモノニシテ被告人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第一號第二項ニ依リ之ヲ沒收スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人石川惇三上告趣意書第一點原審裁判所ハ「俗ニ「吞屋」又ハ「握り」ト稱シ競馬競走ニ際シ胸トナリタル者カ豫メ賭者ヲシテ優勝馬ヲ豫想指定セシメ其ノ豫想適中スルトキハ競馬主催者ノ爲ス配當金ト同率ノ拂戻ヲ爲シ然ラサルトキハ賭金ヲ胸ノ所得ト爲ス方法ノ下ニ賭博ヲ爲サンコトヲ共謀シ當日ノ第六競馬ニ際シ被告人松本武五ニ於テ胸トナリ被告人羽栗卯之助原審相被告人荒木丑松ニ於テ各賭者トナリ同競走第七號馬ニ各金五圓ヲ賭シ以テ常習トシテ賭博ヲ爲シタルモノナリ」ト判示シ更ニ「右事實ハ常習ノ點ヲ除キ原審第一回公判調書中被告人兩名ノ判示同旨ノ供述記載ヲ綜合シ之ヲ認メ得ヘク常習ノ點ハ云々……」ト論述セラレタリ然レトモ右行爲カ果シテ賭博行爲ナリヤ又ハ競馬法違反トシテ罰セラルヘキモノナリヤニ付テ何等ノ説明モ爲サス即チ換言スレハ賭博罪ハ「偶

然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ賭スル」ニ依ツテ成立ス競馬ハ果シテ偶然ノ輸贏ナリヤ否頗ル疑ノ存スル處ナリ立法者ハ競馬行爲ハ所謂賭事ニ非ス即チ競走ノ結果ハ偶然ニ非ス馬ニハ一定ノ履歴アリ馬格アリテ容易ニ其ノ優劣ヲ判定シ得ルヲ以テ之ヲ以テ賭博行爲トハ云ヒ難シ近時競馬ニ於テ俗ニ穴ト稱シ何人モ豫期シ得サル結果ヲ生スルハ乘御者ノ驅引ニ基因スルモノニシテ騎手ノ詐欺行爲ノ結果ニ外ナラス之ヲ以テ直チニ競馬ヲ賭博化スルモノニ非スト云フニ在リ從テ本件ノ如キ競馬場内ニ發生シタル競馬類似ノ行爲ハ競馬法違反トシテ罰スヘキモノニシテ賭博罪トシテ處斷スヘキモノニ非ス此ノ點甚タ疑義ナシトセス茲ニ於テ競馬法ハ業トシテ爲ス場合ニ於テノミ罰則規定ヲ設ケラレタリ此ノ點ヨリ視ルモ疑義甚タ深カルヘシ然ルニ原審判決ハ本件ノ最重要ナル點競馬カ偶然ナル輸贏ナリヤ否即チ賭博行爲ノ對象タリ得ルヤ否ニ付一言ノ説明モナサス漫然前掲ノ如ク「……方法ノ下ニ賭博ヲ爲サンコトヲ共謀シ……同競走第七號馬ニ各金五圓ヲ賭シ……」云々ト論述去リテ省ミサルハ犯罪成立ノ根本ニ關シ判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルモノニシテ此ノ點ニ關シ原判決ハ破毀セララルヘキモノト信スト云フニ在レトモ

凡ソ偶然ノ輸贏トハ當事者ニ於テ確實ニ豫見シ又ハ當事者ノ意思ヲ以テ自由ニ支配スルコトヲ得サル事實ニ關シテ勝敗ヲ決スルコトヲ指稱スルモノニシテ判示競馬ノ競走カ被告人等ニ於テ確實ニ其ノ結果ヲ豫見シ又ハ自由ニ支配スルコトヲ得サル事實ナルコトハ敢テ多言ヲ要セサルヘク從テ原判決カ之

ニ關シ優勝馬ヲ豫想セシメ其ノ豫想適中ノ如何ニ依リ金錢ノ得喪ヲ約シタル所論事實ヲ以テ賭博行為ト目シタルハ正當ニシテ賭博罪ノ判示説明トシテ缺タルトコロアルヲ見ス而シテ競馬法第三十三條第三號ニ依レハ本法ニ依ル競馬ノ競走ニ關シ業トシテ多數ノ者ニ對シ財物ヲ以テ賭事ヲ爲シタル者ト規定シ之ヲ處罰スルトコロアリト雖是レ固ヨリ競馬ノ競走ニ關スル賭財ヲ以テ業トシテ爲スニ非サル限リ賭博罪ヲ構成セサルモノト解シタルカ爲ニ非スシテ寧ロ斯ル行為ハ本來刑法賭博罪ノ規定ニ該當スルコト勿論ナルモ競馬公認ノ制度ニ隨件シテ輒ク誘發セラルル虞アルト共ニ通常ノ賭博行為ニ比シ其ノ弊害ノ甚大ナルモノアルヲ考慮シ特ニ右法條ヲ揭ケ嚴重ニ之ヲ處罰セントシタルニ外ナラス從テ同法條ノ適用支配ヲ受クヘキ賭事ハ業トシテ即チ其ノ行為ヲ反覆繼續スルノ意思ノ下ニ多數人ヲ相手方トシテ行ヒタル場合ニ限定セラレ等シク競馬ノ競走ニ關シ多數ノ者ニ對シ財物ヲ以テ賭事ヲ爲スモ業トシテ爲シタルモノニ非サル場合即チ斯ル意思ノ存セサル場合ナルニ於テハ其ノ行為ノ場所競馬場ノ内外如何ヲ問ハス刑法所定ノ賭博行為トシテ同法ノ罰則ニ照シ之ヲ處斷セラルヘキコト當然ノ事理ナリトス所論ハ右ト異ナル見解ニ立脚シ原判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタル違法アリト論難スルモノニシテ採用ノ限ニ在ラス論旨理由ナシ

第二點原判決ハ本件被告人等ノ行為ヲ以テ常習ト認メ證據トシテ各被告人等ノ前科ヲ列舉セラレタリ判示ノ舉示セラレタル前科ヲ以テ常習ト認定セラレタルコトハ必スシモ不當ナリト云フヲ得ストスル

【要旨第一】

モ抑モ被告人等ノ前科ハ何レモ所謂賭博ニシテ手札ニ依ルモノトス然ルニ本件犯罪ハ競馬ニ因リ競馬場内ニ於テ行ハレタルモノナリ若シ夫レ投票券ヲ購入シタルトキハ正當ナル行為ナリ偶々投票券ヲ購ハスシテ同一ノ結果ヲ見ントシタルノミナリ從テ所論賭博行為トハ其ノ根本ニ於テ觀念ヲ異ニスルモノニシテ到底同一ノ觀念ヲ以テ律スルヲ得サルナリ然ルニ原判決ハ之等觀念ノ異ル前後ノ行為ヲ以テ同一慣習性ノ内ニ置キ本件行為ヲ常習賭博ナリト認定シタルハ犯罪ニ關スル重大ナル事實ニ付認認アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アルモノト愚考スル次第ナリト云フニ在レトモ

【要旨第二】

原判示常習賭博ノ事實ハ原判決摘錄ノ證據ニ依リ之ヲ認定シ得ヘク記錄ニ徵スルモ右事實ノ認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナシ而シテ常習トハ要スルニ習癖ノ發現トシテ賭博行為ヲ爲スノ謂ニ外ナラサルヲ以テ苟モ賭博ノ習癖アル者カ其ノ發現トシテ財物ヲ以テ偶然ノ輸贏ヲ爭ヒタル以上其ノ方法性質ノ如何ハ敢テ之ヲ問フノ必要ナク等シク常習賭博ト斷シ得ヘク從テ或一種ノ博戲ノ常習アル者カ他ノ博戲又ハ賭事ヲ爲シ若ハ或一種ノ賭事ノ常習者カ他ノ賭事又ハ博戲ヲ爲シタル場合ニ於テモ亦常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタルト謂フニ妨ケアルヲ見ス而モ論旨第一點ニ説明シタルカ如ク判示所爲ハ刑法賭博罪ニ該當シ其ノ競馬場内ニ於テ行ハレタルト否トハ毫モ之ヲ問ハサルモノナルカ故ニ原判決カ本件ニ關シ被告人等ノ賭博常習性ヲ認定スルニ判示前刑ヲ以テシ所論ノ如ク該前刑カ本件ト其ノ性質方法ニ於テ相異ナル賭博ナリシトスルモ如上ノ説明ニ徵シ固ヨリ不當

ナル認定ト論難スルヲ許ササルナリ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
仍テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事正木亮關與

○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十四年(九)第三一號
同年三月二十九日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 中山定次郎 辯護人 瀧本 實

外二名

【第一審】 富山區裁判所 【第二審】 富山地方裁判所

○判示事項

綿絲配給統制規則第三條第四條ト其ノ施行前ノ契約ニ基ク綿絲ノ引渡

○判決要旨

綿絲配給統制規則第三條第四條ノ規定ハ施行前ニ成立シタル賣買契約ニ基キ其ノ以後ニ履行トシテ綿絲ヲ引渡ス場合ニモ適用アルモノトス

【參照】 輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律昭和十二年法律第九十二號第二條
政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲メ必要アリト認ムルトキハ輸入ノ制限其ノ他ノ事由ニ因リ需給關係ノ調整ヲ必要トスル物品ニ付左ノ措置ヲ爲スコトヲ得

- 一 命令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ原料トスル製品ノ製造ニ關シ必要ナル事項ヲ命シ又ハ制限ヲ爲スコト
- 二 當該物品又ハ之ヲ原料トスル製品ノ配給、讓渡、使用又ハ消費ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコト

同法第五條 第二條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分又ハ其ノ命令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

同法第七條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ前第三條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前第三條ノ罰金刑ヲ科ス

綿絲配給統制規則第一條 綿絲(綿トステイブルファイバート)ノ流轉ヲ含ム以下同
綿絲配給統制規則第三條第四條ト其ノ施行前ノ契約ニ基ク綿絲ノ引渡

シ原料又ハ材料トスル製品ノ製造又ハ加工ヲ業トスル者(以下工業者ト稱ス)ハ地方長官ニ於テ又ハ商工大臣ノ指定シタル團體ニ於テ割當ヲ受ケ數量ヲ超エ綿絲ヲ原料又ハ材料ニ使用スルコトヲ得ズ但シ輸出品(滿洲國及關東州ニ輸出スルモノヲ除ク以下同シ)又ハ輸出品ノ原料若ハ材料ノ製造又ハ加工ノ爲使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

地方長官又ハ前項ノ團體ハ前項ノ規定ニ依リ割當ノ總數料ニ付商工大臣ノ承認ヲ受ケベシ

同法第二條 地方長官又ハ前條第一項ノ團體ハ綿絲ヲ原料又ハ材料トスル製品ノ製造又ハ加工ヲ業トスル者ニ對シ其ノ者ノ割當數量(委託ニ依リ製造又ハ加工ノ爲使用スル綿絲ノ割當數量ヲ除ク)ニ相當スル割當票ヲ交付スベシ

地方長官又ハ前條第一項ノ團體ハ前項ノ割當票ノ樣式ニ付商工大臣ノ承認ヲ受ケベシ

同法第三條 工業者ハ割當票ト引換フルニ非ザレバ其ノ使用スル綿絲(輸出品又ハ輸出品ノ原料若ハ材料ノ製造又ハ加工ノ爲使用スルモノヲ除ク)ヲ買受ケルコトヲ得ズ

同法第四條 工業者ニ對シ前條ノ綿絲ヲ販賣スル者ハ割當票ト引換フルニ非ザレバ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人中山定次郎ヲ罰金五百圓被告人中谷義三郎

ヲ罰金千圓被告人泊紡績株式會社ヲ罰金四千圓ニ各處ス右被告人定次郎、義三郎ニ於テ該罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金十圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞務役場ニ各留置ス(其ノ他省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人泊紡績株式會社ハ富山縣下新川郡泊町平柳五百番地ニ於テ綿絲、人造綿絲及其ノ他種類ノ製造販賣ヲ營ミ被告人中山定次郎ハ同會社ノ取締役社長トシテ其ノ業務一切ヲ統轄處理シ被告人中谷義三郎ハ同會社ノ專務取締役兼泊工場長トシテ其ノ製造販賣ノ業務ヲ管掌セルトコロ

第一 被告人中山定次郎、中谷義三郎ハ右泊紡績株式會社ノ業務ニ關シ共謀ノ上割當票ト引換フルニアラスシテ

(一) 大阪市東區南本町二丁目六番地綿織物製造販賣ヲ業トスル工業者中山織布株式會社ニ對シ昭和十三年四月中旬頃輸出品又ハ輸出品ノ原料若クハ材料ノ製造又ハ加工ノ爲メ使用スルニアラサル混紡絲(綿トステープルヲアイバートノ混紡絲以下同シ)四〇番手計五百七十七俵(百二十九捆四分一)ヲ代金四萬四千九百九十圓三十七錢ニテ賣渡ス旨ノ契約ヲ爲シ(但シ該賣買契約ハ之ヨリ先昭和十三年一月十日金島三三番手標準價格金二百六十九圓五十錢賣約數量八百駄ト定メテ賣買契約ヲ締結シタルモノヲ同年四月中旬頃番手價格モ一捆ニ付二十二圓五十二錢値上シテ前記契約ニ振替ヘテ契約ノ更改ヲ爲シタルモノナリ)昭和十三年五月四日ヨリ同年六月二十日迄ノ間ニ數回ニ互リ右中山織布株式會社ニ對シ該約定混紡絲ヲ引渡シ

(二) 大阪市東區北久寶寺町二丁目綿織物ノ製造加工販賣ヲ業トスル工業者丸山工業株式會社ニ對シ昭和十三年五月三十日頃輸出品又ハ輸出品ノ原料若クハ材料ノ製造又ハ加工ノ爲メ使用スルニアラサル純綿絲特種一〇番手計三百四十二俵(八十五捆二分一)ヲ代金二萬六千四百四十圓五十錢ニテ賣渡ス旨ノ契約ヲ爲シ昭和十三年五月三十日頃ヨリ同年七月十七日迄ノ間ニ二回ニ互リ右丸山工業株式會社ニ對シ該約定純綿絲ヲ引渡シ

綿絲配給統制規則第三條第四條ト其ノ施行前ノ契約ニ基テ綿絲ノ引渡

(三) 京都市東山區山科竹鼻堂前町綿織物ノ製造販賣ヲ業トスル工業者洛東織物工場主大野木秀次郎ニ對シ昭和十三年五月末頃輸出品又ハ輸出品ノ原料若クハ材料ノ製造又ハ加工ノ爲メ使用スルニアラサル純綿絲特種一六番手二十三依同一〇番手八十依計百三依(二十五細四分ノ三)ヲ代金七千七百二十五圓ニテ賣渡ス旨ノ契約ヲ爲シ昭和十三年六月二十日右大野木秀次郎ニ對シ該純綿絲ヲ引渡シ

(四) 東京市日本橋區馬喰町二丁目メリヤス製造販賣ヲ業トスル工業者菅谷爲吉ニ對シ昭和十三年四月中頃輸出品又ハ輸出品ノ原料若クハ材料ノ製造又ハ加工ノ爲メ使用スルニアラサル混紡絲一〇番手七十依一六番手百七依三二番手百十二依計二百八十九依(七十二細四分ノ一)ヲ代金三萬二千三百十五圓ニテ賣渡ス旨ノ契約ヲ爲シ昭和十三年六月四日ヨリ同月十五日迄ノ間ニ數回ニ互リ右菅谷爲吉ニ對シ該混紡絲ヲ引渡シ

テ以テ各販賣シ

第二 被告人中谷義三郎ハ單獨ニテ前記泊紡績株式會社ノ業務ニ關シ

(一) 昭和十三年六月二十九日ヨリ同年八月二十四日迄ノ間ニ地方長官ノ許可ヲ受ケテシテ輸出品又ハ輸出品ノ原料若クハ材料ニ用フルモノニアラサル純綿絲一〇番手九百三十六依一六番手二百一十一依二〇番手四百七十九依三〇番手五十三依ノ各綿絲計千六百七十九依(四百十九細四分ノ三)ヲ前記泊工場ニ於テ引續キ製造シ
(二) 輸出品又ハ輸出品ノ原料若クハ材料ニ使用スルモノ及地方長官ノ許可ヲ受ケ製造シタル綿絲ニアラサルモノハ小賣ヲ除キ商工大臣ノ指定シタ大日本紡績聯合會外六團體以外ノ者ニ對シ之ヲ販賣スルヲ得サルニ拘ラス
(イ) 前記團體ニ屬セサル前記丸山工業株式會社ニ對シ昭和十三年六月二十九日ヨリ同年七月十七日迄ノ間ニ數回ニ互リ輸出品又ハ輸出品ノ原料若クハ材料ニ使用スルモノニアラス且地方長官ノ許可ヲ受ケ製造シタルニアラサル純綿絲一〇番手三百四十二依特種二〇番手六十一依同三〇番手四十九依ノ各綿絲計四百五十二依(百十

三細)ヲ代金三萬三千八百二十九圓七十四錢

(ロ) 前記團體ニ屬セサル前記洛東織物工場主大野木秀次郎ニ對シ昭和十三年七月二十日ヨリ同年八月十四日迄ノ間ニ數回ニ互リ前同様ノ純綿絲一〇番手八百三十六依一六番手二百一十一依二〇番手四百七十九依計千四百五十四依(二百六十三細二分ノ一)ヲ代金十萬千七百八十圓

ニテ各販賣シ

第三 被告人泊紡績株式會社ニ於テハ同會社取締役社長ナル被告人中山定次郎及同事務取締役ナル被告人中谷義三郎ノ兩名カ共謀ノ上同會社ノ業務ニ關シ前示第一ノ(一)乃至(四)ノ所爲被告人中谷義三郎カ單獨ニテ同會社ノ業務ニ關シ前示第二ノ(一)(二)ノ所爲ヲ爲シ

タルモノニシテ前示第一ノ(一)乃至(四)第二ノ(一)及(二)ノ(イ)(ロ)ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ

法律ニ照スニ被告人中山定次郎ノ所爲ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律(昭和十二年九月十日法律第九十二號)第二條綿絲配給統制規則(昭和十三年三月一日商工省令第六號)第四條輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律(昭和十二年九月十日法律第九十二號)第五條刑法第六十條第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人中山定次郎ヲ罰金五百圓ニ處スヘク被告人中谷義三郎ノ所爲中判示第一ノ所爲ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條綿絲配給統制規則第四條輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第五條刑法第六十條第五十五條ニ判示第二ノ(一)ノ所爲ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條綿絲製品ノ製造制限ニ關スル件(昭和十三年六月二十九日商工省令第三十七號)第一項輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第五條刑法第五十五條ニ判示第二ノ(二)ノ所爲ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條綿絲製品ノ販賣制

限ニ關スル件(昭和十三年六月二十九日商工省令第三十九號)第一項綿製品ノ販賣制限ニ關スル件第一項ニ依ル指定(昭和十三年七月四日商工省告示第七十五號)輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第五條刑法第五十五條ニ各該當シ以上判示第一、第二ノ(一)第二ノ(二)ノ各所爲ハ刑法第四十五條所定ノ併合罪ニ係ルヲ以テ夫々所定刑中罰金刑ヲ選擇シ刑法第四十八條第二項ヲ適用シ所定合算額範圍内ニ於テ被告人中谷義三郎ヲ罰金十圓ニ處スヘク被告人泊紡績株式會社ノ判示第三ノ所爲ハ判示第一ノ綿絲配給統制規則違反第二ノ(一)ノ綿製品製造制限違反第二ノ(二)ノ綿製品販賣制限違反ノ各點ニ付判示被告人中谷義三郎ニ對シ摘示セル法律ニ該當スルヲ以テ夫々輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第七條ニヨリ處斷スヘク以上ハ刑法第四十五條所定ノ併合罪ニ係ルヲ以テ同法第四十八條第二項ヲ適用シ其ノ所定合算額範圍内ニ於テ被告人泊紡績株式會社ヲ罰金四千圓ニ處スヘク而シテ被告人中山定次郎、中谷義三郎ニ於テ前記罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ夫々刑法第十八條ニ則リ金十圓ヲ一日ニ換算シタル期間何レモ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人瀧本眞上告趣意書第一點ハ原判決ハ本件公訴第一事實タル泊紡績株式會社ヨリ中山織布株式會社、丸山工業株式會社、洛東織物工場及管谷商店ニ對シ無罪ニテ綿糸ヲ賣渡シタル行爲ニ付有罪ノ認定ヲ爲シ此ノ行爲ニ關シ販賣ノ衝ニ當リタル行爲者タル專務中谷義三郎ニ對シ刑責ノ負擔ヲ命スルト同時ニ社長中山定次郎ヲ以テ共犯者ナリト認定シテ兩者間ニ共同正犯關係ノ成立ヲ認メタリコハ法則ヲ不當ニ適用セル違法アルモノト信ス蓋シ社長中山定

次郎ニ刑法第六十條所定ノ「共同シテ犯罪ヲ實行シタル」行爲ノ存在セサル事ヲ確信スレハナリ即チ本件ノ嫌疑ヲ蒙リタル唯一ノ原因ハ昭和十三年三月一日前後ニ於ケル社長中山ト專務中谷ト會談シタル事實之ナリ其ノ會談ノ内容タルヤ罪トナル可キ事實ニ關スル會談ニアラス之ヲ專務中谷ノ言ニ聞クニ同人ハ第二審公判廷ニ於テ陳述シテ曰ク「私カ本件ニ付警察及檢事ノ取調ヲ受ケタ當時私ノ考ヘト取調官ノ御考ヘト違ツテ居タノテアリマス取調官ハ昭和十三年三月一日以後ハ悉ク割當票カ要ルモノトノ御見解ノ下ニ取調ヘラレタノテアリマスカ一般同業者間ニモ夫レニ付テ疑問カアツタノテ私ハ昭和十三年三月一日以前ノ契約ノ履行テアルカラ割當票ノ必要カナイモノテアルト思ヒヒ文ノ根據モナク常識的ニ自信モナクシテ三月一日以前ノ契約ノ履行テアルカラ差支ヘナイモノテアルト思フト申シタノテアリマス夫レテ私ハ當然不問ニ付セラルルモノト思ツテ居タノテアリマス私カ昭和十三年二月末日カ三月初頃ニ大阪市東區南本町二丁目六番地ノ社長中山定次郎ノ自宅ヘ行キ社長ト二人切リノ所テ當時三月一日以前契約シタルモノニ對スル履行ニ付割當票カ要ルカ何ウカ判明シナカツタノテアリマシタカ割當表ヲ要スルモノト假定シ中山社長ニ對シ愈々統制セラルルコトニナツテ割當票ナクシテハ綿糸ノ引渡カ出來ヌ様ニナツタ爲既契約ノモノヲ引渡スニモ割當票カ要ル故規則通り遺ルト會社ノ仕事ヲ止メネハナラヌカラ規則ニ觸レルカモ知レヌカ之迄通り仕事ヲ遺ツテ行キマスト云フテ報告ニ止メタニ過キナイノテアツテ相談シタ譯テハアリマセヌ泊紡ノ昭和十三年二月末ニ於ケル原綿手持高ハ約九千六百貫テ之ヲ綿糸ニ換算スレハ千七百六十捆餘リトナルノテアリマス二月末ノ綿糸賣約未渡高ハ千六百捆テ三月ヨリ六月迄ノ四箇月間ニ於ケル綿糸實際生産高ハ千四百捆テアリマシタノテ二月末ニ於ケル手持原綿ニテ今後約五箇月間即チ七月迄生産スル丈ノモノカアリ二月末ニ於ケル既契約綿糸ヲ製造スルニハ約四箇月半ヲ要スル狀態テアリマシタノテ急イテ紡聯へ原綿ヲ仰ク必要モナク又既契約ノモノヲ作ルニサヘ約四箇月半ヲ要シ又手持品テ既契約ノ綿糸ヲ製造スレハ百捆分シカ殘ラナイノテ規則ヲ犯シテ新規ニ買主ヲ求メル必要ハナク餘地モナカツタノテアリマス定

款ノ第二十五條ニ依レハ社長ハ會社ヲ代表シ定款株主總會及役員會ノ決議ニ基キ會社全般ノ業務ヲ統理ス事務取締役
 ハ日常ノ業務ヲ掌管ストアツテ原料ノ買入製品ノ販賣綿糸ノ製造ハ日常ノ業務ニシテ事務テアル私カ定款ノ規定ニ依
 リ獨斷專行シ其ノ間社長ノ命令ヲ受ケ又ハ協議共同ノ行爲ノ必要カナインテアリマス(ソシタラ中山社長ハ何ント云
 ツタカ)萬已ムヲ得スタラウ規則ニ觸レヌ様ニ違ツテ吳レト云ハレマシタト供述シ居レリ本件ハ綿糸配給統制規則
 第四條違反ノ行爲ナリ同條ハ「工業者ニ對シ前條ノ綿糸ヲ販賣スル者ハ割當票ト引換フルニ非サレハ之ヲ販賣スルコ
 トヲ得ス」ト規定シテ販賣行爲ヲ統制シタルモノナリ販賣行爲ハ賣買契約ノ締結トシテ引渡即チ履行行爲ノ兩者ヲ含
 ム故ニ前記規則施行ノ日タル三月一日以後ニ新規ニ賣買契約ヲ締結シ之カ履行ヲ爲シタルモノハ犯罪トナルナリ然ラ
 スシテ三月一日以前ニ賣買契約カ成立シ其ノ履行行爲即チ引渡行爲ノミカ三月一日以降ニ持越サレタル時ハ前ニ成立
 シタ契約ノ履行ナレハ犯罪トナラス既契約ノ履行行爲ハ違法性ヲ有セサルモノナリ犯罪ノ成否ハ行爲當時ヲ標準トシ
 テ之ヲ決ス行爲當時犯罪トナラサリシモノカ其ノ後ノ事情ニ因リ犯罪トナル可キ理ナシ既契約ノ履行ハ斷シテ犯罪ト
 ナラサルナリ商工當局モ此ノ理論ヲ認メテ昭和十三年十月三十一日一三調四第二一一號ニ於テ「各省令ニ謂フ販賣
 ノ意義如何」トノ照會ニ對シ明確ニ「販賣トハ販賣契約ノ謂ニシテ別段ノ規定(例ハ本令施行前ニ爲シタル契約ニヨ
 ル引渡ヲ含ム)ナキ限り賣買約定ノ際販賣行爲カ成立スルモノト解ス從ツテ省令施行前ニ販賣契約成立シ居リ目的物
 ノ引渡代金ノ決済等ヲ省令施行後ニナスモノハ省令ニ謂フ販賣ニ該當セス」ト解答シ居レリ加之今回ノ統制法規ノ用
 語例ヲ觀ルモ賣買契約ノ締結行爲ト分離シテ引渡行爲ノミヲ處罰スル場合ハ綿糸販賣制限規則ノ如ク「綿糸(中略)
 ハ商工大臣ノ指定シタル以外ノ者ニ對シ之ヲ販賣(本令施行前ニ爲シタル引渡ヲ含ム)スルコトヲ得ス」ト規定シテ
 之ヲ明確ニシ居レリ故ニ斯ノ如ク引渡行爲ノミヲ罰スル特段ノ規定ナキ限り引渡行爲即チ履行行爲ハ三月一日以前ニ
 成立シタル賣買契約ニ關スルモノナル限り犯罪トハナラサルナリ之ヲ本件ノ事實ニ付キテ仔細ニ觀察スルニ事務中谷

カ社長中山ニ報告シタル事柄ノ内容ハ既契約ノ履行ニ付自己ノ決意ヲ披瀝シタルモノナリ既契約ノ履行ノ點ニ付キ兩
 者ニ意見ノ一致ヲ見ルモ罪トナル可キ事實ニ關スルモノニアラス即チ犯罪ノ行爲ニ關セス兩者會談ノ内容カ客觀的ニ
 見テ罪トナル可キ事實ニ關セサル以上兩者ニ共同シテ犯罪ヲ實行スヘキ對象ヲ缺カス故ニ犯罪實行ノ謀議ト認ムヘカ
 ラサルヤ必セリ而シテ三月一日當時泊紡績株式會社ニ新規ニ買主ヲ物色シテ法ニ觸ル可キ販賣行爲ヲナス可キ必要毫
 モ存在セス又其ノ餘地モ存在セザリシ事ハ其ノ當時ノ會社ノ實狀ハ雄辯ニ之ヲ證明シ居レリ即チ當時ノ會社既契約數
 量ハ一千六百捆ニシテ三月ヨリ六月迄四箇月半ノ引渡維持高ヲ有シ手持原綿數量ハ一千七百六十捆ニシテ三月ヨリ七
 月迄五箇月ノ生産維持高ヲ有シ居レリ且ツ實際製造セシ生産高ハ三月ヨリ六月迄四箇月間ニ一千四百捆ニシテ新規ニ
 法ニ觸ル可キ販賣行爲ヲナサムトスルモ當時紡績未加盟會社タリシ同社トシテ製造スヘキ原綿ヲ有セス製造スヘキ能
 力ヲ有セス新規販賣ノ必要モ無ク餘裕モナク且ツ不可能ナリシ實狀タリシナリ故ニ事務社長兩者ノ會談ノ内容ハ既契
 約ノ履行ノ點ニ在リシモノニシテ新法規ノ解釋ニ官民共ニ成熟セス不馴ノ結果幾多ノ疑義ヲ有シ既契約ノ履行ハ正當
 ナル解釋トシテハ犯罪性ヲ有セザリシモノナルニ不兩者ハ之ヲ確信スルコト能ハス危惧ノ念ヲ有シ宛カモ犯罪性ヲ
 有スルモノナルカノ如ク誤信セシ心理狀態ハ本件記録ヲ讀ムニ及ヒ歷々指摘シ得ルナリ然レトモ新規契約ヲ爲ス可キ
 必要モ能力モナカリシ點ハ事實ナルヲ以テ兩者ノ會談ハ罪トナル可キ事實ニ關セス依テ此ノ點ニ於テ共犯關係成立ノ
 要素ヲ缺カセルモノト云ハサル可カラス更ニ本件ハ事務中谷社長中山間ニ共謀ノ事實存在セス御院判例ハ夙ニ共同正
 犯關係ノ成立ニ「相謀リ」又ハ「謀議シテ」ナル文字ヲ使用セラレテ共謀ノ事實ヲ以テ其ノ要素トセラレ(御院昭和
 三年(れ)第一四八號判決)實行行爲ニ加擔セサル場合ト雖モ其ノ價值同一ナル場合ニ共謀ノミヲ以テ共同正犯關
 係カ成立スル旨判示セラレ居レリ(御院昭和五年(れ)第二〇九〇號判決)然レトモ本件三月一日前後ニ於ケル兩者
 ノ會談ハ何等謀議シタルモノニ非ス相謀リタルモノニモ非ス單ニ事務中谷力自己ノ決意ヲ社長中山ニ報告シタルニ止

綿絲配給統制規則第三條第四條ト其ノ施行前ノ契約ニ基キ綿絲ノ引渡

マルモノナリ即チ所信ノ披露ハ共謀ト見ル可キニ非ス綿糸配給統制規則ハ綿糸ノ製造行為ヲ禁止セス之ヲ業者ノ自由ニ委シ單ニ販賣行為ノミヲ統制セルナリ故ニ綿糸ノ販賣行為ハ事務中谷ノ獨斷擅行シ得ル權限内ノ行為ナルヤ將タ社長中山ニ相談ヲ必要トスル行為ナリヤ而シテ從來何人カ如何ナル狀況ニ於テ之ヲ取扱ヒ居リタルヤ之共謀關係ノ有無成否ヲ決定スル唯一ノ關鍵タリ事務中谷ハ昭和十三年九月四日司法警察官ニ對シ陳述シテ曰ク「更ニ具體的ニ現在ノ狀況カラ申シマスレハ私ハ此ノ會社ヲ設立シタモテ爾今會社ノ事務ハ全部統轄シテ居リマスノ社長ハ謂ハハ名目丈ケ位ト云フテ可ナリテアリマス從ツテ平常ハ私力對内的ニ一切ノ事務ヲ決裁シ對外的ニモ單獨テ（社長代理ニ非サルコト）業務ヲ處理シテ居ルモノテ社長ハ大阪市ニ居住シテ居ル關係モアリ殆ント株主總會ニ出席シテ社長ノ役ヲ全ウスルニ過キマセン」ト述ヘ事實上泊紡織株式會社ノ對内對外ノ一切ノ事務ヲ事務中谷カ單獨ニテ社長ニ相談スルコトナク統轄處理シ居リシ事實ヲ認メ得ヘク社長中山ハ此ノ事實ヲ裏書シテ曰ク（昭和十三年九月四日司法警察官ニ對スル陳述）「私ハ前申シマシタ如ク大阪市ニ在住シテ居ル者テアリマスノテ實際ハ株主總會重役會ニ臨ムノト増資又ハ金融ニ對スル相談ヲ受ケル程度ニ過キマセン從ツテ同會社日常ノ決裁處理及經營ノコトハ總テ取締役事務タル中谷義三郎カヤツテ居ルノテアリマス」ト陳述シ事務中谷ノ事實上ノ權限ノ内容ヲ明確ニシ居レリ綿糸ノ販賣行為ハ會社經營ニ關スル行為ニシテ事務中谷カ統轄處理シ居リシ事ハ明白ナリトス之ヲ右會社定款第二十五條ノ規定ニ徵スルモ「事務取締役ハ日常ノ業務ヲ管掌ス」ト在リテ綿糸ノ販賣行為カ日常ノ業務ニ該當スヘキ事殆ント疑ヲ容ルルノ餘地存セス而シテ右會社商業登記簿ヲ查閱スルモ同會社ニハ會社代表スヘキ取締役（商法第一七〇條所定）ノ定メナク三名ノ取締役ハ商法上何レモ單獨ニ完全ニ有效ニ會社代表スヘキ權限ヲ有スル事商法第一七〇條ニ因リ明ナレハ此ノ點ヨリ觀ルモ事務中谷ニ綿糸販賣ニ付適法ナル權限カ存在シタルモノナリ既ニ權限カ存在シ定款ノ規定ニヨリテモ之ヲ認メラレ且ツ事實上ニ於テモ會社内外ノ事務ヲ大小トナク之ヲ處理決裁シ居リ本件綿糸ノ販賣行為ニ付テモ自ラ

買主ヲ物色シ價格ヲ協定シ賣買契約ヲ締結シ其ノ履行行為ヲモ擔任シタルモノナレハ法律上事實上事務中谷ハ何人ノ拘束ヲ受クルコトナク綿糸ノ販賣行為ヲ爲シ得ヘク又之ヲ爲シタルモノナレハ社長中山ニ之ヲ相談スル必要ハ毫モ存在セザリシナリ本件ノ三月一日ノ會談ハ事務中谷カ大阪市ニ出張シタルヲ幸ヒニ社長中山ニ面會シテ自己ノ決意ヲ報告シタルニ過キサルモノニシテ之ヲ以テ相謀リ又ハ共謀シタリトハ斷シテ云フコト能ハスト信ス加之本件ハ社長中山ニ何等ノ行為ナキモノナリ犯罪ヲ共同實行シタルモノニ非ス何等現實行爲ニ加擔セス既契約ノ履行ニ關スル事務中谷ノ決意ヲ披露サレ之ヲ了承受領シタルニ止マルモノナリ故ニ之カ共同加功行為ヲ爲セルト同一ノ行為ナリトハ認ムルコト不能ニシテ單純ナル事務中谷ノ報告又ハ決意ノ披露ト見ル時初メテ事實ノ真相ニ合致スルナリ假ニ一步ヲ讓リ社長中山カ事務中谷ノ行為ヲ阻止セザリシ點カ不當ナリトスルモコハ會社内部ノ統制ノ問題ニシテ株主ニ對シ權利義務カ發生スルニ止マリ不作爲ニ因リ共同犯罪行為ヲ爲セリトハ觀ル可キ餘地毫モ存在セザルナリ事務中谷ニ於テ既ニ自己ノ法律上事實上獨自有ノ權限ヲ以テ綿糸販賣行為ノ履行ナル確固タル決意ヲ包藏シ此ノ事ヲ社長中山ニ報告シタリトスルモ被告ノ動作ニヨリ此ノ決意カ増減セシメラレタルニ非ス此ノ事ヲ以テ被告ニ共同實行ノ行為アリタリト觀ルハ甚シク不可解ノ所論タルヲ免カレス以上論スルカ如ク原審カ社長中山ニ共犯關係ノ成立ヲ認メタルハ不法ニ法則ヲ適用セル違法アリ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニ在レトモ

綿糸配給統制規則第四條ノ規定ハ昭和十三年三月一日以前ニ賣買契約ヲ締結シ同日以降ニ其ノ履行トシテ綿糸ヲ引渡ス場合ニモ其ノ適用アルモノナルコト論旨第三點ニ對シ説明スルコトコロノ如シ而シテ原判決舉示ノ證據ニ依レハ被告入義三郎、定次郎ノ兩名ハ共謀即意思相通シテ原判決判示第一ノ行為ヲ爲シタル事實ヲ認ムルヲ得ヘク被告入定次郎ハ被告人會社ノ社長被告人義三郎ハ同會社ノ事務取締役ニシテ其ノ權限ハ所論定款ノ如クナルコトハ毫モ上級共謀ノ認定ヲ爲スノ妨ケトナルモノニ非ス從テ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ

同第二點ハ原判決カ公訴第一事實タル割當票ニ因ラスシテ綿糸ノ販賣ヲ爲シタル行爲ヲ犯罪ト認定シタルハ法律上罪トナラサル事實ヲ犯罪ト認メタルモノニシテ法則ノ不當ナル適用ナリト信ス昭和十三年三月一日施行綿糸配給統制規則第四條ハ「工業者ニ對シ前條ノ綿糸ヲ販賣スル者ハ割當票ト引換フルニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス」ト規定ス此ノ規定ニ違反シテ中山織布株式會社外三名ニ綿糸ヲ無票ニテ販賣セリト云フカ公訴第一事實ナリ然レトモ泊紡績株式會社ハ大日本紡績聯合會ノ未加盟會社即チアウトサイダーニシテ此ノ勅令ニ因ル統制ノ範圍外ナリ一面ヨリ云ヘハ統制洩ナリ斯ノ如キ紡績會社ハ當時全國ニテ六社程アリ八月二十五日商工省令第七十六號ニテ輸出綿製品配給統制規則中別表甲號ニ追加指定セラレタル泊紡績株式會社、東邦紡績株式會社、西川紡績所西川爲次郎等カ之ニシテ据付鍾數モ七萬鍾位ニシテ現在日本内地合計總据付鍾數千萬鍾ニ對シ比率ハ千分ノ七程度ナリ泊紡績ハ一萬五千鍾ナレハ千分ノ一・五ニ當ルナリ當時(三月一日)之等ノ會社ハ大日本紡績聯合會ニ加入シ居ラザリシ會社ニシテ非加盟會社即チアウトサイダータリシナリ然レトモ鍾數比率ヨリ云ヘハ千分ノ七ナレハ申スニモ足ラサル弱小勢力ニシテ當局カ之ヲ統制ノ範圍外ニ置クモ猶且ツ千分ノ九百九十三ノ最大多數ヲ統制内ニ置キ得タリシモノナレハ非加盟會社ノ如キハ本勅令發布ノ急速火急ノ場合ニ此ノ程度ノ統制洩レハ寧ロ當然ニシテ已ムヲ得ザリシモノナリ泊紡績株式會社カ紡聯ニ加盟セサルアウトサイダータリシコト他ニモ同種ノ會社カ存在セシコト其ノ實鍾數ハ極メテ弱小ニシテ千分ノ七程度ナリシコトハ前述ノ如シ進ミテ何カ故ニアウトサイダー會社カ本規則ノ適用ヨリ除外セラルルカノ點ニ付論及セムトス(イ)政府カ「昭和十二年法律第九十二號第二條ノ規定ニヨリ棉花ノ輸入制限ニ伴ヒ綿糸ノ需給ヲ調整スル爲」採用セル措置ハ第一ニ商工省令第六號綿糸配給統制規則トナリテ現ハレタリ此ノ配給統制ノ方法ハ本規則ノ第一條ト第二條ニヨリ明カニシテ政府カ團體ヲ指定シテ其ノ團體ノ手ニヨリ團體員ヲ統制シ拘束スル方法ヲ採リタルナリ此ノ統制ヲ自治統制ト云ヒ電力ノ如ク國家カ管理スル自治統制トハ異リタル方法ヲ採用セリ勿論兩者ニハ各々長所ト短所

ヲ具有スルモノナレトモ本規則ニ關スル限り時ノ關係ニ於テ財政ノ關係ニ於テ自治統制主義ヲ採ラサルヲ得ザリシナリ其ノ爲ニ千分ノ七ノ統制洩レヲ生スルモ已ムヲ得ザリシモノニシテ完全ナル統制ハ自治統制ニ於テハ不可能ニシテ自治統制ニ於テノミ其ノ完璧ヲ見得ルナリ而シテ如何ナル方法ノ自治統制主義ヲ採リタルカハ本規則第一條ト第二條トニ因リ明カニシテ第一條第一項ハ「綿糸(縮トステールフアイバートノ混紡糸ヲ含ム以下同シ)ヲ原料又ハ材料トスル製品ノ製造又ハ加工ヲ業トスル者(以下工業者ト稱ス)」ト規定シ此ノ第一條第一項前半ニテ工業者ナルモノノ有權解釋ヲ施シタルナリ續キテ「(工業者ハ)地方長官ニ於テ又ハ商工大臣ノ指定シタル團體ニ於テ割當テタル數量ヲ超エ」ニテ工業者ニ割當ツル綿糸ノ數量ノ決定權ヲ地方長官又ハ指定團體ニ賦與シタルナリ然ル處實際ニ於テ地方長官ハ割當ヲ行ハス之ヲ行フ者ハ指定十三團體(三月一日商工省告示第四十八號綿糸配給統制規則第一條第一項ノ規定ニ依ル團體)ノ内日本綿織物工業組合聯合會俗稱綿工聯カ之ニシテ割當票ヲ發行シ居レリ第一條第一項ハ續キテ「割當テタル數量ヲ超エ綿糸ヲ原料又ハ材料ニ使用スルコトヲ得ス」ト規定シテ工業者ニ對シ割當數量ヲ超エテ使用スルコトノ禁止義務ヲ課シ但シ書ニ於テ輸出品ノ例外ヲ認メタルナリ「但シ輸出品(滿洲國及關東州ニ輸出スルモノヲ除ク以下同シ)又ハ輸出品ノ原料又ハ材料ノ製造又ハ加工ノ爲使用スルモノハ此ノ限りニアラス」而シテ第一條第二項ニ於テ自治統制ニ對スル政府監督ノ規定カ存在シ「地方長官又ハ前項ノ團體ハ前項ノ規定ニ因ル割當ノ總數量ニ付商工大臣ノ承認ヲ受クヘシ」第二條第一項ハ「地方長官又ハ前條第一項ノ團體ハ綿糸ヲ原料又ハ材料トスル製品ノ製造又ハ加工ヲ業トスル者ニ對シ其ノ者ノ割當數量(委託ニ依ル製造又ハ加工ノ爲使用スル綿糸ノ割當數量ヲ除ク)ニ相當スル割當票ヲ交付スヘシ」ト規定シテ指定團體ニ對スル割當票交付義務ヲ課シ第二項ニ於テ政府ノ監督權ヲ發動セシメ居レリ「地方長官又ハ前條第一項ノ團體ハ前項ノ割當票ノ様式ニ付商工大臣ノ承認ヲ受クヘシ」此ノ第一條第二條ニヨリ知り得ルコトハA、十三團體ヲ指定シテ割當數量ノ決定權ヲ與ヘタルコトB、十三團體ニ割當票發行義務

綿糸配給統制規則第三條第四條ト其ノ施行前ノ契約ニ基テ綿糸ノ引渡

ヲ課シタルコトC、工業者ニ對シ割當票ニヨル取引ヲ施行セシメタルコト之ナリ十三團體ハ總テ組合ナリ組合ハ契約關係ナリ民法組合ノ規定ノ支配ヲ受ク可キ債權關係ナリ「契約ハ第三者ヲ利セス害セス」ノ法諺ノ如ク組合ノ拘束シ得ル者ハ組合ノ構成分子タル組合員ニ止マルモノト云ハサルヘカラス辯護人カ義キニ自治統制トハ「業者ノ團體ニ依ル業者ノ統制」ト云ヒシ趣旨ハ茲ニ存ス十三團體ノ何レニモ屬セサルモノハ之等ノ團體ノ拘束ヲ受ケス又保護モ受ケス泊紡績株式會社ハ紡績ニ加四セサルヲ以テ原棉配給ノ保護ヲ受ケサリシナリ然レトモ他面義務ヲモ負擔セサリシナリコハ組合員外ナルコトノ當然ノ歸結ナリ泊紡績ハ紡績及夫レ以外ノ十二團體何レニモ加入セス依テ之等ノ團體ハ組合員ヲ拘束スルコトハ可能ナル可キモアウトサイドタル純無所屬ノ泊紡績ヲ拘束シ得ル團體ハ十三團體中一個モ存在セサリシナリ依テ割當票取引ニ超然トシテ綿糸ノ販賣ハ法律上可能ナリシナリ買受ケタル側ノ工業者ノ責任ハ自ラ別問題ナリ故ニ此ノ規則第四條ノ「工業者ニ對シ前條ノ綿糸ヲ販賣スル者」ト云フハ第三者ノ工業者カ割當票ト引換ニ綿糸ヲ買受ケル先キノ事ニシテソハ綿工聯ニ加入セル綿糸商(即チ糸屋)ノコトナリ工業者ハ機屋ナリ普通糸屋ヨリ即チ綿糸商ヨリ糸ヲ買入ルル際其ノ取引ニ割當票ヲ要スト云フカ第三條ノ規定ナリ故ニ第四條ノ「前條ノ綿糸ヲ販賣スル者」トハ糸屋ノコトニシテ紡績會社ノ意味ニ非サルコトハ取引ノ實情ヲ知悉セル者ノ容易ニ了解シ得ル事柄ナリトス紡績會社カ直接機屋即チ工業者ニ對シ綿糸ヲ販賣シ居レル處ハ絕對ニ存在セス總テ綿糸商ニ卸シ綿糸商カ機屋ニ販賣スル機構ニナリ居レリ此ノ機構ヲ法文ニ表現セルモノカ第四條ノ「綿糸ヲ販賣スル者」ナリ故ニ之ヲ紡績會社ト讀ム解釋ハ綿糸配給機構ニ對スル認識不十分ナリト稱スルモ過言ニ非スト信ス泊紡績ハ十三團體ノ何レノ組合員ニモ非サルヲ以テ理論上統制外ナリ第四條ハ本規則ノ統制ヲ受ク可キ組合員間ノ取引ナルコトヲ前提トシ統制外ノ者ハ第四條ノ支配ヲ受ク可キ範圍外ナルコトハ當然ナリト信ス(ロ)政府ハ四月二日商工省告示第九十四號ニテ此ノ自治統制ノ範圍ヲ擴張セリ即チ日本網網工業組合日本麻織物工業組合聯合會外三組合カ追加指定セラレタリ然レトモ泊紡

績ハ此ノ追加指定五團體ノ何レニモ加入セス故ニ拘束ヲ受ケサリシモノナリ此ノ追加組合ノ組合員ハ四月一日以後ハ割當票ニ依ル拘束ヲ受ク可キコト當然ナルモ三月三十一日迄ハ泊紡績ト等シク統制範圍外ノ立場ナリシコト勿論ナリ泊紡績ハ八月二十五日紡聯ニ加入シテ別表甲號ニ指定セラレタリ是ニ因リアウトサイドヨリ脱シタルモノナルモ其ノ反面夫レ迄ノ行為ニ該當スル公訴第一事實ニ付テハ法律上罪トナラサルモノナリ原判決ハ之ニ對シ有罪ノ認定ヲ爲シ且ツ社長中山ニ共同正犯關係ヲ認メタルハ甚シク失當ニシテ破毀セラルヘキモノナリト信スト云フニ在レトモ綿糸統制規則第四條ハ工業者ニ對シ前條ノ綿糸ヲ販賣スル者ト規定シ而モ何等除外スルトコトナキカ故ニ同條ノ規定ハ被告人會社ニモ其ノ適用アルコト勿論ナリ所論ハ地方長官ニ於テ所論ノ割當票ヲ交付シ得ルコトヲ顧ミサルモノニシテ採用ニ値セス從テ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ

同第三點ハ原判決ハ公訴第一事實中(イ)ノ行為即チ中山織布株式會社ニ對シ昭和十三年五月四日ヨリ同年六月二十日迄ニ混紡絲四〇番手五一七俵(百三十九欄1.4)ヲ代金四萬四千九百九十圓三十七錢ニテ賣渡シタルハ無票取引ナリトシテ有罪ノ認定ヲ爲シタリ然レトモ以下述フルカ如ク違法ナル法則ノ適用ナリト信ス商工省ハ昭和十三年九月二十一日附ヲ以テ日本綿絲元賣商業組合ニ對シ回答ヲ發シテ曰ク「賣買品ノ振替ニ付異番手品ノ振替ノ場合ト同番手異銘柄振替ノ場合ニ付テハ新規契約ト見ル但最高標準價格ニ抵觸セサル分ノ振替ハ差支ナク格差ヲ異ニスル場合規定ノ格差ヲ以テ値段ヲ附スレハ差支ナシ」トアリ即チ異番手ノ振替ハ不可ナリ番手ヲ等クスルモ異銘柄ノ振替モ不可ニシテ新規契約ト見ル但シ最高標準價格ニ抵觸サヘセサレハ其ノ振替ヲ許容ス賣買品ノ格ニ差アル時ハ値段ヲ格

綿絲配給統制規則第三條第四條ト其ノ施行前ノ契約ニ基テ綿絲ノ引渡

上ケシ又ハ格下ケサヘスレハ可ナリ番手カ異ナリ銘柄カ變レハ當然其處ニ格差ト云フモノカ生スルカ故ニト云フ趣旨ナリトス而シテ此ノ回答ノ根本精神ハ三月一日以後ノ新規ノ契約ハ罰スレトモ其ノ以前ニ成立シタル契約ノ履行トシテ引渡行爲ヲ爲スモノハ罰セストノ趣旨ニ出ツルナリ本件公訴第一事實中(イ)ノ事實ニ付キテ觀ルニ泊紡績事務中谷ト中山織布事務由良トノ賣買契約成立ノ日ハ昭和十二年十二月二十七日及ヒ一月十日ノ二回ナリ共ニ何レモ三月一日以前ノ契約ナリトス其ノ契約ノ履行トシテ(イ)ノ行爲カ存在スルナリ(イ)當初ノ純綿ノ契約ヲ變更シテ混紡絲トナセルナリ其ノ理由ハステープルファイバー混用規則カ發布セラレ二月一日ヨリ施行ヲ見ルニ至リタルヲ以テ法律上純綿絲ヲ給付スルコト不可能トナリタルヲ以テ之ヲ混紡絲ニ變更シタルモノニシテ寧ロ當然ノコトニシテ何等怪シムニ足ラサル事柄ナリトス而シテ純綿ヲ變シテ混紡絲ト爲シタルハ即チ銘柄ノ變更ナリ併シ最高標準價格ニハ抵觸シ居ラス茲ニ格差ヲ生シタルヲ以テ(純綿ヨリ混紡絲ノ方カ高價ナリ)一捆ニ付金二十二圓五十錢ノ格上ケヲ爲シタルモノトス(ロ)番手モ三十二番手ヨリ四十番手ニ變更サレタリ此ノ理由ハ製絲原料タル棉花カ良質ニシテ三十二番手絲ヲ造ルニハ餘リニ勿體ナク感シタルヲ以テ泊紡績事務中谷ト中山織布事務由良トカ協議ノ上四十番手ニ番手ヲ變更シテ四十番手ノ細キ絲ヲ造リタルモノナリコハ物資尊重ノ觀念ニ適合コソスレ何等非議ス可キ點在ルヲ見サルナリ而シテ最高標準價格ニハ抵觸セス格差サヘ附スレハ足ルモノナルヲ以テ其ノ格差ヲ附シ(イ)所論ノ如ク格上ケシタ

ルコトハ前述ノ通りナリトス故ニ銘柄ノ振替(純綿絲ヲ混紡絲ニセルコト)ハステープル混用規則ノ發布ニヨリ已ムヲ得スシテ爲サレタルモノナルコト番手ノ振替(三十二番手ヲ四十番手ニ變更セルコト)ハ綿絲ノ取引ニ於テハ商慣習トシテ從來認メラルル所ニシテ綿絲販賣業者ハ工業者ヨリ番手ノ振替ヲ要求セラレタル時ハ異議ナク之ニ應ス可キ商慣習アルノミナラス本件ニ於テハ物資尊重ノ觀念ニ適合スル行爲ナルヲ以テ最高標準價格ニ抵觸セサル本件ノ振替行爲ハ前掲商工省ノ回答ニ因ルモ差支ナキ行爲ニ該當シ新規契約ト見ル能ハサルモノナリ故ニ三月一日以前ニ成立シタル舊契約ノ存續ト見ル可ク其ノ契約ノ履行トシテ犯罪トナル可キ行爲ニアラス假リニ新規契約ト觀ルモ差支ナキ行爲即チ許サレタル行爲トシテ法律上罪トナル可キモノニ非ス如斯法律上明瞭ナル問題ニ對シ有罪ノ認定ヲ受ケタルハ辯護人ノ甚タ遺憾トスル所ナリ商工省ハ昭和十三年十月三十一日一三調四第二一一一號ヲ以テ臨時物資調整局第四部長辻謹吾ノ名ヲ以テ此ノ點ニ關シ更ラニ明瞭ナル回答ヲ發セリ曰ク「省令施行前ニ爲シタル販賣契約ニ付施行後ニ於テ目的物ノ變更即チ目的物ニ付其ノ銘柄番手混紡率仕上色合ノ變更アリタル場合舊契約ノ更改アリタルモノトシテ新規ノ販賣ト認ム可キヤ」トノ質問ニ對シ「當事者間ニ於テ別段ノ意思表示ナキ限り銘柄番手混紡率等ノ變更ハ契約ノ更改ヲ來スモノト被認モ銘柄番手仕上色合ノ變更ニ付テハ從來ヨリ商慣習有ルモノアリ之ニ則リテ爲サレタル其ノ變更ハ契約ノ更改ヲ來ササルモノト解ス混紡率ノ變更ニ付テハ從來商慣習トシテ認ム可キモノナキヲ以テ通常ノ例ニ依ルハ

キモノト解ス」トアリ當事者カ舊契約存續ノ意思ニ出テタル輕微ナル契約内容ノ變更即チ銘柄番手ヲ近似ノモノニ變更スル行爲ハ別個新規契約ト觀ル能ハサルハ當然ニシテ舊契約ノ存續ト見ルヘク本件ハ其ノ契約ノ履行トシテ(第一點所掲商工省回答御參照)犯罪性ヲ有セス之ニ對シ有罪ノ認定ヲ爲シタル原判決ハ到底破毀ヲ免カレサルモノナリト信スト云フニ在リ

仍テ按スルニ昭和十三年三月一日商工省令第六號綿絲配給統制規則ハ其ノ第三條ニ於テ工業者ハ割當票ト引換フルニ非サレハ其ノ使用スル綿絲(輸出品又ハ輸出品ノ原料若クハ材料ノ製造又ハ加工ノ爲使用スルモノヲ除ク)ヲ買受クルコトヲ得スト規定シ其ノ第四條ニ於テ工業者ニ對シ前條ノ綿絲ヲ販賣スル者ハ割當票ト引換フルニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得スト規定シ其ノ附則ニ於テ本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行スト規定ス故ニ第三條第四條ノ規定ハ昭和十三年三月一日以前ニ成立シタル買賣契約ニ基キ同日以降ニ其ノ履行トシテ綿絲ヲ引渡ス場合ニモ其ノ適用アルモノト解スルヲ相當トス蓋シ(一)賣買ハ民法ノ規定ニ依リ明カナル如ク當事者ノ意思表示ノ合致ニヨリ成立スルモノナレハ前記第三條ノ買受第四條ノ販賣ヲ以テ單ニ買賣契約ヲ指スモノナリト解セムカ割當票ト引換ニ非サレハ買受又ハ販賣スルコトヲ得ストノ文旨ハ其ノ意味ヲ爲ササルニ至ルヘシ故ニ割當票ト引換フルニ非サレハ買受ケ若ハ販賣ヲ爲スコトヲ得ストハ割當票ト引換フルニ非サレハ所謂現實ニ買買ハ勿論既成ノ買賣契約ニ因ル綿絲ノ引渡ヲ爲スコトヲ得ストノ意ナリト解スルヲ相當トスヘク(二)又斯ク解スルコ

【要旨】

トハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條並綿絲配給統制規則ノ精神ニ適合シ所謂國策ニ合スルモノト謂フヘシ從テ同日以前ニ成立シタル買賣契約ニ基キ同日以降ニ其ノ履行トシテ綿絲ノ引渡ヲ爲スニハ割當票ト引換ノ下ニ之ヲ爲スコトヲ要シ然ラサル限リ處罰ヲ免レサルモノトス原判決判示第一ノ(一)ノ事實ニ依レハ被告人等ハ昭和十三年一月十日判示後段ノ如キ買賣契約ヲ爲シ同年四月中旬之ヲ判示前段ノ如ク内容ヲ變更シ割當票ト引換ニ非スシテ同年五月四日ヨリ同年六月二十日迄ノ間ニ數回ニ互リ其ノ引渡ヲ爲シタルモノナレハ該内容ノ變更ヲ以テ更改ナリトスルトキハ勿論單ナル内容ノ變更ニ過キスシテ其ノ根本ハ前記一月十日ニ成立セル買賣契約ニ基キ履行ニ在ルモノナリトスルモ處罰ヲ免レサルモノナルコト前敍ノ説明ニ依リ之ヲ了解スルヲ得ヘシ從テ原判決カ判示第一ノ(一)ノ事實ヲ有罪ト認メタルハ正當ニシテ所論ノ如キ違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ同第四點ハ原判決ハ公訴第一事實(二)ノ菅谷商店ニ綿絲ヲ無票ニテ販賣シタル行爲中混紡糸三十二番一、二係ハ落綿糸ニシテ其ノ販賣行爲ハ法律上罪トナラサルモノナルニ之ニ有罪ノ裁判ヲ爲シタルハ法則ノ適用ヲ謬リタルモノナリト信ス綿絲配給統制規則第一條ノ「綿糸」ノ中ニ落綿糸カ包含セラルルヤ否ヤニ付テハ當業者間ニ疑義アリ實際取締上ハ之ヲ除外セリ司法省松阪刑事局長ハ昭和十三年九月二十九日東京帝國ホテルニ於テ開催セラレタル讀賣新聞社主催ノ官民合同座談會ニ鹽野司法大臣ト共ニ出席セラレ落綿糸ノ點ヲ論セラレ「落綿糸ノオ話カ出マシタカラ私カラ申上ケマス法律ヲ正面カラ見マスト落綿糸ヲ除クト云フ解釋ハドウシテモ出來ナイ商工省ハ早タカラアノ方ノ糸ハ再製綿糸カラ除クンダト云フコトアリマシタカラ主務省ノ御意見ヲ尊重シテ居リマシタ落綿糸ハ纖維ハ短インテス

ケレトモ當然ニ入ルト思ツテ居ツタシテスカ初メノ内ハ落綿糸ハ五番手六番手ノ太糸シカ出来ナイト云フコトアリ
 マスカ其ノ中誰云フトナク落綿糸ハ統制ノ範圍外ト云フ噂カ傳ハツタト云フサウスルト九番手十番手迄落綿糸ヲ出
 來ル落子綿テナイ落トシ綿テアルト云フコトソレテ結局商工省カラ落綿糸ハコノ統制綿糸ニハ入ルト云フ解釋
 カ下サレテ我々尤モト思ツタノテスカ併シ商工省カラ通牒カ出マスマテ惡意ノモノハ別トシテ業者ノ内テ知ラスニ
 ヤツテ居ツタ者ニ對シテハ通牒カ出ナイ以前ノモノハ我々ノ方テ處罰シテ居ルモノハナイ一件モナイノテス後ニ商工
 省カ出シタツテ廻ツテヤル事ハ許サナイ今ニナツテ起訴シマセンカ落綿糸ト稱シテ實際ニ落綿ニ非サルモノヲ製作シ
 テヤツテ居リマスモノハ處罰シマス」トノ意見ヲ述ヘラレタリ商工省ノ「落綿糸ハ綿糸配給統制規則第一條ノ綿糸中
 ニ包含セラル」旨ノ回答ハ昭和十三年五月二十五日附ヲ以テ發セラレタルモ一般ニ了知スルニ至ラス結局右規則ニ基
 キ落綿糸ノ割當票カ發行セラレタルハ同年七月以降ナリトス故ニ六月三十日以前ノ行為ハ處罰セザリシモノニシテ尙
 クトモ右通牒發行前ナル五月二十五日以前ノ行為ニ對シテハ司法商工兩當局共ニ處罰ノ意思ヲ有セス法律上罪トセザ
 ル解釋ヲ採用シ居リタルモノナリ本件落綿糸ニテ製造シタル混紡糸ノ賣買契約ハ同年四月中旬大阪新大阪ホテルニ於
 テ泊紡績事務中谷ト菅谷商店員北條喜平トノ間ニ成立シタルモノナレハ其ノ引渡行為カ同年六月四日ヨリ同年同月
 十五日迄ニ行ハレタリトスルモ履行行為タル性質上犯罪ノ成否ハ契約成立ノ日タル同年四月中旬ヲ標準トシテ之ヲ定
 ム可キハ當然ナリトス而シテ其ノ日ハ商工省五月二十五日附回答ノ以前ノ事柄ナルヲ以テ此ノ點ハ法律上處罰スル能
 ハサル行為ナリ之ニ對シ有罪ノ認定ヲ爲シタル原判決ハ不當ニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ
 綿糸配給統制規則第一條乃至第四條等ノ規定ニ依レハ所謂落綿糸ヲ除外シタルモノトハ解セラレサルノミナラス所論
 菅谷爲吉ニ賣渡シタル分カ落綿糸ナリトノコトハ原審ノ措信セザリシトコロニ屬シ原判示事實ニ副ハサルモノトス從
 テ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事正木亮關與

○詐欺詐欺未遂取引所法違反被告事件(昭和十三年(九)第一六四三號 第一六四三號 棄却)

【上告人】 被告人 太田 茂 辯護人 永岡 外次
 【第一審】 登橋區裁判所 【第二審】 名古屋地方裁判所

○判示事項

取引所法第三十二條ノ五ノ犯罪ノ成立

○判決要旨

取引所法第三十二條ノ五ノ犯罪ノ成立スルニハ各當事者カ取引所
 ニ依ラスシテ取引所ノ相場ニ依リ相手方トノ間ニ差金ヲ授受スル

取引所法第三十二條ノ五ノ犯罪ノ成立

ノ意思ヲ以テ其ノ授受ヲ爲サムコトヲ約スルヲ要スルモノトス

【參照】 取引所法第三十二條ノ五 取引所ニ依ラスシテ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第百八十六條ノ適用ヲ妨ケス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年及罰金五百圓ニ處ス但シ原審ニ於ケル未決勾留日數中四十日ヲ右懲役刑ニ算入ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ百日間勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ肩書住居ニ於テ株式現物實業ヲ營ムモノナルトコロ

第一 株式短期取引員ニ非ス又株式取引所ノ實買取引ノ委託ノ代理媒介又ハ取次營業ヲ爲スニ付商工大臣ノ認可ヲ受ケ居ラサルニ拘ラス昭和十年九月十八日ヨリ同十三年二月十九日迄ノ間右店舗ニ於テ三谷町在住ノ小田忠平、竹内善作、牧野眞一、小島泰二、竹内欽咲、杉浦角治、鈴木伸治、村田泰治、藤田忠作、竹内勇二、淺沼伸治、中野彌四郎、藤田源八、鈴木進一、小田忠一御津町在住ノ安達壽一、細井茂一蒲郡町在住ノ鈴木安造、廣瀬榮治、尾崎君平、島田孝一大塚村在住ノ近藤俊春國府町在住ノ小林國市ノ二十三名ヨリ名古屋市中區南吳服町名古屋株式短期取引員奥田晴一商店ニ對シ東新、大新、鐘新、日産、日清紡、日本鋼管、日魯新、橫濱取引所株、日本鐘業新、東澤レヨン、臺灣製糖、帝人新、帝國火藥、日石、東澤紡、日本曹達、名古屋取引所株、東京電燈株等ノ短期實買取引ノ取次ヲ爲スヘク委託セラレ買注文七百二十八回一萬九千五百二十株買注文七百二十三回一萬九千四百株ヲ右奥

田商店ニ取次キ委託者等ヨリ其ノ手數料トシテ合計金二千八百六十四圓ヲ受取り以テ該營業ヲ爲シ

第二 昭和十二年四月十九日ヨリ同十三年二月五日迄ノ間犯意ヲ繼續シテ右店舗ニ於テ前示小田忠平、竹内善作、牧野眞一、小島泰二、藤田源八等ヨリ奥田商店ニ對シ鐘新、大新、日産等ノ短期實買取引ノ取次ヲ爲スヘク委託セラレタルヲ取次カス自ラ相手方トナリ買ニ立ツコト十六回五百株賣ニ立ツコト十八回五百七十株又安達壽一、細井茂一トノ間ニ於テハ雙方合意ノ上自ラ相手方トナリ買ニ立ツコト八回九十株賣ニ立ツコト八回九十株ニ付名古屋株式取引所ノ相場ノ高低ニ因リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シ

第三 昭和十二年十月二日ヨリ同年十二月三日迄ノ間犯意ヲ繼續シ前記店舗ニ於テ前示小田忠平ヨリ奥田商店ニ對シ鐘新ノ短期實買取引ノ取次方依頼セラレタルヲ取次カサリシニ拘ラス恰モ之ヲ取次キタルカ如ク裝ヒ同人ヲ欺罔シ買注文四回二百株賣注文三回百五十株ノ取次手數料名下ニ金三十五圓ヲ交付セシメテ騙取シ尙昭和十三年二月五日頃忠平ニ對シ奥田商店ニ支拂フヘキ右取引手數料トシテ金百三十六圓五十錢ノ支拂方請求シ之ヲ騙取セムトシタルモ事官ニ發覺シ其ノ目的ヲ達ケサリシ

モノナリ

尙被告人ハ昭和七年五月二十八日大阪地方裁判所ニ於テ偽造有價證券行使詐欺罪ニ依リ懲役二年ニ處セラレ昭和九年勅令第十九號ニ依リ懲役一年九月二十日ニ變更セラレ當時該刑ノ執行ヲ終リタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第一ノ點ハ取引所法第三十二條第十一條ノ四第二項ニ第二ノ點ハ同法第三十二條ノ五刑法第五十五條ニ第三ノ中詐欺既遂ノ點ハ刑法第二百四十六條第一項ニ同未遂ノ點ハ同法第二百五十條第二百四十六條第一項ニ各該當スルトコロ右詐欺既遂ト未遂トハ連續犯ナルヲ以テ同法第五十五條ニ依リ詐欺既遂ノ一罪ト爲シ第二ノ罪ニ付罰金刑ヲ選擇シ尙前示前科アルヲ以テ同法第五十六條第五十七條ニ依リ詐欺罪ノ刑ニ累犯加重ヲ爲スヘ

取引所法第三十二條ノ五ノ犯罪ノ成立

ク以上三罪ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十八條ニ依リ被告人ヲ詐欺罪ニ付右加重刑罰範圍内ニ於テ懲役一年第一第二ノ取引所法違反ノ罪ニ付所定罰金合算額ノ範圍内ニ於テ罰金五百圓ニ處シ尙同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中四十日ヲ右懲役刑ニ算入スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ百日間被告人ヲ勞務場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ツシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人永岡外次上告趣意書第二點原判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リ擬律錯誤ノ失當アルノミナラズ犯罪ノ構成要件タル事實ノ判定ヲ遺脱シタル失當アルモノト思料ス原判決ノ認定シタル第二事實ノ要旨ハ上述第一ノ(二)ニ於テ之ヲ記述シタルガ故ニ茲ニ之ヲ省略ス而シテ其ノ事實ノ内前段ノ事實ハ被告人ガ相手方ト通セズシテ單獨ニ自己ノ意思ニヨリ又後段ハ相手方トノ合意ニ基クモノト認メ何レモ取引所法第三十二條ノ五ニ該當スル違反行爲トシテ同法條ヲ適用處斷セラレタリ惟フニ同法所定ノ行爲ハ取引所ニ依ラズシテ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ賭事ヲ爲シタルモノニ該リ刑法所定ノ賭博ト其ノ本質ヲ同フスルモノナルコトハ同法條末段但書ノ規定ヨリ觀ルモ蓋シ疑ヲ容レザル所ニシテ一般賭博行爲ハ之ヲ一般法タル刑法ニ又株式取引ニ關スル賭事ハ之ヲ特別法タル取引所法ニ規定シタルニ過ギザル

モノトス而シテ所謂偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ賭事ヲ爲スニハ其ノ當事者間ニ於テ意思ノ合致即チ雙方合意ノ上ニアラザレハ成立セザルモノニシテ雙方合意ニアラズ一方ノ意思ノミニヨル賭事ハ賭事其ノモノノ本質上絕對ニ存在スベカラザルモノナルコトモ亦極メテ明確ナル所ナリトス從テ單ニ一方ノ意思ノミニヨル賭事ハ其ノ犯罪ノ成立ヲ認ムベキモノニアラザルニ拘ラズ原判決ハ其ノ第二事實ノ認定ニ於テ其ノ前段ハ被告人一方ノ意思ニ出テタルモノナルコトヲ認メナガラ取引所法第三十二條ノ五ニ該當スル犯罪行爲ト判定擬律シタルハ同法條ノ解釋ヲ誤リタル失當アルモノトス加之同法條違反ノ行爲ハ取引所ニ依ラザルコトヲ犯罪構成ノ要件トスルガ故ニ同法條ノ違反行爲アリタリトスルニハ取引所ニ據ラザルコトヲ認定明示スベキニ拘ラズ前示第二事實ノ判定中其ノ後段ノ事實ニ付原判決ハ唯漫然雙方合意ノ上自ラ相手方ト爲リ云々名古屋株式取引所ノ相場ノ高低ニヨリ云々ト判示シタルニ止マリ重要ナル犯罪ノ構成要件タル名古屋株式取引所ヲ通ゼザリシコトノ事實判定ヲ遺脱シタル儘直チニ同法條ヲ適用處斷シタルハ甚シキ失當ノ裁判ナリト謂ハザルベカラズ蓋シ自ラ相手方ト爲リタル場合ニ於テモ之ヲ取引所ニ通ジテ損益ノ得喪ヲ爲スコトアルベキハ多言ヲ要セザル所ニシテ此ノ點ニ於テモ原判決ハ破毀ヲ免レザルモノト思惟スト云フニ在リ

仍テ案ズルニ取引所法第三十二條ノ五所定取引所ニ依ラズシテ取引所ノ相場ニ依リ差金ヲ授受スルコトヲ目的トスル行爲ハ畢竟偶然ノ輸贏ニ因リ財物ヲ賭スル行爲ノ一種ニシテ其ノ性質賭博ニ外ナラズ

取引所法第三十二條ノ五ノ犯罪ノ成立

【要旨】

而シテ賭博罪ハ成立ニハ當事者雙方ガ互ニ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ノ得喪ヲ爭フコト從テ當事者雙方ガ孰レモ我勝タバ相手方ノ損失ニ於テ利得ヲ獲ベク彼勝タバ我ノ損失ニ於テ彼ニ利得ヲ爲サシムルノ意思ヲ以テ偶然ノ勝負ヲ決スベキコトヲ約シ又ハ之ヲ決スベキ行爲ヲ爲スヲ要スルコト多言ヲ俟タザルトコロナルガ故ニ右取引所法第三十二條ノ五所定ノ犯罪ノ成立スルニハ當事者雙方ガ各取引所ニ依ラズシテ取引所ノ相場ニ依リ相手方トノ間ニ差金ヲ授受スルノ意思ヲ以テ其ノ授受ヲ爲サムコトヲ約スルヲ要スルヤ明ナリ然ルニ原判示第二前段ノ記スルトコロニ依レバ小田忠平、竹内善作、牧野真一、小島泰二、藤田源八等ハ孰レモ判示奥田商店へ名古屋株式取引所ニ於ケル判示各種株ノ短期賣買取引ノ注文ヲ爲ス意思ヲ以テ其ノ取次ヲ被告人ニ依頼シタルモノニシテ被告人トノ間ニ右取引所ノ相場ニ依ル差金授受ヲ爲サムトスル意思ヲ以テ其ノ授受ヲ爲スベキコトヲ被告人ト約シタルモノニ非ズ然レバ縱令判示ノ如ク被告人ニ於テ右取次ヲ爲サス自ラ忠平等ノ相手方ト爲リ右取引所ニ依ラズシテ同取引所ノ相場ニ依リ右株ヲ賣買シタルガ如ク仕做シテ差金ヲ授受シタリトスルモ其ノ行爲ハ右取引所法第三十二條ノ五所定ノ犯罪ヲ構成スルコトアルベカラス(若シ被告人ニシテ當初ヨリ忠平等ノ注文ノ取次ヲ爲スノ意思ナキニ拘ラズ之アルモノノ如ク裝ヒテ忠平等ヲ欺キ因テ證據金等ノ交付ヲ受ケタルガ如キ場合ニ於テハ詐欺罪ノ成立ヲ見ルベキモ這ハ自ラ別個ノ問題タリ) 原審ガ被告人ノ右行爲ヲ律スルニ取引所法第三十二條ノ五ヲ以テシタルハ罪トナラザル行爲ヲ罪トシテ處罰シタルニ歸シ固ヨリ

違法タルヲ免レズト雖モ原審ハ右判示第二前段ノ行爲ヲ同判示後段ノ行爲ト共ニ連續一罪トシテ擬律ヲ爲シタルモノニ係リ該行爲ヲ除外スルモ擬律上毫モ變更ヲ生ゼザルノミナラズ右違法ノ點ハ刑ノ量定上ニモ何等影響無キモノト認ムルヲ以テ右違法ハ未タ以テ原判決ヲ破毀スルノ理由ト爲スニ足ラズ論旨前段ハ所詮理由無キニ歸ス又原判示第二ノ冒頭ニハ「云々犯意ヲ繼續シテ右店舗ニ於テ」ナル文詞アリテ這ハ所論ノ同判示後段ニモ光被セルモノナルコト疑ナク之ニ依レバ被告人ガ同判示後段記載ノ如ク安達壽一、細井茂一ト合意ノ上同人等ノ相手方トナリ判示各種株ノ賣買取爲シタルハ取引所ニ依ラザリシモノナルコト極メテ明カナレバ原判決ハ所論ノ如ク犯罪ノ構成要素ニ關スル事實判定ヲ缺ケルモノト言フヲ得ズ論旨後段亦理由無シ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

仍テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ通り判決ス
 檢事植田麟二關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和十四年(九)第七五號
同年四月六日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 樋爪讓太郎 辯護人 山口八十雄

【第一審】 金澤地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

衆議院議員選舉法第百十三條第二項ト刑法第六十五條トノ關係
右選舉法第一項第四號勸誘罪ノ成立

○判決要旨

一 衆議院議員選舉法第百十三條第二項ハ犯人ノ身分ニ因リ特ニ刑
ヲ加重セル規定ナリ【要旨第一】

衆議院議員選舉法第百十三條第二項ト刑法第六十五條トノ關係 右選舉法第一項
第四號勸誘罪ノ成立

二 同法第百十三條第一項第四號ノ勸誘罪ハ單ニ議員候補者若ハ議員候補者タラントスル者又ハ當選人ニ對シ金錢其ノ他ノ利益ヲ供與スルコトニ關シ其ノ決意ヲ促スヲ以テ足り更ニ之ニ對スル應諾ヲ得ルノ要ナキモノトス【要旨第二】

【參照】 刑法第六十五條、犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

衆議院議員選舉法第百十三條 左ノ各款ニ據クル行為ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メシムル目的ヲ以テ議員候補者若ハ議員候補者タラムトスル者ニ對シ又ハ當選ヲ辭セシムル目的ヲ以テ當選人ニ對シ第百十二條第一項第一號又ハ第二號ニ據クル行為ヲ爲シタルトキ
- 二 議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メタルコト、當選ヲ辭シタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ議員候補者タリシ者議員候補者タラムトシタル者又ハ當選人タリシ者ニ對シ第百十二條第一項第一號ニ據クル行為ヲ爲シタルトキ
- 三 前二號ノ供與、要應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、前二號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第一號ノ

誘導ニ應ジ若ハ之ヲ促シタルトキ

四 前各款ニ據クル行為ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ
選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員當該選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ五年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ四千圓以下ノ罰金ニ處ス警察官吏其ノ關係道府縣内ノ選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキ亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人橋爪讓太郎ヲ罰金三百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金五圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨(訴訟費用ノ點省略)ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十二年四月三十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ同月上旬東京市ニ所用ノ爲上京中同選舉ニ被告人ノ選舉區タル石川縣第二區ヨリ立候補スヘク決意シ居タル東善作ヨリ同人ノ爲應援盡力方ヲ懇請セララルルヤ同月九日自己ノ滯泊セル東京市神田區駿河臺一丁目四番地八幡館ニ於テ折柄上京セル右同選舉區内ナル石川縣鹿島郡七尾町ノ町長ノ職ニ在リタル春木理右衛門(當審ニ於テ事件分離セル相被告人)ニ右ノ旨ヲ告ケテ路ル所アリ茲ニ被告人ハ該選舉事務ニ關係アル吏員タル右春木理右衛門ト共謀ノ上當時同選舉區ヨリ立候補シ居リタルモ當選ノ見込薄弱ナリシ大森玉木ヲシテ議員候補者タルコトヲ辭セシメテ東善作ヲ應援セシムルコトトシ其ノ代價トシテ東善作ヨリ大森玉木ニ對シ相當額ノ金員ヲ供與セシメントテ企テ其ノ頃右止宿先ナル八幡館ニ東善作ノ代理人トシテ相次テ來訪セル山口清吉入野梅次郎ヨリ交々東善作ノ爲應援方ヲ求メラレ殊ニ右大森玉木ヲシテ議員候補者タルコトヲ辭シ東善作ノ

衆議院議員選舉法第百十三條第二項ト刑法第六十五條トノ關係 右選舉法第一項 一八九 (61)

爲應授セシムル採取計ハレ度キ旨懇請セラルルニ及ヒ同所ニ於テ右同人等ニ對シ夫々右大森玉木ヲシテ同候補者タルコトヲ辭退セシムルニ付同人ニ金三千圓ヲ供與セラレ度キ旨申向ケ依テ右山口清吉ヲ通シテ同月十二日頃東京市麹町區丸ノ内ホテルニ於テ東善作ニ對シ大森玉木ヲシテ右議員候補者タルコトヲ止メシムル爲同人ニ右金員ヲ供與スヘキ旨ノ勸誘ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第六十條第六十五條第一項衆議院議員選舉法第百十三條第二項第一項第四號第一號ニ該當シ刑法第六十五條第二項ニ從ヒ衆議院議員選舉法第百十三條第一項第四號第一號ニ依リ科刑處斷スヘク所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定罰金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三百圓ニ處シ刑法第十八條ニ依リ被告人カ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金五圓ヲ一日ニ換算シタル期間同人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人山口八十雄上告趣意書第三點原判決ハ擬律錯誤ノ違法アリ原判決ハ桶爪讓太郎ノ所爲ニ對シ刑法第六十條第六十五條第一項衆議院議員選舉法第百十三條第二項第一項第四號第一號ニ該當スト爲シ刑法第六十五條第二項ニ從ヒ衆議院議員選舉法第百十三條第一項第四號第一號ニ依リ科刑處分シタリ然レトモ衆議院議員選舉法第百十三條第二項ハ身分ニ因ル刑罰ノ加重ヲ規定シタルモノニシテ犯罪構成要件自體ヲ規定シタルモノニアラスト解スヘキモノトス而シテ刑法第六十五條第二項ヲ適用スルニ

ハ同條第一項ニ明定セルカ如ク犯罪構成要件自體ニ關スルモノナラサルヘカラサルコト夙ニ御院ノ判示スルトコロナルカ故ニ原判決ニハ衆議院議員選舉法第百十三條第二項ヲ誤解シテ刑法第六十五條第一、二項ヲ適用シ身分犯ノ共犯ナリト擬律錯誤ヲ爲シタル違法アリト云フニ在リ

因テ案スルニ刑法第六十五條第一項ハ犯人ノ身分ヲ以テ構成要件トセル犯罪ニ加功シタル者ハ身分ナキ者ト雖共犯トシテ處分スルコトヲ規定シタルモノニシテ犯人ノ身分ヲ以テ單ニ刑ノ加重ノ原因トセル犯罪ニ付テハ何等關係ナキ條項ナレハ衆議院議員選舉法第百十三條第二項ノ犯罪ニ共謀セル者ニ對シテハ右第六十五條第一項ヲ適用スヘキモノニ非ス蓋右選舉法第百十三條第一項各號ハ何人ト雖犯シ得ル犯罪ニシテ其ノ第二項ハ選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員ニ付テハ特ニ刑ヲ加重セルニ過キスト

解スルヲ正當トスレハナリ原判示ハ之ヲ要スルニ被告人桶爪讓太郎ハ衆議院議員選舉ニ際シ石川縣第二區ヨリ立候補スヘク決意シ居リタル東善作ヨリ其ノ應援盡力方懇請セラルルヤ同選舉區内ナル七尾町ノ町長春木理右衛門ト共謀ノ上判示ノ如ク勸誘ヲ爲シタリト云フニ在ルヲ以テ被告人桶爪讓太郎ニ對シテハ刑法第六十五條第二項ニ依リ右選舉法第百十三條第一項ノ適用ヲ爲セハ足り刑法第六十五條第一項ヲ適用スルノ要ナキモノトス然レトモ刑法第六十五條ハ總則的規定タルノミナラス結局被告人桶爪讓太郎ニ對シ右選舉法第百十三條第一項ヲ適用シテ處斷刑トセル原判決ハ量刑上誤リナキモノト解スヘク原判決ニ影響ナキヲ以テ本論旨ハ理由ナキニ歸スルモノトス論旨理由ナシ

【要旨第二】

衆議院議員選舉法第百十三條第二項ト刑法第六十五條ト關係 右選舉法第一項 第四號勸誘罪ノ成立

第四點原判決ニハ證據理由欠缺ノ違法アリ大凡衆議院議員選舉法第一百三條第一項第四號ノ勸誘ヲ爲シタルトキトハ其ノ程度ノ輕重ニ依リ之ヲ四說ニ分ツコトヲ得ヘシ即チ(一)相手方ヲシテ同條第一項第一號乃至第三號ノ行爲ヲ爲サシムヘク其ノ應諾ノ決意ヲ求ムルニ足ラサル單ナル申込又ハ意見ノ表示ナリトノ說(意見表示說)(二)相手方ヲシテ前掲(一)ノ行爲ヲ爲サシムヘク其ノ應諾ノ決意ヲ求ムル行爲ナリトノ說(決意要求說)(三)前號ノ目的ヲ以テ應諾ノ決意ヲ爲サシメタル行爲ナリトノ說(決意完成說)(四)同前ノ目的ヲ以テ應諾ノ決意ヲ爲サシメ而モ其ノ決意ヲ實行セシメタル行爲ナリトノ說(決意實行說)トス而シテ何レノ說モ勸誘ハ選舉ノ自由公正ヲ害スル虞アル一種ノ教唆行爲(現行刑法ノ教唆ヨリ廣シ)ヲ處罰スルモノト解スヘキモノトス然ルニ我刑法ヲ案スルニ教唆犯ハ管ニ被教唆者ニ對シ或犯罪ヲ爲サシムヘク犯意ヲ注入シタルコト即チ應諾ノ決意ヲ爲サシメタルコトニ止マラス其ノ決意ヲ實行セシメタルコトヲ必要トスル學者ノ所謂從屬的共犯ニ屬スルコト疑ヲ容レス而シテ前示(四)ノ決意實行說ノ主張ハ實ニ此ノ從屬的共犯ニ一致スルモノトス然レトモ茲ニ勸誘トハ此ノ從屬的共犯ヲ指シタルモノニアラサルコトハ刑法教唆犯ノ規定存スルコロヨリ明ナリト雖(一)ノ意見表示說ノ如キ應諾ノ決意ト何等ノ交渉ナキ行爲ヲ包含セサルハ勿論(二)ノ決意要求說ノ如キ單ニ要求ノ行爲アリタルニ止マリ被教唆者ヲシテ未タ應諾ノ決意ヲ爲サシムルニ至ラサル程度ノ行爲ヲ指シタルモノト解スルコト能ハス何トナレハ被教唆者カ未タ應諾ノ決意ヲ爲ササルニ早

ク既ニ其ノ教唆者ヲ處罰スルカ如キハ管ニ苛酷ノ解釋ナリト謂フニ止マラス結局決意ノ表示ノミヲ處罰セサル刑法ノ大原則ニ背反スルモノト謂ハサルヘカラサレハナリ然リ而シテ獨リ(三)ノ決意完成說ニ至テハ教唆行爲ヲ獨立の共犯ト認メタルモノニシテ茲ニ所謂勸誘(第四號所定)ノ意義ニ適合スル正解ナリト言フヲ得ヘシ何トナレハ嚴罰主義ノ現行選舉法ニ於ケル勸誘ヲ獨立の共犯ト解スルコトハ寧ロ其ノ趣旨ニ一致スルモノト云フヘク刑法改正要綱第二十六ニ於テモ「教唆犯ヲ獨立罪トスル規定ヲ設クルコト」ノ箇條ヲ掲ケ現ニ制定中ノ刑法草案ニハ從屬的共犯ノ外獨立的共犯ノ規定ヲ設ケタルニ依ルモ其ノ立法ノ傾向ヲ知ルコトヲ得レハナリ或ハ獨立的共犯ノ場合ニ於テモ教唆ノ意思(犯意ト云フヲ得ス刑法第二編以下ノ罪ニアラサレハナリ)ト其ノ行爲アルヲ以テ(二)ノ決意要求說ノ如キ場合ニ於テモ之ヲ處罰スル價值アルモノノ如ク思考スル者アラシカ道ハ皮相ノ見解ナリ何トナレハ獨立的教唆犯ノ場合ニ於テ教唆者ヲ處罰スル所以ハ被教唆者ヲシテ犯罪ヲ犯スニ至ラシメントスル虞アルカ故ナリ被教唆者ニ犯意ヲ注入ナク全ク犯行ノ意思ナキ常人ト異ナラサル場合ニ教唆者ヲ處罰スルカ如キハ刑法理論トシテ之ヲ認容スル根據ナキ說ナリト云ハサルヘカラス更ニ注意スヘキハ同條ニ勸誘ト併記シアル周旋ノ解釋ナリ周旋トハ當事者雙方ノ意思ノ合致ヲ媒介スル行爲ニシテ當事者雙方ニ交渉スルコトハ必ス之ヲ爲ササルヘカラサルモ(一方ノミニ對スル交渉ハ周旋ノ未遂)當事者雙方又ハ一方ヲシテ應諾ノ決意ヲ爲サシムルニ至ルコトヲ要セサルヤ勿論ナリ若シ周旋ニ斯ル應諾ノ決

意ヲ必要トセンカ勸誘モ亦周旋中ニ包含スルコトナリ第四號ニ周旋ノ外勸誘ヲ併記シタルハ無益ノ規定ヲ設ケタルコトニ歸著スレハナリ之ヲ要スルニ第四號ノ周旋及勸誘ハ何レモ正犯ノ成立ヲ要セサル所謂獨立ノ從犯及教唆犯ヲ規定シタルモノト解スルヲ正當トス然ルニ原判決摘示ニ係ル十數個ノ證據ヲ如何ニ綜合考覈スルトモ樋爪讓太郎等カ議員候補者タル東善作ヲシテ勸誘ヲ應諾スル決意ヲ爲サシメタル行爲ヲ爲シタルコトハ到底之ヲ認メ得サルノミカ却テ東善作山口清吉入野梅次郎ノ各訊問調書聽取書等ニ依レハ勸誘ヲ拒否即チ應諾セサル意思ナリシコト明白ナルヲ以テ原判決ニハ此ノ點ニ於テ擬律錯誤ノ違法アルニアラスムハ證據理由欠缺ノ違法アリト云フニ在レトモ

衆議院議員選舉法第百十三條第一項第四號ノ勸誘罪ハ單ニ同條所定ノ議員候補者若ハ議員候補者タルントスル者又ハ當選人ニ對シ同第百十二條第一項第一號又ハ第二號ニ掲クル行爲ヲ爲スヘキコトニ關シ其ノ決意ヲ促スニ依リ成立シ更ニ所論ノ如ク之ニ對スル應諾ヲ得ルノ要ナキモノトス蓋數名立候補シ若ハ立候補セムトスル形勢アル場合ニ其ノ一人ニ對シ他ノ一人ヲ辭退セシムル對價ヲ供與スヘキコトヲ促スカ如キハ其ノ應諾ノ有無ニ拘ラス選舉ノ公正ヲ害スル虞アルモノト云ヒ得ヘケレハナリ原判示ハ之ヲ要スルニ被告人樋爪讓太郎ハ衆議院議員選舉ニ際シ應テ立候補スヘク決意シ居リタル東善作ヨリ應援盡力方懇請セララルヤ當時同選舉區ニ立候補シ居リタル大森玉木ヲシテ議員候補者ヲ辭セシメ其ノ代價トシテ東ヨリ大森ニ對シ相當額ノ金員ヲ供與セシメンコトヲ企テ東ノ代理人タル山口清吉

【要旨第二】

等ニ對シ大森ヲシテ候補者タルコトヲ辭退セシムルニ付同人ニ金三千圓ヲ供與セラレ度旨申向ケ因テ右山口清吉ヲ通シテ東ニ對シ其ノ旨ノ勸誘ヲ爲シタリト云フニ在ルヲ以テ衆議院議員選舉法第百十三條第一項第四號ノ勸誘罪ニ當ルコト洵ニ明ナリ而シテ原判決ハ其ノ舉示セル各證據ニ依リ敍上ノ事實ヲ認定セルモノニシテ所論ノ如ク理由ニ缺クル所ナク又擬律ニ付テモ上來說明セルカ如ク原判決ヲ破毀スルニ足ラス論旨理由ナシ

第五點原審ハ檢事ノ起訴シタル事件ニ付判決ヲ與ヘシテ起訴ナキ事件ニ對シ判決ヲ爲シタル不法アリ被告人樋爪讓太郎ニ對スル檢事ノ豫審請求書ヲ閱スルニ「此ノ際東善作ニ應援シ同人ノ當選ヲ得セシメ且大森玉木ノ立候補ヲ辭退セシムル目的ヲ以テ同人ノ立候補辭退料トシテ東善作ヨリ多額ノ金員ヲ支出セシメ利得セムコトヲ協議共謀シ(中略)八幡館事佐藤クラ方ニ於テ右東善作ノ代表入野梅次郎及山口清吉ヲ通シ東善作ニ對シ大森玉木ノ立候補斷念ノ報酬トシテ同人ニ金三千圓ヲ供與セラレ度旨要求シタルモノナリ」トノ衆議院議員選舉法第百十三條第一項第三號ノ要求犯ノ事實ヲ起訴シタル趣旨ヲ認ムルニ難カラズ殊ニ右豫審請求書竝強制處分請求書記載ノ文字ト本件記録中ノ入野梅次郎山口清吉ノ警察官聽取書中ニ於ケル同人等ノ供述トシテ大森玉木ノ使トシテ樋爪讓太郎春木理右衛門ハ地盤賣込名義テ斷念料云々春木等ハ選舉ブローカー云々トノ記載竝原判示證據摘示ニ係ル被疑者春木理右衛門ニ對スル豫審判事ノ訊問調書中「樋爪ハ大森ニ聞イテ見タトコロ大森ハ候補ヲ辭メテモ良イト云フ様ナコトヲ申シ居タカ云々」ノ供述記載在ルニ依リ極メテ明瞭ナリト言ハサルヘカラス然リ而シテ衆議院議員選舉法第百十三條第一項第三號ノ適用範圍ハ同項第一號第二號ニ照シ行爲者(受供與者)ハ常ニ(1)議員候補者(2)議員候補者タラムトスル者(3)當選人ノ三資格者ニ限ラルルコトハ一點ノ疑ヲ容ルル餘地ナシ之ヲ本件ニ付觀レハ議員候補者タル大森玉木ヨリ議員

候補者タル東善作ニ對スル要求ヲ指スモノニシテ被告人樋爪讓太郎等ノ東善作ニ對スル行爲ヲ要求ト爲サムニハ同被告人等ハ大森玉木ト共謀スルカ又ハ同人ノ教唆ニ因ルモノト爲ササルヘカラス即チ前示「大森玉木ノ使トシテ」
 「要求」シタル事實コソ公判審判ノ範圍ナリ換言セハ起訴事實ハ大森候補者カ資格者トシテ本體アリ樋爪等ハ其ノ要求ニ加工シタルモノナリ而シテ斯ル事實ノ虛無ナルコトハ其ノ後ノ豫審判事竝公判ノ審理ノ結果明白トナリタルヲ以テ豫審竝第一、二審共免訴若ハ無罪ノ裁判ヲ爲スヘキモノナリ然ルニ事竝ニ出アズシテ檢事ノ起訴セサル東善作ニ對シ大森玉木ヲシテ議員候補者タルコトヲ止メシムル爲同人ニ金三千圓ヲ供與スヘキ旨ノ勸誘ヲ爲シタリトノ衆議院議員選舉法第百十三條第一項第一號ノ勸誘罪(第四號)ニ該當スル事實存スト爲シ詳言セハ本體ハ春木樋爪等ニシテ曩ニ本體タリシ大森候補者ハ離脱シ資格者ヲ東善作ニ求メタル全然別個事實ヲ創造シテ該事件ニ付判決ヲ爲シタルハ明ニ刑事訴訟法第四百十條第十八號ニ該當違法アルモノト謂ハサルヘカラス以上何レノ理由ヨリスルモ原判決ハ失當不法ナルヲ以テ原判決ヲ破毀シ被告人樋爪讓太郎ニ對シ無罪ノ判決ヲ求ムル爲本件上告ニ及ヒタル次第ナリト云フニ在レトモ

議員候補者タラムトスル東善作ニ應援盡力スル爲議員候補者大森玉木ヲシテ立候補ヲ辭退セシメ其ノ辭退料ヲ東ノ代理人ヲ通シテ要求シタリトノ公訴事實ニ付東善作ノ代理人ヲ通シテ辭退料ヲ大森玉木ニ供與セラレ度旨東ヲ勸誘シタリトノ事實ヲ認定シテ判決スルモ審判ノ請求ヲ受ケサル事件ニ付判決シタルモノト謂フヘカラス蓋衆議院議員選舉法第百十三條第一項各號ハ何レモ選舉ノ公正ヲ保持セムカ爲設ケラレタル規定ナレハ右兩個ノ關係ハ公訴ノ同一性ニ變ル所ナケレハナリ又同條第一項各號ノ犯罪ハ議員候補者若ハ議員候補者タラムトスル者又ハ當選人ニ對シ行ハルルヲ要スルモ其ノ主體ハ何人ヲ問ハス犯シ得ヘキモノナルコト同條項ヲ通覽スレハ洵ニ明ナリ故ニ本件ハ議員候補者タラムトスル東善作ノ代理人山口清吉ヲ通シ東善作ニ對シ勸誘シタル被告事件ナレハ所論ノ如ク大森玉木ト共謀スルカ又ハ

同人ノ教唆ニ因ラサレハ成立セサル關係ニ非サルナリ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事井上貫一關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件並當選無效附帶訴訟事件

(昭和十三年(九)第一五五九號 一部破毀差戻)
 (同十四年四月十日第二刑事部判決 一部棄却)

【上告人】 被告人 松久 常 職 辯護人 大島久田保 後
 外十四名 野野川 芳 職 保 夫 男 市 婦 雄
 【私訴上告人】 被 告 稻田 直 道 訴訟代理人辯護士 大島久田保 後
 野野川 芳 職 保 夫 男 市 婦 雄
 井川 川 野 野 保 保 職 職 芳 夫 男 市 男 夫 博

第三者ノ演說ニ依リ選舉運動費用ノ支出ト其ノ違反 當選無效訴訟ノ準據手續法、

○判示事項

第三者ノ演説ニ依ル選舉運動費用ノ支出ト其ノ違反——當選無效訴訟ノ準據手續法

○判決要旨

一 第三者ノ演説ニ依ル選舉運動力議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ナキニ拘ラス議員候補者力其ノ費用ヲ支出シタル行爲ハ衆議院議員選舉法第百十二條ニ該リ同法第百一條ニ當ラサルモノトス【要旨第一】

二 當選無效訴訟ニ於テハ刑事訴訟法中特例ノ場合ヲ除ク外私訴ニ關スル規定ヲ準用スヘク證據調及判決ニ付テモ民事訴訟法ノ例ニ依ラサルモノトス【要旨第二】

【參照】衆議院議員選舉法第九十七條 選舉事務長又ハ選舉委員ハ選舉運動ノ爲ニ要スル飲食物、船車馬等ノ供給又ハ旅費、旅泊料其ノ他ノ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得 演説又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲ス者豫メ議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ其ノ運動ヲ爲スニ付亦同シ

同法第百一條 立候補準備ノ爲ニ要スル費用ヲ除クノ外選舉運動ノ費用ハ選舉事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス但シ議員候補者又ハ選舉委員ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ妨ケス

議員候補者、選舉事務長、又ハ選舉委員ニ非サル者ハ選舉運動ノ費用ヲ支出スルコトヲ得ス但シ演説又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ノ費用ハ此ノ限ニ在ラス

同法第百四條 左ノ各號ニ掲クル費用ハ之ヲ選舉運動ノ費用ニ非サルモノト看做ス (中略)

四 第六十七條第一項乃至第三項ノ届出アリタル後議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非サル者ノ支出シタル費用ニシテ議員候補者又ハ選舉事務長ト意思ヲ通シテ支出シタル費用以外ノモノ但シ第百一條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

(以下省略)

同法第百十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

二 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權

第三者ノ演説ニ依ル選舉運動費用ノ支出ト其ノ違反 當選無效訴訟ノ準據手續法 一九九 (三)

寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ
 三 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋
 勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一
 號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ
 四 第一號若ハ前號ノ供與、要應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承
 諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ
 五 第一號乃至第三號ニ掲ケル行爲ヲ爲シタル目的ヲ以テ選舉運動者ニ對シ金
 錢若ハ物品ノ交付、交付ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ選舉運動者其ノ交付ヲ受ケ若
 ハ要求シ若ハ其ノ申込ヲ承諾シタルトキ
 六 前各號ニ掲ケル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ
 選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員當該選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ四年
 以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス警察官吏其ノ關係道府縣内ノ選
 舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキ亦同シ
 同法第三百三十四條 第一百一條ノ規定ニ違反シテ選舉運動ノ費用ヲ支出シタル者ハ一
 年以下ノ禁錮ニ處ス
 同法施行令第五十九條 演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ノ費用ニシテ議員候補者、選
 舉事務長又ハ選舉委員ニ非サル者カ議員候補者又ハ選舉事務長ト意思ヲ通シテ支
 出シタルモノニ付テハ選舉事務長ハ其ノ都度選滯ナク議員候補者又ハ支出者ニ就
 キ前條ノ例ニ依リ精算書ヲ作成スヘシ

前項ノ費用ニシテ議員候補者ト意思ヲ通シテ支出シタルモノニ付テハ其ノ意思ヲ
 通シタル都度議員候補者ハ直ニ其ノ旨ヲ選舉事務長ニ通知スヘシ
 衆議院議員選舉法第四百一十一條ノ二 第八十四條第二項ノ規定ニ依リ訴訟ニ付テハ
 刑事訴訟法中第五百七十二條第二號第三號第五號乃至第八號第十號乃至第十三號
 第五百七十四條、第五百八十二條、第五百八十八條、第五百八十九條、第五百九十一條、第
 六百條乃至第六百二十二條ノ規定ヲ除ク外私訴ニ關スル規定ヲ準用ス但シ同法第
 五百七十六條中民事訴訟法トアルハ刑事訴訟法トシ民事部トアルハ刑事部トス
 第八十四條第二項ノ規定ニ依リ訴訟ニ付當選無効ノ判決確定スト雖モ其ノ判決ハ
 公訴ニ付有罪ノ判決確定スルニ非ザレハ其ノ效力ヲ生セズ
 刑事訴訟法第五百七十七條 私訴ニ付テハ審級ニ從ヒ公訴ニ關スル規定ヲ準用ス但
 シ民事部ニ差戻シ又ハ移送シタルトキハ民事訴訟法ニ依ル

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人稻田直道ヲ禁錮一月ニ處ス但シ原審ニ於ケ
 ル未決勾留日數中右刑期ニ相當スル期間ヲ右本刑ニ算入ス同被告人ニ對シテハ衆議院議員選舉法第百
 三十七條第一項五年間選舉權及被選舉權ヲ有セサル旨ノ規定ヲ適用セス被告人北川菊藏ヲ罰金四百圓
 被告人松久常藏同荒川長ヲ各罰金三百圓被告人田中彌太郎同山根賴男同山根甚一郎同城上梅雄ヲ各罰
 金百八十圓被告人北垣義憲同十九百政惠同西山重幸同小谷久雄ヲ各罰金百二十圓被告人宮下侶平同倉
 三者ノ演說ニ依リ選舉運動費用ノ支出ト其ノ違反 當選無効訴訟ノ準據手續法 二〇一 (四)

持泰二同關平三郎ヲ各罰金九十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ハ各金額三圓ヲ一日ニ折算シタル期間夫々被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨(其ノ他省略)ノ判決ヲ爲シタリ

被告人稻田直道ハ昭和十二年四月三十日施行セラレタル衆議院議員總選舉ニ際シ鳥取縣ヨリ立候補(同月六日届出)シ當選シタル者被告人松久常藏ハ候補者ノ選舉事務長(同月十四日届出)被告人荒川長、田中彌太郎、北垣義憲、宮本侶平、山根頼男、十九百政惠、山根甚一、倉持泰二、西山重幸ハ何レモ候補者ノ選舉委員被告人北川菊藏、關平三郎、小谷久雄、城上梅雄ハ何レモ法定ノ選舉運動者ニアラサルモノナルトコロ

第一 被告人稻田直道ハ

一 當選ヲ得ル目的ヲ以テ昭和十二年四月二十七日頃米子市西倉吉町森屋旅館事森源太郎方ニ於テ被告人西山重幸ニ對シ選舉運動報酬トシテ金十圓ヲ更ニ同人ヲ通シ被告人城上梅雄及濱橋とみニ對シ前同趣旨ノ下ニ各金十圓ヲ夫々供與シ

二 選舉事務長松久常藏ノ文書ニ依ル承諾ヲ得シテ

(イ) 同月二十日頃鳥取縣氣高郡青谷町青谷尋常高等小學校ニ於テ德田直一ニ對シ自己ノ應援辯士ノ宿泊料等ノ支拂ニ充ツル爲金二十五圓ヲ交付支出シ

(ロ) 同月二十三日頃扇書本籍鳥取市古市ノ自宅ニ於テ母親ノ手ヲ通シ被告人關平三郎ニ對シ演說會場設置費等ノ支拂ニ充ツル爲金二百圓ヲ交付支出シ

(ハ) 同月二十四日頃同縣日野郡根雨町大字根雨茶屋旅館事緒形舜一方ニ於テ德田直一ニ對シ自己ノ應援辯士等ノ宿泊料及自動車賃ノ支拂ニ充ツル爲二回ニ互リ合計約金百三十圓ヲ交付支出シ

(ニ) 同月二十八日頃前記森屋旅館事森源太郎方ニ於テ被告人西山重幸ニ對シ自己ノ應援辯士等ノ宿泊料其ノ他

ノ支拂ニ充ツル爲金九十圓ヲ交付支出シ

(ホ) 同日頃同縣東伯郡大誠村大誠尋常高等小學校ニ於テ被告人西山重幸ニ對シ演說會場設置費等ノ支拂ニ充ツル爲金七十圓ヲ交付支出シ

(ハ) 同日頃同縣同郡赤碓町大字赤碓中村旅館事村つな方ニ於テ被告人西山重幸ニ對シ二回ニ互リ自己ノ應援辯士等ノ宿泊料等ノ支拂ニ充ツル爲合計約金六十二圓ヲ交付支出シ

第二 被告人松久常藏、北川菊藏及荒川長ハ共謀ノ上

一 同候補者ヲシテ當選ヲ得シムル目的ニテ同月二十一日鳥取市西町政友會鳥取支部ニ於ケル同候補者ノ選舉事務所ニ於テ被告人田中彌太郎ニ金十五圓同北垣義憲、山根頼男、十九百政惠ニ各金十圓同山根甚一ニ金七圓原審相被告人森本嘉幸ニ金三圓ヲ夫々選舉委員トシテ選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ供與シ

二 同年五月二日頃右同所ニ於テ被告人田中彌太郎、北垣義憲ニ各金四十八圓同山根頼男、十九百政惠ニ各金四十四圓同山根甚一ニ金三十四圓原審相被告人森本嘉幸、澤田德藏ニ各金二十二圓被告人宮本侶平、倉持泰二、西山重幸ニ各金十六圓ヲ夫々選舉委員トシテ選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ供與シ

(中略)

タルモノニシテ右被告人稻田直道ノ金錢供與ノ點竝ニ選舉費用不法支出ノ點同松久常藏、荒川長、北川菊藏ノ各金錢供與ノ點同田中彌太郎、北垣義憲、山根頼男、十九百政惠、山根甚一、西山重幸、城上梅雄ノ各金錢ノ供與ヲ受ケタル點及同西山重幸ノ金錢供與ノ補助ノ點ハ孰レモ犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人稻田直道ノ判示所爲中金錢供與ノ點ハ衆議院議員選舉法第百十二條第一項第一號刑法第五十五條ニ選舉費用不法支出ノ點ハ同選舉法第百一第一項第百三十四條刑法第五十五條ニ該當スルトコロ以上ハ刑法第四十

第三者ノ被欺ニ依ル選舉運動費用ノ支出ト其ノ違反 當選無効訴訟ノ準備手續法

五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ前者ノ罪ニ付所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ同法第四十七條第十條ニ依リ其ノ重キ前者ノ罪ニ付定メタル刑ニ併加重テ爲シ被告人松久常藏、北川菊藏、荒川長ノ判示所爲中當選ヲ得シムル目的ヲ以テ爲シタル金錢供與ノ點ハ各同選舉法第十二條第一項第一號ニ選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ爲シタル金錢供與ノ點ハ各選舉法第十二條第一項第三號ニ該當スルトコロ判示第二ノ一ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ爲シタル金錢供與ノ點並ニ判示第二ノ二ノ選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ爲シタル金錢供與ノ點ハ何レモ同被告人三名ノ共犯ナルヲ以テ刑法第六十條ヲ適用シ以上ハ連續犯ナルヲ以テ同法第五十五條ニ從ヒ被告人田中彌太郎、北垣義憲、山根頼男、十九百政惠、山根甚一、城上梅雄、宮本信平、倉持泰二、關平三郎、小谷久雄ノ判示金錢ノ供與ヲ受ケタル所爲ハ同選舉法第十二條第一項第四號ニ該當スルトコロ被告人田中彌太郎、北垣義憲、山根頼男、十九百政惠、山根甚一、城上梅雄ノ所爲ハ各連續犯ナルヲ以テ刑法第五十五條ニ從ヒ被告人西山重幸ノ判示所爲中金錢供與ヲ受ケタル點ハ同選舉法第十二條第一項第四號ニ金錢供與ノ幫助ノ點ハ同選舉法第十二條第一項第一號刑法第六十三條ニ該當シ右ハ連續犯ナルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ依リ其ノ重キ前者ノ罪ノ刑ニ從フヘキトコロ被告人稻田直道ヲ除ク爾餘ノ被告人ニ對シテハ孰レモ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ右刑罰並ニ金額ノ範圍内ニ於テ各被告人ニ對シ主文ノ刑ヲ量定處斷シ被告人稻田直道ニ對シテハ刑法第二十一條ニ依リ主文記載ノ如ク原審ニ於ケル夫決勾留日數一部ノ本刑算入ヲ爲シ尙同選舉法第三十七條第三項ニ依リ同條第一項五年間選舉權及被選舉權ヲ有セサル旨ノ規定ヲ適用セス爾餘ノ被告人ニ對シテハ刑法第十八條ニ依リ罰金ヲ完納セサル場合ニ於テ主文記載ノ如ク夫々勞役場ニ留置スヘキモノトス

尙當選無効附帶訴訟ニ於テハ左記ノ事實ニ對シ昭和十二年四月三十日鳥取縣(全縣一區)ニ於テ施行セラレタル衆議院議員選舉ニ於ケル被告ノ當選ハ之ヲ無効トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

原告ハ主文同旨ノ判決ヲ求メ其ノ請求ノ原因トシテ被告ハ昭和十二年四月三十日施行セラレタル衆議院議員總選舉ニ際シ鳥取縣(全縣一區)ヨリ立候補(届出四月六日)ヲ爲シ同月十四日鳥取市瓦町百八十七番地同市會議員松久常藏ヲ自己ノ選舉事務長ニ選任シテ選舉運動ニ從事セシメ當選シタルモノナルカ選舉事務長松久常藏ハ同候補者ノ他ノ幹部ナル北川菊藏、荒川長ト共謀ノ上鳥取市西町政友會支部ナル同候補者ノ選舉事務所ニ於テ(一)同候補者ヲシテ當選ヲ得シムル目的ニテ同月二十一日頃選舉委員タル田中彌太郎ニ金十五圓同北垣義憲、山根頼男、十九百政惠ニ各金十圓同山根甚一ニ金七圓同森本嘉幸ニ金三圓ヲ夫々選舉運動ノ報酬トシテ供與シ(二)同年五月二日頃選舉委員ナル田中彌太郎、北垣義憲ニ各金四十八圓同山根頼男、十九百政惠ニ各金四十四圓同山根甚一ニ金三十四圓同森本嘉幸、澤田德藏ニ各金二十二圓宮本信平、倉持泰二、西山重幸ニ各金十六圓ヲ夫々選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ供與シ以テ衆議院議員選舉法第十二條該當ノ犯罪ヲ爲シタルニ依リ同選舉法第三十六條ノ規定ニ依リ被告ノ當選ハ無効ナルヲ以テ同選舉法第八十四條第二項ニ依リ右松久常藏ニ對スル公訴事件ニ附帶シ本訴ニ及ヒタリト陳述シ被告ノ抗辯ヲ否認スト答ヘ

被告訴訟代理人ハ本件訴ハ之ヲ却下ス又ハ原告ノ請求ハ之ヲ棄却ストノ判決ヲ求メ其ノ答辯トシテ被告カ昭和十二年四月三十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ鳥取縣ヨリ立候補ヲ爲シ松久常藏ヲ選舉事務長ニ選任シテ選舉運動ニ從事セシメ當選シタルコトハ認ムルモ選舉事務長松久常藏カ原告主張ノ如キ選舉違反ノ犯行ヲ爲シタリトノ點ハ否認ス假ニ松久常藏ニ於テ右違反ノ事實アリタリトスルモ被告ハ松久常藏ヲ選舉事務長ニ選任シ且監督スルコトニ付相當ノ注意ヲ爲シタルモノニシテ即チ選任ニ付テハ鳥取市ニ於ケル商工會議所會頭ニシテ政友會支部ノ代表者トモ稱スヘキ北川菊藏ノ推選ト一方同候補者自ラ政友團體タル鳥取市振興聯盟ノ主要ナル人物トモ相諮リ松久常藏ヲ適任者トシテ選任シタルモノニ係リ又其ノ監督ニ付テハ同候補者自ラ細心ノ注意ヲ拂ヒ機會アル毎ニ同選舉事務長ニ對シ違反行爲ヲキ

第三者ノ演說ニ依ル選舉運動費用ノ支出ト其ノ違反 當選無効訴訟ノ準據手續法

様注意スヘキ旨注告ヲ與ヘ居タルモノナリ然ルニ同選舉事務長ニ於テ本件犯罪ヲ爲スニ及ヒタルハ全ク法規ヲ知ラサ
リシニ因ルモノニシテ候補者タリシ被告ハ選任又ハ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルモノナレハ其ノ責ナク當選ハ無効
ニ非サルヲ以テ本訴請求ハ失當ナリト述ヘ

證據トシテ當事者雙方ハ本件公訴記録ヲ採用シタリ

按スルニ被告カ昭和十二年四月三十日施行ノ衆議院議員總選舉ニ際シ鳥取縣ヨリ立候補シ松久常藏ヲ選舉事務長ニ選
任シテ選舉運動ニ從事セシメ當選シタルモノナルコト竝ニ選舉事務長松久常藏カ原告主張ノ如ク北川菊藏、荒川長ト
共謀ノ上選舉委員田中彌太郎等ニ對シ選舉運動報酬トシテ金錢ヲ供與シタルコトハ當審ニ於ケル本件公訴判決中第二
事實認定ニ付引用セル證據ニ據リ之ヲ認ムルニ十分ナリ

仍テ被告カ選舉事務長ノ選任又ハ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタリヤ否ヤヲ稽フルニ被告ハ細心ノ注意ヲ拂ヒ機會アル
毎ニ選舉事務長松久常藏ニ對シ違反行爲ヲ注意シタリト主張スレトモ之ヲ認ムルニ足ル證據ナク却テ當審第一回
公判調書ニハ被告人松久常藏ノ供述トシテ同人ハ候補者タル被告ノ選任ニヨリ選舉事務長ト爲リ北川菊藏、荒川長ト
共ニ同選舉運動ニ關シ最高幹部ト爲リタルカ當時請負鐵道工事多忙ナリシ爲選舉事務所ニ出頭シ親シク事務ニ從事ス
ルコト能ハス隔日又ハ三日目ニ出勤シ其ノ主要事務タル選舉費用ノ支出ノ如キ他人ヲシテ之ニ當ラシメ又其ノ事務處
理上之ニ要スヘキ選舉事務長トシテノ捺印ノ如キ自ラ之ヲ爲シタルコトノ記憶ナキ旨記載アリテ其ノ執務上相當懈怠
アリタルコトヲ窺知シ得ヘク而シテ本件犯行カ其ノ間四月二十一日頃及五月二日頃ニ於テ反覆敢行サレタルモノナル
コト右認定スル如クニシテ當時候補者タル被告ニ於テハ具體的ニ運動費ノ使途及支拂ノ方法等ニ付實地調査ヲ爲ス等
監督上相當ノ注意ヲ爲スヘキ義務アリタルコト言フ俟タサルトコロナレハ若シ被告ニシテ此ノ注意義務ヲ怠ラサリシ
ニ於テハ本件犯行ノ如キ未然ニ之ヲ防止シ得タリト謂フモ敢テ過言ニ非サルトコロ該義務ノ履行ヲ爲シタルコトニ付

テハ之ヲ認ムヘキ何等ノ證左ナク況ンヤ該選舉ニ際リ被告自身ニ於テモ同選舉法第百一條及第百十二條第一項第一號
ニ該當スル違反行爲ヲ敢テ侵シ居レルコト本件記録編輯ノ原審公訴判決ニ依リ明カナルトコロナレハ彼此綜合考慮ス
ルニ於テ被告ハ其ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲スコトヲ怠リタルモノト認ムルヲ相當トスヘク從テ被告カ假令選任ニ付
相當ノ注意ヲ爲シタリトスルモ本件當選ハ到底無効タルヲ免レサルモノナルニ依リ原告ノ本訴請求ヲ正當トシ主文ノ
如ク判決シタリ

○主 文

原判決中被告人西山重幸、稻田直道及城上梅雄ニ關スル部分ヲ破毀ス

右被告人三名ニ係ル事件ヲ廣島控訴院ニ差戻ス

被告人松久常藏、北川菊藏、荒川長、田中彌太郎、北垣義憲、宮本侶平、山根賴男、十九百政惠、倉
持泰二、山根甚一、關平三郎、小谷久雄ノ上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス
當選無効訴訟ノ上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人島田俊雄、大久保躰上告趣意書第三點原判決ハ第一ノ二事實トシテ「被告人稻田直道
ハ選舉事務長松久常藏ノ文書ニ依ル承諾ヲ得シテ(イ)同月二十日頃鳥取縣高郡青谷尋常高等小
學校ニ於テ德田直一ニ對シ自己ノ應援辯士ノ宿泊料等ノ支拂ニ充ツル爲金二十五圓ヲ交付支出シ(ロ)

第三者ノ演說ニ依ル選舉運動費用ノ支出ト其ノ違反 當選無効訴訟ノ準備手續法

同月二十三日頃肩書本籍鳥取市古市ノ自宅ニ於テ母親ノ手ヲ通シ被告人關平三郎ニ對シ演說會場設費等ノ支拂ニ充ツル爲金二百圓ヲ交付支出シ(ハ)同月二十四日頃同縣日野郡根雨町大字根雨茶屋旅館事務形聲一方ニ於テ德田直一ニ對シ自己ノ應援辯士等ノ宿泊料及自動車賃ノ支拂ニ充ツル爲二回ニ互リ合計約金百三十圓ヲ交付支出シト認定シ被告人稻田ヲ選舉法第百一條第一項ノ違反罪ニ問擬シタリ然レトモ選舉法第百一條第二項ニハ「議員候補者選舉事務長選舉委員ニ非サル者ハ選舉運動ノ費用ヲ支出スルコトヲ得ス」ト規定シアリテ非法定運動者ハ選舉運動ノ費用ノ概算額ヲ受ケ之ヲ支拂フコトヲ得サルモノトス從テ議員候補者ハ非法定運動者又ハ議員候補者若ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得タル演說ニ依ル運動者ニ非サル者ニハ宿泊料車馬賃演說會場設費ノ如キ運動費用ト雖モ之前渡ヲ爲スコトヲ得サルモノトス若シ議員候補者カ非法定選舉運動者又ハ議員候補者若ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得サル演說ニ依ル運動者ニ假令宿泊料車馬賃等ノ費用ヲ交付シタリトスルモ之ヲ以テ選舉法第百一條規定ノ選舉費用ノ支出ヲ爲シタルモノト謂フコトヲ得サルモノト解スルヲ妥當トス然ルニ判示德田直一及關平三郎ハ法定ノ選舉運動者ニ非サルノミナラス議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得タル演說ニ依ル選舉運動者ニモ非サルコトハ記録上明白ナル事實ナルヲ以テ之ニ對シ判示金員ヲ交付シタル被告人稻田ノ行爲ハ選舉費用ノ支出ヲ爲シタルモノト爲スニ由ナク他罪ヲ構成スルハ格別選舉法第百一條第一項ノ違反罪ヲ構成スルモノニ非ス故ニ本件ノ場合被告人ノ判示

行爲ヲ同罪ニ問擬スルニハ右德田直一及關平三郎ハ法定ノ選舉運動者ナリヤ將又議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得タル演說ニ依ル運動者ナルコトヲ事實理由ニ明示セサルヘカラサルモノナリトス然ルニ何等此ノ事實ヲ明カニセス輕ク被告人稻田ヲ同罪ニ問擬處斷シタル原判決ハ擬律錯誤ノ違法アルカ又ハ事實理由不備ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニ在リ因テ案スルニ衆議院議員選舉ニ際シテハ何人ト雖演說ニ依ル選舉運動ヲ爲スコトヲ得ヘク之カ運動ヲ爲シタルトキハ費用ノ隨伴スヘキコトモ勿論ナリトス而シテ議員候補者カ右運動ノ費用ヲ支出スルニハ其ノ運動カ法定ノ選舉運動者ニ依リ爲サレタル場合ナルト第三者ニ依リ爲サレタル場合ナルトニ依リ其ノ要件ヲ異ニスヘキコト衆議院議員選舉法第九十七條ノ法意ニ照シ疑ナキ所ナリ議員候補者カ選舉委員ノ爲シタル演說ニ依ル選舉運動ノ費用ヲ支出スルニハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得サルコト同法第百一條第一項ノ解釋上洵ニ明ナリ又第三者カ演說ニ依リ選舉運動ヲ爲シタルトキ先ニ要シタル費用ヲ自ラ負擔スルトキハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ要セス此ノ場合ハ右第一項ノ適用ナキコトモ同條第二項ト對照スレハ洵ニ明ナリ然レトモ第三者ノ爲シタル演說ニ依ル選舉運動ニ付議員候補者カ其ノ費用ヲ支出セントスルトキハ右第九十七條ニ依リ其ノ運動カ豫メ議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾アリタル場合ニ限リ之ヲ爲シ得ヘク此ノ場合ニ於テモ更ニ事前ニ選舉事務長ノ文書ニ依リ之カ承諾ヲ得ルコトヲ要スヘキモ右演說ニ依ル選舉運動ニシテ豫メ

【要旨第一】

彼上運動ニ付其ノ承諾ナキニ拘ラス之カ支出ヲ爲シタルトキハ同法第一百十二條ノ犯罪ヲ構成スヘク同法第一百一條第一項ヲ適用スヘキモノニ非ス原判決第一ノ二(イ)(ロ)(ハ)ノ事實ハ論旨摘録ノ如クニシテ之ヲ引用證據ヨリ觀ルニ議員候補者カ費用ノ支出ニ付選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得ナリシコト明カナルモ徳田直一カ選舉運動者ナリヤ否ヤヲ知ルニ由ナク又右直一ノ外關平三郎ヲ第三者ナリトセハ豫メ議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得タル運動ナリヤ否ヤヲ知ルニ由ナキヲ以テ原判決ノ如ク同法第一百一條ヲ適用スルニハ理由不備ノ違法アルト同時ニ判示所爲ニ對シ同法第一百十二條ヲ適用セントセハ判示第一ノ一ト連續ノ關係ニアルヘキ疑存スルモ更ニ事實ヲ確定スルニ非ナレハ之ヲ適用スルニ由ナク本論旨ハ其ノ理由アリ而シテ右破毀ノ理由ハ上告ヲ爲シタル共同被告人タル西山重幸、城上梅雄ニ對シテモ共通ナルヲ以テ此等被告人ノ上告論告ニ對スル說明ヲ省略シ且本院ニ於テ自ラ事實ノ審理ヲ爲スヲ適當ナラストスルヲ以テ彼上被告人三名ニ付テハ事件ヲ廣島控訴院ニ差戻スヘキモノトス

當選無効附帶訴訟代理人辯護士名川侃市上告趣意書第一點原判決ハ上告人提出ノ證據ヲ全然看過シタル違法アリ原判決ハ其ノ理由ノ說明ニ於テ被告カ選舉事務長松久常藏ニ對シ違反行爲ナキ様注意シタリトノ主張ハ之ヲ認ムヘキ證據ナク且松久常藏カ選舉委員田中彌太郎外九人ニ對シ選舉運動ノ報酬トシテ金錢ヲ供與シ而モ該違反ハ四月二十一日及五月二日頃ニ於テ行ハレタルモノニシテ當時候補者タル被告(上告人)ニ於テ具體的ニ運動金ノ使途及支拂方法ニ付實地調査ヲ爲ス等監督上相當ノ注意ヲ爲スヘキ義務アリタルコト言フヲ俟タサル所ナレハ若シ被告ニシテ注意義務ヲ怠ラザリシニ於テハ本件犯行ノ如キ未然ニ之ニ防止シ得タリト云フモ敢テ過言ニ非サルトコロ該義務ノ履行ヲ爲シタルコトニ付テハ之ヲ認ムヘキ何等ノ證左ナク況ンヤ該選舉ニ際リ被告自身ニ於テモ同選舉法第一百一條及第一百二條第一項第一號ニ該當スル違反行爲ヲ敢テ犯シ居レルコト本件記録編輯ノ原審公訴判決ニ依リ明ナルトコロナレハ彼は綜合考覆スルニ於テ被告ハ其ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ怠リタルモノト認ムルヲ相當トスヘクト判示セリ然レトモ被告松久常藏ニ對スル昭和十二年七月二日附豫審調書ノ第十一問「稻田カラ選舉運動方法ニ付注意的ナ話カアツタ様ナコトカアルカ答四月十五日頃ノコトアツタと思ヒマスカ支部(事務所)ノ二階ヲ稻田カラ法ニ觸レル様ナコトノナイ様ニト云フ話カアリマシタ夫ハ支部室ヲ荒川モ居タト思ヒマス」ノ供述錄取アリ又第一審第一回公判調書中北川ノ供述トシテ「稻田カラ充分注意シテ持ツテ居テ遣ツテ吳レト云フテ其ノ金モ私カ預ツテ居リマシタ云々充分ノ注意ヲシテ遣ツテ吳レト云フタ其ノ注意ト云フ意味ハ總テ不正ノコトノナイ様違反ノ起ラス様ニト云フ意味ヲアリマス云々又稻田ヨリ事務長ニ違反ノナイ様注意スヘキコトヲ傳ヘテ吳レトノコトヲ私ヨリ事務長ニ十分注意シテ遣ツテ吳レト申上ケテ居リマス」トノ旨ノ供述錄取アリ之ニヨレハ上告人カ直接ニ事務長松久常藏ニ對スル監督トシテ違反行爲ヲ爲スヘカラサルコトヲ注意シ又上告人カ演說ノ爲メ出張シ

事務所ニ不在ノ時ハ金錢ノ保管者タル北川菊藏ニ依頼シ同人ヲシテ事務長ノ監督ヲ爲シメタルコトヲ十分ニ證明シタリ然ルニ原判決カ此ノ證據ヲ看過シ何等ノ證據ナシト認定セルハ違法ノ甚シキモノナリ且又原判決ハ上告人ニ選舉違反行爲ノ存在セル事實ヲ捉ヘ監督ニ相當ノ注意ヲ爲サザリシ證據ト爲セルモ本人ニ違反行爲ノ存在スルノ一事ヲ捉ヘテ直ニ監督ヲ怠レルモノト爲セルハ違法ナリト云ハサルヘカラス蓋シ本人カ違反ヲ爲セルコトト事務長ニ對スル監督ヲ爲サザリシコトトハ全然別個ノ事實ナレハナリ加之原判決ハ上告人ニ選舉違反行爲ノアリタルコトハ記録編綴ノ第一審公訴判決ニ依リ明瞭ナリト説明セルモ未確定ナル第一審判決ハ上告人カ犯罪行爲ヲ爲シタルコトノ證據ト爲サルモノニ非ス從テ原判決ハ虛無ノ證據ト全然關係ナキ別個ノ事實トニ依リ上告人カ監督ノ義務ヲ怠リタリト認メ相當ノ監督ヲ爲シタリトシテ提出セル證據ヲ閑却セル違法アリト云ヒ第二點原判決ハ依テ被告カ選舉事務長ノ選任又ハ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタリヤ否ヤヲ稽フルニ被告ハ細心ノ注意ヲ拂ヒ機會アル毎ニ選舉事務長松久常藏ニ對シ違反行爲ナキ様注意ヲ爲シタリト主張スレトモ之ヲ認ムル證據ナク却テ當審第一回公判調書ニハ被告人松久常藏ノ供述トシテ同人ハ候補者タル被告ノ選任ニヨリ選舉事務長ト爲リ北川菊藏、荒川長ト共ニ同選舉運動ニ關シ最高幹部トナリタルカ當時請負鐵道工事多忙ナリシ爲メ選舉事務所ニ出頭シ親シク事務ニ従事スルコト能ハス隔日又ハ三日目ニ出勤シ其ノ主要事務タル選舉費用ノ支出ノ如キ他人ヲシテ之ニ當ラシメ又其ノ事務處理上之ニ要スヘキ選舉事務長

トシテノ捺印ノ如キ自ラ之ヲ爲シタルコトノ記憶ナキ旨記載アリ其ノ執務上相當ノ懈怠アリタルコトヲ窺知シ得ヘク云々ト説明セリ然レトモ本件ハ松久常藏カ選舉委員ニ報酬ヲ與ヘタルコトヲ以テ選舉違反行爲ト爲セルモノナルヲ以テ松久常藏カ選舉事務ニ懈怠アリタルコトハ該違反並ニ上告人ノ監督懈怠ニ何等ノ關係ナキモノナリ然ルニ松久個人ノ懈怠ヲ以テ上告人ノ監督懈怠ノ事實認定ノ材料ト爲セルハ違法ナリト云ハサルヘカラスト云ヒ第三點原判決ハ第一點所論ノ如ク上告人カ選舉事務長松久常藏ニ對シ具體的ニ運動費ノ使途及支拂方法ニ付實地調査ヲ爲ス等監督上相當ノ注意ヲ爲スニ於テハ本件犯行ヲ未然ニ防止シ得タリト説明セルモ原判決認定ノ選舉委員田中彌太郎外九人ニ金錢ヲ與ヘタルハ北川菊藏ノ手ヨリ出金シタルモノニシテ松久常藏カ選舉運動費トシテ保管セル金錢ヲ支出セルモノニ非ス松久常藏ハ單ニ其ノ供與ニ就キ相談ヲ受ケタルニ止レリ然ラハ松久ニ對シ具體的ニ運動費ノ使途支拂方法ヲ調査スルコトト右供與トハ全然別個ノモノナリ然ルニ之ヲ以テ違反ヲ未然ニ防止シ得ザリシ監督不行届ト爲スハ誤認ノ甚シキモノナリト云フニ在レトモ

原判決ニ於テ所謂之ヲ認ムヘキ證據ナシト說示セルハ措信スヘキ證據ナシトノ趣旨ニシテ上告代理人ノ提出シタル證據ヲ閑却シタリト解スヘキニ非サルノミナラス當選無效訴訟ニ付テハ刑事訴訟法中特例ノ場合ヲ除クノ外私訴ニ關スル規定ヲ準用スヘク證據調及判決ニ付テモ民事訴訟法ノ例ニ依ラサルコト衆議院議員選舉法第四百一條ノ二、刑事訴訟法第五百七十七條ヲ對照スレハ洵ニ明ナリ故ニ判

【要旨第二】

第三者ノ演說ニ依ル選舉運動費用ノ支出ト其ノ違反 當選無效訴訟ノ證據手續法

決ヲ爲スニ當リ當事者ノ提出シタル凡テノ證據ニ付判斷ヲ示スノ要ナキモノトス而シテ本件ハ選舉事務長松久常藏カ右選舉法第十二條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルコトヲ原因トシ上告人ニ對シ當選無効ノ判決ヲ爲シタルモノニシテ其ノ趣旨トスル所ハ同人ハ上告人ノ選任ニヨリ選舉事務長ト爲リタルニ事務怠慢ニシテ且本件犯行ヲ反覆シタルニ拘ラス上告人カ之ヲ看過シタルハ其ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ缺キタルモノナルニ拘ラス上告人ニ其ノ注意ヲ爲シタリノ證據ナシト云フニ歸ス斯ル場合ニハ當選人カ其ノ監督ニ付怠慢アリト爲シ當選ヲ無効トスヘキコト本院判例ノ趣旨トスル所ナリ而シテ本件當選無効原因等ニ付テハ公訴判決及本判決ニ引用セル各證據ニ依リ優ニ之ヲ認メ得ヘク記錄ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルモノアルヲ認メス尤モ原判決ハ上告人ニ對スル第一審ノ未確定判決ヲ證據ニ引用セルハ探證法則上誤ナルコト更ニ絮說ヲ要セスト雖右判決ヲ除外シ他ノ引用證據ニ依ルモ本件當選無効ノ原因アルコトヲ認メ得ヘキヲ以テ之ヲ云爲スルハ當ラサルモノトス故ニ原判決ニハ所論ノ如ク破毀スヘキ點ナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ被告人西山重幸、稻田直道及城上梅雄ニ付テハ刑事訴訟法第四百四十八ノ二其ノ他ノ被告人ニ付テハ同法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事井上貫一關與

○公文書偽造行使詐欺被告事件(昭和十四年(九)第四九號 同年四月十四日第三刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 東京控訴院檢事長 吉益俊次
 被告人 有邊七藏 辯護人 赤井幸夫

【第一審】 浦和地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ノ適用——刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ノ適用アル場合ト刑法第二十一條

○判決要旨

一 苟モ檢事ノ上訴アリタルトキハ被告人其ノ他檢事以外ノ者ノ上訴アリタルト否ト問ハス又其ノ上訴ノ理由アリタルト否ト問

刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ノ適用 刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ノ適用アル場合ト刑法第二十一條

分タス常ニ刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ノ適用アル
モノトス【要旨第一】

二 刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ニ依リ上訴申立後ノ勾
留日數全部カ本刑ニ算入セラルヘキ場合ニ於テハ刑法第二十一
條ヲ適用シテ其ノ勾留日數一部算入ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非
ス【要旨第二】

【參照】 刑事訴訟法第五百五十六條第一項 上訴申立後ノ未決勾留ノ日數ハ左ノ例ニ
依リ之ヲ本刑ニ通算ス

- 一 檢事ノ上訴ナルトキハ勾留日數ノ全部
 - 二 檢事ニ非サル者ノ上訴ニシテ其ノ理由アルトキハ勾留日數ノ全部
- 刑法第二十一條 未決勾留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

○ 事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人兩名ヲ各懲役八年ニ處ス被告人兩名ニ對シ
未決勾留日數中原審ニ於ケル二百日及當審ニ於ケル百八十日ヲ夫々右各本刑ニ算入スル旨（沒收並訴
訟費用ノ點省略）ノ判決ヲ爲シタリ

被告人清次ハ大正九年五月埼玉縣屬ニ任セラレテ同縣内務部地方課豫算係ヲ命セラレ次テ大正十五年七月創設セラレ

タル同縣内務部庶務課勤務ヲ命セラレテ同課主席屬ト爲リ同課ノ管掌スル縣ノ歳入歳出豫算ニ關スル事項縣會縣參事
會ニ關スル事項等ノ事務ニ從事シ居リタルカ其ノ後同課カ同縣總務部庶務課ト爲リタル後モ引續キ同課主席屬トシテ
同事務ニ從事シ更ニ昭和七年九月同縣總務部會計課長ヲ命セラレ同縣出納吏ト爲リ同課ノ管掌スル縣費ノ出納及決算
（縣稅ヲ除ク）ニ關スル事項縣金庫ニ關スル事項等ノ事務ニ從事シ昭和八年五月地方事務官ニ任セラレ昭和十一年十
一月十一日依願免官ト爲リタルモノニシテ被告人七藏ハ大正六年以來引續キ昭和十一年マテ同縣南埼玉郡越ヶ谷町長
ヲ勤メ居リタルモノナルカ同町長タル被告人七藏ハ昭和三年頃ヨリ越ヶ谷町立實科高等女學校ノ埼玉縣移管ニ關スル
運動ヲ爲シ同女學校移管ノ前提條件タル同町ヨリ縣ニ對スル女學校建築費及敷地ノ寄附ニ要スル資金ニ充ツル爲同町
ニ於テ昭和四年八月十四日東京市麹町區丸ノ内一丁目六番地東京海上ビルディング新館内ノ鴻池信託株式會社東京支
店ヲ通シ大阪市東區北濱五丁目所在ノ同會社ヨリ金十二萬圓ヲ借入レタル際被告人清次ニ於テ被告人七藏ニ對シ右女
學校縣移管ノ前提條件タル寄附ノ實行ノ助言ヲ爲シ且豫テ自己カ同縣庶務課主席屬トシテ縣債借入ニ關スル契約ヲ爲
シタルコトアル右鴻池信託株式會社ヲ紹介シテ右寄附資金借入ノ便宜ヲ與ヘタルコトヨリシテ被告人兩名ハ懇親ノ間
柄トナルニ至リタルモノナルトコロ被告人等ハ共同シテ株式米穀等ノ定期取引ニ依リ巨利ヲ博センコトヲ企テ其ノ資
金ヲ獲得セムカ爲共謀ノ上

第一 被告人七藏ニ於テ昭和五年一月中旬ヲ知ラサル東京市京橋區京橋二丁目二番地千代田館内金融仲介業者和田正
一及其ノ事務員木津芳一ノ仲介ニ依リ同市日本橋區室町二丁目一番地三井信託株式會社ニ到リ同會社係員ニ對シ前
記越ヶ谷町立實科高等女學校ヲ埼玉縣ニ移管スルコトノ條件タル同町ヨリ同縣ニ對スル女學校建築費及敷地ノ寄附
ニ要スル資金ニ充ツル爲同町ニ於テ昭和四年度内ニ一時借入金トシテ金十二萬圓ヲ借入レ度ク其ノ返済資金ハ同縣
ニ於テ同町ニ融通ヲ爲スヘキ旨詐言ヲ構ヘテ金借ヲ申込ミ既ニ前記ノ如ク同町カ鴻池信託株式會社ヨリ右寄附ニ要

スル資金十二萬圓ヲ借入レタルコトヲ秘シ義ニ同町會カ昭和四年七月二十八日右寄附及其ノ資金借入等ニ關スル豫算其ノ他ノ議案ヲ原案通り可決シタル旨ノ會議録ノ謄本及同豫算案寫並同町カ昭和四年度ニ於テ金十二萬千七百九十一圓以内ヲ借入レ昭和五年五月三十一日迄ニ償還スヘキコト等ヲ定メタル一時借入金ニ關スル右町會議案寫等ヲ差入レ置キタル上被告人清次ニ於テ昭和五年一月下旬頃埼玉縣廳内ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ同縣知事細川長平ノ官氏名ヲ冒書シ情ヲ知ラサル同廳ノ給仕某ヲシテ其ノ名下ニ同縣知事官房主事保管ノ埼玉縣知事之印ト彫刻シアル印ヲ盜捺セシメテ越ケ谷町ノ三井信託株式會社ニ對スル右借入金十二萬圓ノ返済資金ハ昭和五年五月末日迄ニ縣所管慈善救濟資金中ヨリ同町ニ貸渡スヘキコトヲ決定シタル旨ノ同年二月(日空白)附同知事名義同町長被告人七藏宛ノ書面一通ヲ偽造シタル上之ヲ被告人七藏ニ交付シ被告人七藏ハ右偽造文書ノ交付ヲ受クルヤ前記越ケ谷町債名義ノ下ニ金員ヲ騙取スル必要上情ヲ知ラサル同町収入役會田利治郎ヲ伴ヒ同年二月五日前記三井信託株式會社ニ到リ振出人埼玉縣南埼玉郡越ケ谷町長有瀧七藏金額十二萬圓滿期日同年五月三十一日等ト定メタル同年二月五日附同會社宛約束手形一通ヲ作成シタル上之ヲ前記偽造文書ニ添附シ即時同所ニ於テ同會社係員ニ對シ該偽造文書ヲ真正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒテ提出行使シ因テ同係員ヲシテ眞實越ケ谷町ニ於テ金十二萬圓ヲ借入レ埼玉縣ニ於テ同町ニ對シ其ノ返済資金ノ融通ヲ爲スモノナリト誤信セシメ因テ同會社ヲシテ同町借入金名義ノ下ニ振出人同會社支拂人株式會社三井銀行振出日昭和五年二月五日金額十一萬七千三百三十四圓四十二錢(此ノ金額ハ昭和五年二月五日ヨリ右約束手形ノ滿期日タル同年五月三十一日マテノ年七分ノ割合ニ依ル利息金二千六百六十九圓五十八錢ヲ金十二萬圓ヨリ控除セル殘額)小切手一通ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第二 被告人清次ニ於テ

(一) 昭和五年四月下旬頃前記鴻池信託株式會社東京支店ニ於テ同會社係員ニ對シ埼玉縣ニ於テ昭和五年度内一時

借入金トシテ金三十萬圓ヲ借入レ度キ旨詐言ヲ構ヘテ金借ヲ申込ミタル上其ノ頃埼玉縣廳内ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ(甲)同縣知事細川長平ノ官氏名ヲ冒書シ其ノ名下ニ同縣知事官房主事保管ノ前示知事印ヲ盜捺シテ(イ)同縣カ金三十萬圓ヲ期限昭和六年五月三十日迄利息日歩金一錢七厘等ノ約定ニテ借入受領シタル旨ノ昭和五年五月十五日附同知事名義同會社宛ノ借用證書一通(ロ)同知事印ヲ盜捺シテ顯出シタル同知事ノ印鑑ニ對スル昭和五年五月十五日附同知事名義ノ證明書一通(昭和十一年押第一五一號ノ檢第一〇四號)(ハ)同縣庶務課所屬ノ他ノ縣屬ノ保管ニ係ル埼玉縣屬之印ト彫刻シアル印類ノ一ヲ盜捺シテ顯出シタル同縣出納吏同縣屬澤野喜作ノ印鑑ニ對スル同日附同知事名義ノ證明書一通(同押號ノ檢第一〇五號)(乙)同知事ノ官氏名ヲ冒書シ其ノ名下ニ同縣知事官房主事保管ノ埼玉縣印ト彫刻シアル印類ヲ又契印等ニ同縣參事會書記保管ノ埼玉縣參事會ト彫刻シアル印類ヲ夫々盜捺シテ同縣參事會カ昭和五年三月二十九日一時借入金ニ關スル件及同縣起債並ニ償還方法其ノ他ノ各議案ヲ可決確定シタル旨ノ會議録ノ同年(月日空白)附同縣參事會議長同知事名義ノ認證書一通(同押號ノ檢第一〇七號)(丙)前記澤野出納吏ノ官氏名ヲ冒書シ其ノ名下ニ前記縣屬印ヲ盜捺シテ前記(甲)ノ(イ)ノ縣借入金三十萬圓ヲ領收シタル旨ノ昭和五年五月十五日附同出納吏名義前記會社宛ノ領收證一通(同押號ノ檢第一〇六號)ヲ順次偽造シ同年五月十五日頃前記會社東京支店ニ於テ同會社係員ニ對シ右各偽造文書ヲ執レモ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ一括シテ之ヲ提出行使シ因テ同係員ヲシテ眞實埼玉縣ニ於テ借入ヲ爲スモノト誤信セシメ同會社ヨリ同縣借入金名義ノ下ニ振出人株式會社鴻池銀行東京支店支拂人日本銀行金額十二萬圓ノ小切手一通及振出人支拂人前同縣金額十七萬九千三百三十三圓(此ノ金額ハ同年五月十五日ヨリ同月末日迄十七日間ノ金三十萬圓ニ對スル利息金八百六十七圓七角八分)ヨリ控除セル殘額)ノ小切手一通ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(二) 昭和六年五月二十四日頃埼玉縣廳内ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ(甲)同縣知事山中恒三ノ官氏名ヲ冒書シ其ノ

刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ノ適用 刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ノ適用アル場合ト刑法第二十一條

名下ニ前掲(一)ノ甲記載ノ知事印ヲ捺捺シテ(イ)同縣カ金二十五萬圓ヲ期限昭和七年三月三十一日迄利息日歩金一錢六厘五毛等ノ約定ニテ借入受領シタル旨ノ昭和六年五月二十四日附同知事名義前記鴻池信託株式會社宛ノ借用證書一通(ロ)同會社東京支店ヨリ豫メ交付ヲ受ケ置キタル印刷シタル印刷用紙ノ各相當欄ニ前掲(一)記載ノ縣印及知事印並ニ同縣庶務課所屬ノ他ノ縣屬ノ保管ニ係ル埼玉縣屬之印ト彫刻シタル印刷ノ一ヲ各捺捺シ尙要所ニ夫々適當ノ記入ヲ爲シタル昭和六年五月二十三日附同知事名義同會社東京支店宛ノ同縣代表者山中知事並ニ其ノ代理人同縣出納吏會計課長同縣屬中村貞藏ノ各印鑑ノ屬書一通(同押號ノ豫第二〇三號)(乙)右中村出納吏ノ官氏名ヲ冒署シ其ノ名下ニ右縣屬印ヲ捺捺シテ同會社東京支店ヨリ豫メ交付ヲ受ケ置キタル印刷ノ領收證明紙ノ要所ニ夫々適當ノ記入ヲ爲シ前記甲ノ(イ)ノ縣借入金二十五萬圓ヲ領收シタル旨ノ昭和六年五月二十四日附同出納吏名義同會社宛ノ領收證明一通(同押號ノ檢第一〇〇號)ヲ順次偽造シ昭和六年五月二十四日同會社東京支店ニ於テ同會社係員ニ對シ前掲(一)記載ノ縣借入金三十萬圓ノ内金返濟名義ノ下ニ金五萬圓ヲ交付スルト共ニ殘金二十五萬圓ヲ同縣一時借入金トシテ借換フル名義ノ下ニ右各偽造文書ヲ執レモ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ一括シテ提出行使シ

(三) 昭和七年三月下旬頃埼玉縣廳内ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ(甲)同縣知事宮脇梅吉ノ官氏名ヲ冒署シ其ノ名下ニ前掲(一)ノ甲記載ノ知事印ヲ捺捺シテ同縣カ金二十五萬圓ヲ期限昭和八年三月三十一日迄利息日歩一錢九厘五毛等ノ約定ニテ借入受領シタル旨ノ昭和七年三月三十一日附同知事名義鴻池信託株式會社宛ノ借用證書一通(乙)同縣庶務課保管ノ同知事名義ノ右縣參事會各議案謄寫版刷寫三通ヲ使用シ之ニ記載シタル昭和七年三月三十一日提出ナル語句ノ提出ノ文字ヲ執レモ削除シ之ニ更ヘ夫々議決ノ文字ヲ挿入シテ同日議決ト變改シ各同知事名下ニ前記知事印ヲ捺捺シテ(イ)同縣カ昭和六年度ニ於テ金五十萬圓ヲ起債シ昭和七年度末迄ニ償還スヘキ旨

等ヲ定メタル昭和六年度砂利採取事業費起債並ニ償還方法ニ關スル同知事名義ノ右縣參事會議決書一通(同押號ノ檢第九九號)(ロ)昭和六年度同事業費歳入歳出追加更正豫算ニ關スル同知事名義ノ右縣參事會議決書一通(同押號ノ檢第九七號)(ハ)昭和七年度同事業費歳入歳出追加豫算ニ關スル同知事名義ノ右縣參事會議決書一通(同押號ノ檢第九八號)(丙)前記鴻池信託株式會社東京支店ヨリ豫メ交付ヲ受ケ置キタル印刷シタル領收證明紙ノ要所ニ夫々適當ノ記入ヲ爲シ同縣出納吏同縣屬中村貞藏ノ官氏名ヲ冒署シ前掲(一)記載ノ縣屬印ヲ捺捺シテ前記(甲)ノ縣借入金二十萬圓ヲ領收シタル旨ノ昭和七年三月三十一日附同出納吏名義同會社宛ノ領收證明一通(同押號ノ檢第九五號)ヲ順次偽造シ同年三月三十一日頃同會社東京支店ニ於テ同會社係員ニ對シ前掲(一)記載ノ縣借入金二十五萬圓ノ内金返還名義ノ下ニ金五萬圓ヲ交付スルト共ニ殘金二十萬圓ヲ同縣一時借入金トシテ借換フル名義ノ下ニ右各偽造文書ヲ執レモ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ一括シテ提出行使シ(丁)更ニ行使ノ目的ヲ以テ同年四月中情ヲ知ラサル同縣參事會書記柳澤幸藏ヲシテタイプライターニ依リ印字セシメ置キタル用紙ヲ使用シ作成名義ノ同知事名下及契印ニ前記知事印ヲ捺捺シテ同縣參事會カ昭和七年三月三十一日昭和六年度砂利採取事業費起債並ニ償還方法同年度事業費歳入歳出追加更正豫算昭和七年度同事業費歳入歳出追加豫算等ノ各議案ヲ原案通り可決確定シタル旨ノ同縣參事會會議錄ノ昭和七年四月(日空白)附同知事名義ノ認證書本一通(同押號ノ檢第九六號)ヲ偽造シ其ノ頃同會社東京支店ニ於テ同會社係員ニ對シ恰モ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒテ提出行使シ

(四) 昭和七年六月十六日頃前記鴻池信託株式會社東京支店ニ於テ同會社係員ニ對シ埼玉縣ニ於テ昭和七年度内一時借入金トシテ金十萬圓ヲ借入レ度キ旨ヲ稱ヘテ金借ヲ申込ミタル上其ノ頃埼玉縣廳内ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ(甲)前掲(三)ノ(甲)記載ト同様ニ宮脇知事ノ官氏名ヲ冒署シ其ノ名下等ニ知事印ヲ捺捺シテ(イ)同

刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ノ適用 刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ノ適用アル場合ト刑法第二十一條

縣カ金十萬圓ヲ期限昭和八年三月三十一日迄利息日歩金一錢九厘等ノ約定ニテ借入受領シタル旨ノ昭和七年六月十六日附同知事名義同會社宛ノ借用證書一通(ロ)同縣參事會カ昭和七年六月十日一時借入金ニ關スル件等ノ議案ヲ原案通リ可決確定シタル旨ノ會議錄ノ同月十五日附同知事名義ノ認證書一通(同押號ノ檢第九〇號)(ハ)同縣カ金六十萬圓以內ヲ借入レ昭和八年三月末日迄ニ償還スヘキ旨等ヲ定メタル一時借入金ニ關スル同知事名義ノ右縣參事會議案書一通(同押號ノ檢第九四號)(ニ)前記會社東京支店ヨリ豫メ交付ヲ受ケ置キタル印刷シタル印鑑屆書用紙ノ相當欄ニ右知事印及同縣庶務課所屬ノ他ノ縣屬ノ保管ニ係ル埼玉縣屬之印ト彫刻シタル印刷シタル各捺捺シ尙要所ニ夫々適當ノ記入ヲ爲シタル昭和七年六月十五日附同知事名義同會社東京支店宛ノ同縣代表者同知事並ニ其ノ代理人同縣出納吏同縣會計課長同縣屬山内好秀ノ各印鑑屆書一通(同押號ノ豫第二〇四號)(乙)同會社東京支店ヨリ豫メ交付ヲ受ケ置キタル印刷シタル領收證明紙ノ要所ニ夫々適當ノ記入ヲ爲シ右山内出納吏ノ官氏名ヲ冒署シ其ノ名下ニ右縣屬印ヲ捺捺シテ前記(甲)ノ(イ)ノ縣借入金十萬圓ヲ領收シタル旨ノ昭和七年六月十六日附同出納吏名義同會社宛ノ領收證明一通(同押號ノ檢第八九號)ヲ順次偽造シ其ノ頃同會社東京支店ニ於テ同會社係員ニ對シ右各偽造文書ヲ執レモ真正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ一括シテ提出行使シ因テ同會社係員ヲシテ眞實埼玉縣ニ於テ借入ヲ爲スモノト誤信セシメ同會社ヨリ同縣借入金名義ノ下ニ振出人株式會社鴻池銀行東京支店支拂人日本銀行金額十萬圓ノ小切手一通ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(五) 昭和八年三月六日頃埼玉縣廳內ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ同縣知事福島繁三ノ官氏名ヲ冒署シ其ノ名下ニ同縣會計課長トシテ被告人清次自ラ保管スル埼玉縣知事之印ト彫刻シタル印刷ヲ捺捺シテ同縣カ前掲(三)及(四)記載ノ各借入金ヲ昭和八年五月二十日迄ニ完済スヘキ旨ノ同年三月六日附同知事名義前記鴻池信託株式會社宛ノ辨濟期限延長差入證一通(同押號ノ檢第八八號)ヲ偽造シ其ノ頃同會社東京支店ニ於テ同會社係員ニ對シ該偽造文書ヲ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒテ提出行使シ

(六) 昭和八年五月三十一日頃埼玉縣廳內ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ(甲)前掲(五)記載ト同様ニ福島知事ノ官氏名ヲ冒署シ其ノ名下等ニ知事印ヲ捺捺シテ(イ)同縣カ金三十萬圓ヲ期限昭和八年十一月三十日迄利息日歩一錢九厘等ノ約定ニテ借入受領シタル旨ノ同年五月三十一日附同知事名義鴻池信託株式會社宛ノ借用證書一通(ロ)同縣參事會カ昭和八年五月二十五日同年一度一時借入金ニ關スル件等ノ議案ヲ原案通リ可決確定シタル旨ノ會議錄ノ同月三十日附同知事名義ノ認證書一通(同押號ノ檢第八六號)(ハ)同縣カ金五十萬圓ヲ借入レ七箇月以內ニ償還スヘキ旨等ヲ定メタル昭和八年一度一時借入金ニ關スル同知事名義ノ右縣參事會議案一通(同押號ノ檢第八七號)(ニ)前記會社東京支店ヨリ豫メ交付ヲ受ケ置キタル印刷シタル印鑑屆書用紙ノ相當欄ニ右知事印及同縣出納吏タル同縣會計課長トシテ被告人清次自ラ保管スル埼玉縣出納吏之印ト彫刻シタル印刷ヲ各捺捺シ尙要所ニ夫々適當ノ記入ヲ爲シタル同縣代表者同知事並ニ其ノ代理人同縣出納吏地方事務官被告人清次ノ各印鑑ノ昭和八年五月二十九日附同知事名義前記會社東京支店宛ノ屆書一通(同押號ノ豫第二〇五號)(ホ)右出納吏印ヲ捺捺シテ顯出シタル同縣出納吏地方事務官被告人清次ノ印鑑ニ對スル昭和八年五月三十一日附同知事名義同會社宛ノ證明書一通(同押號ノ檢第八五號)(乙)同會社東京支店ヨリ豫メ交付ヲ受ケ置キタル印刷シタル領收證明紙ニ同縣出納吏タル自己ノ職務ニ關シ其ノ資格ヲ濫用シテ署名シ其ノ名下ニ右出納吏印ヲ捺捺シテ其ノ要所ニ夫々適當ノ記入ヲ爲シ以テ前記(甲)ノ(イ)ノ縣借入金三十萬圓ヲ領收シタル旨虛偽ノ昭和八年五月三十一日附同縣出納吏地方事務官被告人清次名義同會社宛ノ領收證明一通(同押號ノ檢第八四號)ヲ順次偽造シ其ノ頃同會社東京支店ニ於テ同會社係員ニ對シ前掲(三)及(四)記載ノ縣借入金合計三十萬圓ヲ同縣昭和八年一度一時借入金トシテ借換フル名義ノ下ニ右各偽造文書ヲ執レモ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ一括シテ提出行使シ

(中略)

(二二) 昭和十年五月二十五日頃埼玉縣廳内ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ(甲)同縣知事齋藤樹ノ官氏名ヲ冒シ其ノ名下等ニ前掲(五)記載ノ知事印ヲ押捺シテ(イ)同縣カ金七十萬圓ヲ期限昭和十一年三月二十五日迄利息日歩一錢四厘五毛等ノ約定ニテ借入受領シタル旨ノ昭和十年五月二十五日附同知事名義前記鴻池信託株式會社宛ノ借用證書一通(ロ)同縣カ金七十萬圓以内ヲ借入レ昭和十一年三月二十五日迄ニ償還スヘキ旨ヲ定メタル昭和十年度一時借入金ニ關スル昭和十年五月十三日ノ同縣參事會議案ノ同月二十五日附同知事名義認證ノ謄本一通(同押號ノ檢第五五號但シ同號表面ノ議案ノ部分ハ情ヲ知ラサル山本宗本ヲシテ謄寫セシメタル上被告人清次ニ於テ同知事名義ノ認證部分ヲ擅ニ記入シ知事名下ニ知事印ヲ押捺シテ其ノ偽造ヲ完成シタルモノニ係ル)(ハ)前掲(六)ノ甲ノ(ニ)記載ト同様ニ用紙ニ押印記入ヲ爲シタル同縣代表者齋藤知事並ニ其ノ代理人同縣出納吏被告人清次ノ各印鑑ノ昭和十年五月二十五日附同知事名義前記會社東京支店宛ノ届書一通(同押號ノ豫第二〇八號)(ホ)前掲(六)ノ(甲)ノ(ホ)記載ト同様ニ押印シテ顯出シタル同資格ノ被告人清次ノ印鑑ニ對スル昭和十年五月二十五日附齋藤知事名義同會社宛ノ證明書一通(同押號ノ檢第五三號)(乙)前掲(一一)ノ(甲)記載ト同様ニ飯沼知事ノ官氏名ヲ冒シ知事印ヲ押捺シテ同縣參事會カ昭和十年五月十三日同年度一時借入金ニ關スル件等ノ議案ヲ原案通り可決確定シタル旨ノ會議録ノ同月二十二日附同知事名義ノ認證謄本一通(同押號ノ檢五四號)(丙)同縣出納吏タル自己ノ職務ニ關シ前掲(六)ノ(乙)記載ト同様ニ用紙ニ記入及署名押印シテ前記(甲)ノ(イ)ノ縣借入金七十萬圓ヲ領收シタル旨虚偽ノ同縣出納官吏地方事務官被告人清次名義前記會社宛ノ領收證一通(同押號ノ檢第五二號)ヲ順次偽造シ其ノ頃同會社東京支店ニ於テ同會社係員ニ對シ前掲(一一)記載ノ縣借入金七十萬圓ヲ同縣昭和十年度内一時借入金トシテ借換スル名義ノ下ニ右各偽造文書ヲ執レモ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ一括シテ提出行使シ

(中略)

第三 被告人福田清次單獨ニテ昭和十一年四月八日頃埼玉縣廳内ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ(甲)前掲第二ノ(一一)記載ト同様ニ齋藤知事ノ官氏名ヲ冒シ知事印ヲ押捺シテ(イ)同縣カ金七十萬圓ヲ期限昭和十二年三月三十一日迄利息日歩金一錢四厘五毛等ノ約定ニテ借入受領シタル旨ノ昭和十一年四月八日附同知事名義前記鴻池信託株式會社宛ノ借用證一通(同押號ノ檢第四三號)(ロ)同縣參事會カ昭和十一年三月三十日同年度一時借入金ニ關スル件等ノ議案ヲ原案通り可決確定シタル旨ノ會議録ノ同年四月八日附同知事名義ノ認證謄本一通(同押號ノ檢第四七號)(ハ)前掲第二ノ(六)ノ(ホ)ト同様ニ押印シテ顯出シタル同資格ノ被告人清次ノ印鑑ニ對スル昭和十一年四月八日附齋藤知事名義同會社宛ノ印鑑證明書一通(同押號ノ檢第四五號)(乙)同縣出納吏タル自己ノ職務ニ關シ其ノ資格ヲ濫用シテ署名シ其ノ名下ニ前掲第二ノ(六)ノ(甲)ノ(ニ)記載ノ出納吏印ヲ押捺シテ前記(甲)ノ(イ)ノ縣借入金七十萬圓ヲ領收シタル旨虚偽ノ昭和十一年四月八日附同縣出納吏地方事務官被告人清次名義前記會社宛ノ領收證一通(同押號ノ檢第四四號)ヲ順次偽造シ其ノ頃同會社東京支店ニ於テ同會社係員ニ對シ前掲第二ノ(一一)記載ノ縣借入金七十萬圓ヲ同縣昭和十一年度内一時借入金トシテ借換スル名義ノ下ニ右各偽造文書ヲ執レモ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ一括シテ提出行使シ

タルモノニシテ被告人等ノ右公文書ノ偽造其ノ行使及詐欺ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲中判示第一及第二ノ(一)乃至(五)同(六)乃至(九)及(一一)ノ各(甲)同(一二)ノ(甲)(乙)同(一三)及同(一四)ノ各(甲)ノ各公文書偽造ノ點ハ刑法第五十六條第五十五條第一項第五十五條第六十條ニ其ノ行使ノ點ハ同法第五十八條第一項第五十五條第一項第六十條ニ第二ノ(六)乃至

刑事訴訟法第五十六條第一項第一號ノ適用
 刑事訴訟法第五十六條第一項第一號ノ適用
 刑事訴訟法第五十六條第一項第一號ノ適用

(八)ノ各(乙)同(九)ノ(乙)(丙)同(一)ノ(乙)同(二)ノ(丙)同(三)ノ(一四)ノ各(乙)ノ各公文書偽造ノ點ハ同法第五百五十六條第一項第六十條(但シ被告人七歳ニ付テハ同法第六十五條第一項ヲモ適用ス)ニ其ノ行使ノ點ハ同法第五百五十八條第一項第五百五十六條第一項ニ各詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第六十條ニ被告人輻田清次ノ第三ノ(甲)ノ各公文書偽造ノ點ハ同法第五百五十五條第一項ニ其ノ行使ノ點ハ同法第五百五十八條第一項第五百五十五條第一項ニ同(乙)ノ公文書偽造ノ點ハ同法第五百五十六條第一項ニ各該當スルコト被告人等ノ各公文書偽造ノ所爲ハ孰レモ連續犯ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ則リ同法第五百五十五條第一項ニ該當スル公文書偽造罪ノ一罪トスヘク而シテ判示第一及第二ノ(三)ノ(丁)竝ニ同(五)以外ハ總テ一括行使ニ係ルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ孰レモ重キ各知事名義ノ偽造借用證書ノ各行使罪ノ刑ニ從フヘク此等ノ各行使及前記第一及第二ノ(三)ノ(丁)竝ニ同(五)ノ各偽造公文書ノ行使竝ニ詐欺ノ各同種所爲ハ夫々連續犯ニ係ルヲ以テ各同法第五十五條ヲ適用シ右公文書偽造ト其ノ各行使及詐欺トノ間ニハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ最モ重キ偽造公文書行使罪ノ刑ニ從ヒ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人兩名ヲ各懲役八年ニ處シ同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決拘留日數中各二百日ヲ右各本刑ニ算入スヘキモノトス

依テ本件ニ付當審ニ於ケル未決拘留日數ノ本刑算入ニ付刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ノ適用ノ有無ニ付按スルニ元來未決拘留日數ノ本刑算入ニ付刑法第二十一條ノ外刑事訴訟法第五百五十六條ノ規定ヲ設ケタル所以ハ被告人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ延引セラレタル未決拘留ノ期間ハ其ノ全部ヲ本刑ニ算入スルヲ以テ公平ノ觀念ニ適合スルモノト認メタルニ因ルモノトス從テ右ノ法意ニ徴スレハ刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ニ檢事ノ上訴トアルハ檢事ノミノ上訴又ハ檢事ノ上訴ト被告人ノ爲獨立シテ上訴ヲ爲シ得ル者ニ依リ爲サレタル上訴ノ併存スル

○主 文

原判決ヲ破毀ス
被告人清次及七歳ヲ各懲役八年ニ處ス各被告人ニ對シ第一審ニ於ケル未決拘留日數中二百日宛ヲ右本刑ニ算入ス

押收物件中(イ)借用證二通(昭和十一年押第一五一號ノ檢第四三號同第三八號)(ロ)辨濟期限延長差入證一通(同押號ノ檢第八八號)(ハ)領收證十四通(同押號ノ檢第一〇六、一〇〇、九五、八九、八四、八一、七七、六八、六〇、五六、五二、四八、四四、四〇各號)(ニ)印鑑届書七通(同押號ノ豫第二〇三號乃至第二〇九號)(ホ)印鑑ニ對スル證明書十二通(同押號ノ檢第一〇四、一〇五、八五、八二、七八、六九、六一、五七、五三、四九、四五、四二各號)(ヘ)知事名義縣參事會議案書六通(同押號ノ檢第九四、八七、七二、六三、七三、六四各號)(ト)縣參事會議案ノ認證本三通(同押號ノ檢第八〇、五五、三九各號)(チ)縣參事會議決書三通(同押號ノ檢第九九、九七、

刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ノ適用
刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ノ適用

九八各號)(リ)縣參事會議議録ノ認證謄本十一通(同押號ノ檢第一〇七、九六、九〇、八六、七九、七〇、五八、五四、五一、四七、四一各號)(ヌ)縣參事會議議決ニ對スル認證謄本二通(同押號ノ檢第八三、五〇各號)ハ孰レモ之ヲ沒收ス
訴訟費用ハ被告人等ヲシテ其ノ全部ヲ連帶負擔セシム

理由

東京控訴院檢察長檢事吉益俊次上告趣意書本件ハ昭和十二年十一月三十日第一審タル浦和地方裁判所ニ於テ被告人兩名ヲ各懲役七年ニ處ス被告人兩名ニ對シ各未決勾留日數中二百日宛ヲ右各本刑ニ算入スナル旨判決シタルモ同年十二月一日原審檢事ノ控訴ニ依リ同年十二月三日被告人有瀧七藏ノ控訴ニ依リ同年十二月六日被告人福田清次ノ控訴ニ依リ東京控訴院ハ第二審トシテ略ホ原審ト同様ニ公訴事實ヲ認定シテ昭和十三年十一月九日被告人兩名ヲ各懲役八年ニ處ス被告人兩名ニ對シ未決勾留日數中原審ニ於ケル二百日當審ニ於ケル百八十日ヲ夫々右各本刑ニ算入スナル旨判決シタリ而シテ被告人有瀧七藏ハ同年十一月十一日檢事ハ被告人兩名ニ對シ同年十一月十四日何レモ上告ヲ爲シタルニ依リ前敘ノ昭和十二年十二月一日原審檢事ノ控訴以來被告人有瀧七藏ハ昭和十三年十一月十日(被告人有瀧七藏ノ上告ノ前日)迄三百四十五日間又被告人福田清次ハ同年十一月十三日(檢事ノ上告ノ前日)迄三百四十八日間ハ刑事訴訟法第五百五十六條第一項第二號ニ依リ檢事控訴ノ理由アルト否トヲ問ハス

法律上當然本刑ニ通算セラルヘキ未決勾留日數ニシテ從而斯ル場合ニハ刑法第二十一條ノ適用ヲ許ササルモノト解釋スヘキモノナルニ右第二審ノ判決ハ刑法第二十一條ヲ不當ニ適用シ檢事控訴申立後ノ未決勾留日數中被告人兩名ニ付各百八十日ヲ限り通算シタルハ右刑事訴訟法ノ規定ニ違背シタル判決ナリト思料スト云フニ在リテ

原審ガ原判決ニ於テ被告人兩名ヲ各懲役八年ニ處シ第一審ニ於ケル各被告人ノ未決勾留日數中二百日宛ヲ右各本刑ニ算入スル外原審ニ於ケル各被告人ノ未決勾留日數ニ付テハ刑事訴訟法第五百五十六條第一項ノ適用ナシトシ刑法第二十一條ニ則リ其ノ勾留日數中百八十日宛ヲ右各本刑ニ算入スベキモノトシ其ノ旨ノ言渡ヲ爲シタルコト所論ノ通りナリ仍テ審按スルニ刑事訴訟手續ノ進行中一定ノ場合ニ於テ被疑者又ハ被告人ヲ勾留スルコトハ刑事訴訟法ノ許ス所ナリト雖其ノ事タルヤ人ヲ勾禁シテ其ノ自由ヲ剝奪スルモノナリ之ヲ受クル者ノ苦痛ハ寔ニ深刻ナリ法律ガ之ヲ許スハ訴訟ノ目的遂行上已ムヲ得ザルニ出ヅルノミ未決勾留日數算入ノ制度ヲ認ムルノ要アル所以ナリ殊ニ上訴申立後勾留セラルル被告人ノ如キハ概ネ第一審以來勾留ノ繼續セルヲ常トシ如上苦痛ノ上ニ更ニ又苦痛ヲ重スルモノナルノミナラズ其ノ苦痛ハ確定判決ヲ見ルニ至ルマデ相當長期間ニ互ルヲ多シトスルハ實例ノ示ストコロニシテ洵ニ憫ムベシト爲ス宜シク上訴申立後ノ勾留日數ノ如キハ擧テ之ヲ本刑ニ算入シ以テ被告人ノ不利益ヲ緩和スルヲ可トス但ダ若シ之ヲ常トセムカ被告人又ハ其ノ爲ニ上訴ヲ爲スノ權ヲ與ヘラレ

刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ノ適用
項第一號ノ適用アル場合ト刑法第二十一條

【要旨第一】

タル者等檢事以外ノ者ハ其ノ算入ヲ期シ何等ノ理由モ無キ上訴ヲ故ラニ爲スノ虞ナシトセズ所謂上訴濫發ノ弊茲ニ生ゼムトス故ニ勾留ガ檢事以外ノ者ノ上訴ニ因リテ生ジタルモノナルトキハ其ノ上訴ガ理由アル場合ニ限リテ如上ノ算入ヲ爲スコトヲ以テ右ノ弊ヲ未然ニ防ガムコトヲ要ス刑事訴訟法第五百五十六條第一項ノ法意ハ蓋之ニ外ナラザルナリ今此ノ法意ニ鑑ミルトキハ苟モ檢事ノ上訴アリタルトキハ檢事上訴ノ外被告人其ノ他檢事以外ノ者ノ上訴アリタルト否トヲ問ハズ又是等ノ者ノ上訴ガ理由アルト否トヲ分タズ常ニ同條第一項第一號ノ適用アルモノト解スルヲ相當トスルコト多言ヲ須ヒズ同條項ヲ解スルニ公平ノ觀念ヲ以テシ同條項ハ被告人ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リテ延引セラレタル勾留日數ヲ本刑ニ算入スルコトヲ許ス法意ナリトシ從テ檢事上訴ト被告人ノ上訴ト併存スル場合ハ同條項第一號ニ該當セズト爲スガ如キハ同條項ノ眞髓ヲ會得シタルモノト謂ヒ難シ斯ル見解ノ維持スベカラザルコトハ同條項第二號ガ被告人ノ法定代理人保佐人夫等ニ於テ被告人ノ意思ニ反シテ爲シタル上訴ノ理由ナカリシ場合其ノ上訴申立後ノ勾留日數即チ被告人ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因ルコト明ナル勾留日數ノ本刑算入ヲ許サザルノ一事ニ徵スルモ蓋明白ナラム夫レ爾リ今本件ニ於テハ昭和十二年十二月一日檢事ヨリ被告人兩名ニ對シ控訴申立アリ次デ同月三日被告人七藏ヨリ同月六日被告人清次ヨリ夫々控訴申立アリタルモノナルコト記録上明瞭ナルヲ以テ右昭和十二年十二月一日以後ノ原審未決勾留日數ハ前掲刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ニ依リ其ノ全部ガ當然ニ各本刑

【要旨第二】

ニ算入セラルベキモノナルコト明ナルベク又斯ノ如ク全部ガ法律ニ依リ當然ニ本刑ニ算入セラルベキ未決勾留日數ニ付刑法第二十一條ヲ適用シテ其ノ一部算入ノ言渡ヲ爲スノ不可ナルコトハ言フ俟タザルトコロナリトス然レバ原審ガ各被告人ノ原審未決勾留日數ニ付テハ刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ノ適用ナシトシ刑法第二十一條ニ則リ其ノ日數ノ一部百八十日宛テ各本刑ニ算入スル旨ノ言渡ヲ爲シタルハ畢竟法律ノ適用ヲ誤リタル違法アルモノニシテ論旨ハ理由アルモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上説明ノ通りニシテ被告人七藏ノ上告ハ理由ナキモ檢事上告ハ理由アルヲ以テ之ニ基キ前同法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ從ヒ本院ニ於テ更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス仍テ原判決認定ノ事實ヲ法律ニ照スニ被告人等ノ原判示第一ノ公文書同判示第二ノ(一)乃至(四)ノ各公文書同(五)ノ公文書同(六)乃至(九)同(十一)同(十三)及(十四)ノ各(甲)ノ各公文書並ニ同(十二)ノ(甲)ノ各公文書及(乙)ノ公文書ノ各偽造ノ所爲ハ刑法第一百五十五條第一項第六十條ニ右各偽造公文書行使ノ各所爲ハ同法第一百五十八條第一項第一百五十五條第一項第六十條ニ原判示第二ノ(六)乃至(八)(十一)(十三)(十四)ノ各(乙)同(九)ノ(乙)及(丙)並ニ同(十二)ノ丙ノ各公文書偽造ノ所爲ハ前同法第一百五十六條第一百五十五條第一項第六十條(尙被告人七藏ノ所爲ニ付テハ同法第六十五條第一項)ニ該各偽造公文書行使ノ所爲ハ同法第一百五十八條第一項第

刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ノ適用 刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ノ適用アル場合ト刑法第二十一條

百五十六條第一百五十五條第一項ニ各詐欺ノ所爲ハ前同法第二百四十六條第一項第六十條ニ該當シ被告
 人清次ノ原判示第三ノ(甲)ノ各公文書偽造ノ所爲ハ前同法第一百五十五條第一項ニ該各偽造公文書行
 使ノ所爲ハ同法第五十八條第一項第五十五條第一項ニ同(乙)ノ公文書偽造ノ所爲ハ同法第五
 十六條第一百五十五條第一項ニ該各偽造公文書行使ノ所爲ハ同法第五十八條第一項第五十六條第百
 五十五條第一項ニ該當シ各被告人ノ各公文書偽造ノ所爲ハ連續犯ナルヲ以テ前同法第五十五條第十條
 ニ則リ同法第一百五十五條第一項ニ該當スル公文書偽造ノ一罪トシテ處斷スヘク又原判示第一第二ノ
 (三)ノ(丁)及第二ノ(五)以外ノ各原判示ニ於ケル偽造公文書行使ハ總テ數通ノ偽造公文書ノ一
 括行使ニ係リ即チ一所爲數罪ニ觸ルルモノニシテ同法第五十四條第一項前段ニ該當スルヲ以テ同項及
 同法第十條ニ則リ夫々重キ各知事名義偽造借用證書行使罪ノ刑ヲ以テ處斷スヘキ處以上ノ各偽造公文
 書行使竝ニ原判示第一第二ノ(三)ノ(丁)及第二ノ(五)ニ於ケル各偽造公文書行使ハ連續犯詐欺
 ノ各所爲亦連續犯ナルヲ以テ夫々前同法第五十五條ヲ適用シ公文書偽造偽造公文書行使及詐欺ノ所爲
 ハ順次ニ手段結果ノ關係ニ在リテ前同法第五十四條第一項後段ニ該當スルヲ以テ同項及同法第十條ヲ
 適用シテ最モ重キ偽造公文書行使罪ノ刑ニ從ヒ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人兩名ヲ各懲役八年ニ處シ
 各被告人トモ前同法第二十一條ニ依リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中ノ二百日宛ヲ其ノ本刑ニ算入ス
 ヘク押收物件中主文第三項所掲各文書ハ孰レモ本件偽造公文書行使ノ行爲ヲ組成シタルモノニシテ何

人ニモ屬セス刑法第十九條第一項第一號第二項ニ該當スルヲ以テ同條第一項ニ則リ之ヲ沒收スヘク訴
 訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ被告人等ヲシテ其ノ全部ヲ連帶負擔
 セシムヘキモノトス
 依テ主文ノ通り判決ス
 檢事三田勝本件審理ニ關與ス

○船舶安全法違反被告事件 (昭和十四年(九)第一六六號 破毀自判)

(同年四月十七日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 八木 覺 辯護人 大井 伊 八
 【第一審】 豐橋區裁判所 【第二審】 名古屋地方裁判所

○判 示 事 項

船舶安全法第十八條違反ノ處罰

船舶安全法第十八條違反ノ處罰

○判決要旨

船舶所有者ニシテ船長ヲ兼又ル者カ船舶安全法第十八條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ船舶所有者及船長タル資格ニ於テ各別ニ處罰セラルヘキモノトス

【参照】船舶安全法第五條第一項 船舶所有者ハ第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶

ニ付同條第一項各號ニ掲グル事項、第三條ノ船舶ニ付滿載吃水線、第四條ノ船舶ニ付

無線電信ニ關シ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ區別ニ依ル檢定ヲ受クベシ

一 初メテ航行ノ用ニ供スルトキ又ハ第十條ニ規定スル有効期間滿了シタルトキ

行フ精密ナル檢査(定期檢査)

二 定期檢査ト定期檢査トノ中間ニ於テ命令ノ定ムル時期ニ行フ簡易ナル檢査(中

間檢査)

三 臨時ニ特種ノ用途ニ使用スルトキ行フ檢査(特種船檢査)

四 前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ行フ檢査(臨時檢査)

同法第二條第一項 船舶ハ左ニ掲グル事項ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施設スルコト

ヲ要ス

一 船體

二 機關

三 帆裝

四 排水設備

五 操舵、繫船及揚錨ノ設備

六 救命及消防ノ設備

七 居住設備

八 衛生設備

九 航海用具

十 危險物其ノ他特殊貨物ノ積附設備

十一 荷役其ノ他ノ作業ノ設備

十二 電氣設備

十三 前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ定ムル事項

同法附則第三十二條 第二條第一項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ當分ノ内之ヲ適用

セズ

一 總噸數二十噸未滿ノ帆船

二 總噸數二十噸未滿ノ漁船

三 平水區域ノミヲ航行スル帆船

同法施行規則第五十七條 特殊船檢査ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ之ヲ行フ

一 移民船カ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ港ヲ發航セントスルトキ

二 船舶カ臨時旅客ヲ運送セントスルトキ

三 船舶カ甲板旅客ヲ運送セントスルトキ

船舶安全法第十八條違反ノ處罰

漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル場合ニ於テ特殊船検査ヲ行フ
船舶安全法第十八條 船舶所有者又ハ船長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有

者及船長ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 船舶検査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船検査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ

二 航行區域ヲ超エ又ハ從業制限ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

三 制限氣壓ヲ超エテ汽鐘ヲ使用シタルトキ

四 最大搭載人員ヲ超エテ旅客其ノ他ノ者ヲ搭載シタルトキ

五 滿載吃水線ヲ超エテ載荷シタルトキ

六 無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ヲ其ノ施設ナクシテ航行ノ用ニ供シタルトキ

七 中間検査ヲ受クベキ場合ニ於テ之ヲ受ケズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

八 前各號ノ外船舶検査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船検査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ

九 管海官廳ノ許可ヲ受ケズシテ検査ヲ受ケタル事項ニ變更ヲ爲シ又ハ其ノ事項ニ變更アリタルニ拘ラズ適當ノ措置ヲナサズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

同法第七條 第五條又ハ前條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル検査ハ主務大臣ノ特ニ

定ムル場合ヲ除クノ外船舶ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

前條第三項ノ規定ニ依ル検査ハ船舶用機關ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

同法第九條 管海官廳ハ定期検査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ其ノ航行區域(漁船ニ付テハ從業制限)最大搭載人員、制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ヲ定メ船舶検査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ特殊船検査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ特殊船検査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ第六條ノ規定ニ依ル検査ニ合格シタル船舶又ハ船舶用機關ニ對シテハ合格證明書ヲ交付ス

前條ノ船舶ニ付船級協會ノ定メタル制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定メタルモノト看做ス

船舶法施行細則第一條 本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スルハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ

機械力ヲ以テ運航スル装置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ユルト否トニ拘ハラズ之ヲ汽船ト看做ス

主トシテ帆ヲ以テ運航スル装置ヲ有スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖モ之ヲ帆船ト看做ス

刑事訴訟法第四百三條 被告人控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト
船舶安全法第十八條違反ノ處罰

能ハサルトキハ二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔ト
スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ船舶嘉久丸ノ船主兼船長ニシテ右嘉久丸ハ總噸數十三噸十七ニテ發動機並帆裝ノ兩者ヲ具有スルモ旅客運搬
ニ際リテハ主トシテ機械力ヲ以テ運航スル汽船ナルトコロ被告人ハ昭和十三年四月十七日管海官廳ヨリ交付ヲ受クヘ
キ船舶検査證書ヲ受有セスシテ右船舶ニ八木光三郎外二十二名ノ旅客ヲ搭載シタル上愛知縣渥美郡田原港ヨリ同縣實
飯郡三谷港迄運搬シ以テ右船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ船舶安全法第五條第一項第一號第七條第一項第九條第一項第十八條第一號ニ該當スルト
コロ犯情憫諒スヘキモノアルヲ以テ刑法第六十六條第七十一條第六十八條第四號ニ依リ酌量減輕ヲ爲シタル金額ノ範
圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ從ヒ金二圓ヲ一日ニ換算
シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ其ノ全部ヲ
負擔セシムヘキモノトス

○主 文

原判決ヲ破毀ス
被告人ヲ罰金五十圓ニ處ス
右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス
訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

○理 由

辯護人大井伊八上告趣意書船舶安全法ハ第十八條ニ於テ船舶所有者又ハ船長特殊船舶検査證書ヲ受有セ
スシテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ處罪スル旨規定ス茲ニ特殊船舶検査ハ同法第五條第一項第三
號ニ所謂臨時ニ特殊ノ用途ニ使用スルトキ行フ検査ニシテ特殊ノ用途トハ同法施行規則第五十七條ニ
所謂臨時旅客ヲ運送セントスルトキト云フニ該當スル事明文上疑ナキ所ナリ而シテ特殊船舶検査ヲ受ク
ヘキ船舶ハ船舶安全法第五條第一項ニヨリ明カナル如ク同法第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ナリ
故ニ同條項ノ適用アル船舶ノ所有者又ハ船長該船舶ニヨリ臨時ニ旅客ヲ運送セントスルトキハ同法第
五條第一項ノ規定ニヨリ同法第二條第一項各號所定ノ設備等ニ付キ検査ヲ受ケ所謂特殊船舶検査證書ヲ
受有セサルヘカラサル次第ナリ然レトモ船舶安全法附則第三十二條ハ規定シテ曰ク第二條第一項ノ規
定ハ左ニ掲クル船舶ニハ當分ノ内之ヲ適用セストナシ以テ總噸數二十噸未滿ノ帆船及漁船並ニ平水區
域ノミヲ航行スル帆船ノ三者ヲ掲ケタリ依テ本件船舶ニシテ若シ帆船ト認ムヘキモノナリトモ帆船
安全法第二條第一項ノ規定ハ其ノ適用ナキヲ以テ假令特殊ノ用途即チ臨時ニ旅客ヲ運送シタリトスル
モ同法第五條第一項第三號ニ所謂特殊船舶検査ヲ受クルノ要ナク從テ同法第十八條第一號ノ規則ノ適用
ナキ事明文上一點ノ疑モ存セサルトコロナリ故上ノ次第ニテ本件カ有罪ナリヤ否ヤハ一ニ本件船舶カ
帆船ナリヤ或ハ汽船ナリヤニ係ツテ存スト謂フヘシ原判決ハ本件船舶ヲ汽船ナリト認定シ其ノ證據ト

シテ被告人ノ公判廷ニ於ケル陳述及警察檢事廷ニ於ケル供述並鑑定人庄司俊夫ノ鑑定ノ一部ヲ採用シタルモノノ如シ乍併被告人ノ公判廷ニ於ケル陳述ハ單ニ主トシテ機械力ニヨリ運航シタリト謂ヒタルノミニテ汽船ナリト陳述シタル事ナク又警察檢事廷ニ於テモ同様ノ供述ヲ爲シタルノミニナリ然ルニ原判決ハ「被告人ノ當公廷ニ於ケル判示嘉久丸ハ旅客運送ニ際リテハ主トシテ機械力ヲ以テ運航スル汽船ナリト點竝ニ云々判示同趣旨ノ供述等」ト謂ヒ以テ被告人カ恰モ本件嘉久丸ヲ汽船ナリト看做シ居ルカ如ク判示セラレタルモ原判決ハ此ノ點ニ於テ虛無ノ證據ヲ事實認定ノ材料トシタル違法アリト云フヘク又假ニ原判決ノ謂ハルル如ク被告人カ公判廷等ニ於テ本件船舶ヲ汽船ナリト陳述シタリトスルモ被告人ノ陳述ニヨリテ帆船カ汽船トナルモノニ非サル事ハ牛カ馬ニ非サルト同一ナリ依テ被告人ノ供述等ハ少クトモ本件ノ如キ事案ニ於テハ事實認定ノ材料トナスヘキモノニ非サル事ハ贅言スル迄モナキトコロナリ又原判決ハ鑑定人ノ鑑定書ノ一部ヲ採用シ本件船舶ヲ汽船ナリト認定スルノ材料トセラレタリ茲ニ該鑑定書ヲ精査スルニ鑑定事項第一(鑑定事項第二以下ハ本件ニ關係ナシ)ニ付キ鑑定人ハ曰ク貨物運搬ニ從事スル期間ハ主トシテ帆裝ニヨル船舶ト認メ旅客運搬ニ從事中ハ主トシテ機械力ニヨルモノト認ムト其ノ理由トシテ云々前記各條件ヨリ判斷シテ本船カ帆裝ノミニヨリ航走スルコトハ普通状態ノ海上風速ニ於テハ必スシモ不可能ニ非スト認メラル然レトモ海上ニ於ケル操縦ノ難易ヲモ考慮ニ入ルル事ハ固ヨリ船舶ニ必要ナルコトニテ本船ニ關シテモ此ノ點ヲ考慮スルコトヲ希望

ス即チ此ノ點ヨリ考察スレハ云々言ヒ換ヘレハ前記ノ如キ區域内ニ於テハ帆裝以外ニ何等カノ補助裝置ヲ有スル必要アルモノト認メラル云々要スルニ本船ノ如キハ帆裝ト發動機トヲ併用スルコトニヨリ運航ノ圓滑ヲ得以テ船舶ノ目的ヲ達成シツツアリタルモノト認ムルヲ適當トス然レトモ發動機及帆裝ヲ併セ有スル總噸數五噸以上ノ小型船舶ニ關シテ各種事情ヲ斟酌サレ昭和六年二月通牒ヲ以テ其ノ汽船帆船ノ認定ニ關シ中央ヨリ一般ニ指示セラレタリ即チ旅客運送營業又ハ曳船營業ニ從事セサル總噸數二十噸未満ノ船舶及漁船ハ帆裝十分ナラサルモノト雖當分ノ内從來ノ通り之ヲ帆船ト看做スモ差支ナシトアリ本取扱ハ當然本件ノ船舶ニモ適用セラルルモノト認ム然ルニ同通牒ニ於テ旅客運送營業又ハ曳船營業ニ從事スル船舶ノ帆裝ハ之ヲ主トシテ帆ヲ以テ運航スル裝置ト認メサル方實情ニ適スルヲ以テ此ノ種船舶ハ之ヲ汽船ト看做ストアリ云々右ノ解釋ニヨリ本件ノ船舶モ旅客運送中ハ汽船トシテ取扱フヲ至當ト認ムト謂ヘリ然レトモ船舶ノ帆船ナリヤ汽船ナリヤノ區別ニ付キテハ船舶法施行細則第一條ノ明定スルコトニシテ同法ニハ主トシテ帆ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖之ヲ帆船ト看做ストアリ依テ本船カ主トシテ帆ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スルヤ否ヤニ付キ案スルニ鑑定書中ニ本船カ帆裝ノミニヨリ航走スル事ハ普通状態ノ海上風速ニ於テハ必スシモ不可能ニ非スト認メラルト謂フ點及旅客運送營業又ハ曳船營業ニ從事セサル總噸數二十噸未満ノ船舶及漁船ハ帆裝十分ナラサルモノト雖當分ノ内從來通り之ヲ帆船ト看做スモ差支ナシトアル點竝本船ニヨリ被告

人力旅客運送營業ヲ爲シタルモノニ非サル點ヲ綜合シ且ツ主トシテ帆ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル以上假令機關ノミニヨリ運航スルモ何等帆船タルニ差支ナキ點等ヨリ判斷スルニ本件船舶カ帆船タル事ハ何人ト雖疑ハサルヘシ然ルニ鑑定人ハ通牒ニ所謂旅客運送營業曳船營業ノ營業ナル重要文言ヲ看過シ本件船舶ヲ汽船トシテ取扱フヲ至當ト認ムト謂ヘリ是レ全ク理由ナキ鑑定或ハ理由ノ齟齬セル鑑定ト謂フヘク反テ全理由ヨリ見レハ本船ハ主トシテ帆ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル帆船ト結論セサルヘカラサル次第ナリ殊ニ一ツノ船舶ニ對シ貨物運搬ニ從事スル期間ハ帆船ト認メ旅客運搬ニ從事中ハ汽船ト認ムトスル鑑定ハ笑止千萬ト謂フヘク中央ヨリノ通牒カ船鑑札又ハ船舶検査證書交付ニ際リ船舶ヲ検査スル場合ニ於ケル帆船汽船ノ區別ヲ認定スル資料タルニ過キサレ事ヲ思ハサルモ甚シト謂フヘシ況ンヤ本件船舶ハ既ニ帆船船ナル鑑札ヲ有スルニ於テヲヤ茲ニ帆船トハ船舶法施行細則ノ認メサル船舶ノ種類ナルモ補助機關ヲ有スル帆船ノ意ト解スヘク小型船舶ナルヲ以テ地方官廳(管海官廳ヲ異ニス)ニ於テ便宜上附シタル名稱ト思料ス以上ノ理由ニヨリ原判決カ鑑定人ノ鑑定書中ノ一部ヲ採用シ以テ本船ヲ汽船ト認定シタルハ虛無ノ證據ヲ以テ事實ノ認定ニ供シタル結果トナリ不法ナリト信ス然ラストスレハ判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルカ又ハ判決ニ理由ヲ附セサルカ或ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト信ス右ノ如キ次第ナルヲ以テ原判決ハ破毀セラ

ルヘキモノト信スト云フニアレトモ

原判決カ證據トシテ援用シタル被告人ノ原審ニ於ケル供述ハ判示嘉久丸ハ旅客運搬ニ當リテハ主トシテ機械力ヲ以テ運航スル汽船ナリトノ點ヲ除キタル旨明記シアルヲ以テ此ノ點ニ關スル論旨ハ意識的ニカ無意識的ニカ原判決ヲ誤讀シタルモノニシテ理由トナラス又鑑定書ニハ判示嘉久丸ハ旅客運搬ニ際リテハ主トシテ機械力ヲ以テ運航スル汽船ト認ムトアルニ對シ鑑定ノ基礎智識ト意見ヲ異ニスル前提ノ下ニ之ヲ攻撃スル論旨ハ畢竟見解ノ相違ニ過キスシテ鑑定書ニハ理由ノ齟齬ナク又理由ノ説明十分ナルヲ以テ之ヲ證據トシテ採用スルハ何等不法ノ點ナク又判斷遺脱ナク理由十分ナルヲ以テ此ノ點ニ關スル論旨亦タ理由ナシ以上ノ理由ナルヲ以テ本件船舶ハ船舶法施行細則第一條ニ所謂帆船ニ該當セス又船舶安全法第二條第一項ノ帆船ニモアラス從ツテ同法第五條第一項第三號ノ特殊船検査ヲ受クヘキモノナルヲ以テ原判決カ同法第十八條第一項ニ間擬シタルハ相當ニシテ記録ヲ精査スルモ原判決ノ事實ノ認定ニハ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト認メ難キヲ以テ論旨ハ凡テ理由ナシ然レトモ船舶安全法第十八條ハ船舶所有者又ハ船長ニ於テ違反行爲アリタルトキハ船舶所有者及船長ヲ處罰スヘキ旨ノ規定ナルニ原判決ハ被告人ヲ嘉久丸ノ船主兼船長ト認メナカラ船

【要旨】

船舶所有者トシテ及船長トシテ別々ニ處罰スルコトヲ爲サスシテ單ニ罰金五十圓ニ處シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノトス仍ツテ原判決ノ認定シタル事實ニ基キ之ヲ法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ船舶所有者及船長トシテ各船舶安全法第五條第一項第一號第七條第一項第九條第一項第十八條第一號ニ該當ス

ル處各犯情憫諒スヘキモノアルヲ以テ刑法第六十六條第七十一條第六十八條第四號ニ依リ各酌量減輕
ヲ爲シ各罰金五十圓ニ處スヘキモノトス然レトモ本件ハ被告人ノ上告ニ止ルヲ以テ刑事訴訟法第四百
五十五條第四百三條ニ依リ被告人ニ對シ原審ヨリ重キ刑ヲ言渡スヲ得サルヲ以テ被告人ヲ罰金五十圓
ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告
人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人ヲシテ全部負擔セ
シムヘキモノトス

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十八條ニ依リ主文ノ如ク判決シタリ

檢事柴碩文關與

○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十四年(九)第一〇六號
同年四月十四日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 小池安太郎 辯護人

外二名

山本佐一
猪股重清
猪股正清

【第一審】 和歌山區裁判所 【第二審】 和歌山地方裁判所

○判示事項

數回ノ販賣行爲ト連續犯——刑事訴訟法第四百三條ト刑ノ輕重

○判決要旨

一 犯意繼續シテ數回ニ互リ綿絲配給統制規則第四條輸出入品等ニ
關スル臨時措置ニ關スル法律第二條ニ違反シ同法第五條ニ該當

數回ノ販賣行爲ト連續犯 刑事訴訟法第四百三條ト刑ノ輕重

スル綿絲ノ販賣行為ヲ反覆シタルトキハ連續犯ヲ構成ス【要旨第一】

二第一審力懲役二月ノ言渡ヲ爲シタル被告事件ノ第二審ニ於テ罰金ニ處シタル以上ハ縱令勞役場留置ノ期間ヲ右二月ノ二倍ヲ超過スル期間ニ定メタリトスルモ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ノ言渡ヲ爲シタルモノニ非ス【要旨第二】

【參照】 輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律(昭和十二年法律第九十二號)第二條

政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲テ必要アリト認ムルトキハ輸入ノ制限其ノ他ノ事由ニ因リ需給關係ノ調整ヲ必要トスル物品ニ付左ノ措置ヲ爲スコトヲ得

一 命令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ原料トスル製品ノ製造ニ關シ必要ナル事項ヲ命令シ又ハ制限ヲ爲スコト

二 當該物品又ハ之ヲ原料トスル製品ノ配給、運渡、使用又ハ消費ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコト

同法第五條 第二條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分又ハ其ノ命令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

綿絲配給統制規則第四條 工業者ニ對シ前條ノ綿絲ヲ販賣スル者ハ割當票ト引換フルニ非ザレバ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ

刑法第五十五條 連續シタル數個ノ行為ニシテ同一ノ罪名ニ觸レルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

刑事訴訟法第四百三條 被告人控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

刑法第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス
二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人小池安太郎ヲ罰金五千圓ニ被告人上田幸男ヲ罰金三千圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人安太郎ヲ二十五日間被告人幸男ヲ百日間各勞役場ニ留置ス被告人株式会社竹中商店ヲ罰金三千圓ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

株式会社竹中商店ハ和歌山市三木町中ノ丁二十三番地ニ本店ヲ設ケ綿絲綿布等ノ販賣業ヲ營ミ被告人小池安太郎ハ同會社ノ取締役兼支配人被告人上田幸男ハ同會社ノ綿絲受渡主任トシテ執レモ同會社ノ營業ニ從事スルモノナル處

(一) 被告人安太郎同幸男ハ共謀ノ上被告人會社ノ業務ニ關シ昭和十三年三月一日ヨリ同月三十一日迄ノ間二百五十

數回ノ販賣行為ト連續犯 刑事訴訟法第四百三條ト刑ノ輕重

二回ニ互リ和歌山市等ニ於テ綿織物綿莫大小生地等綿絲ヲ原料又ハ材料トスル製品ノ製造又ハ加工ヲ業トスル同市
畑原敷町十番地小林徳藏等五十七名ニ對シ輸出品又ハ輸出品ノ原料若ハ材料ノ製造又ハ加工ノ爲使用スルモノニ
非サル内地向製品ノ使用ニ供スル綿絲合計二萬六千二百六十五ヲ割當票ト引換フルニ非スシテ之カ賣渡ヲ爲シテ販
賣シ

(二) 被告人幸男ハ被告人會社ノ業務ニ關シ同年四月七日ヨリ同年六月十八日迄ノ間七回ニ互リ和歌山市等ニ於テ前
同様綿絲ヲ原料又ハ材料トスル製品ノ製造又ハ加工ヲ業トスル和歌山縣海草郡加太町堤慶一外五名ニ對シ前記同趣
旨ノ綿絲合計七百六十五ヲ割當票ト引換フルニ非スシテ之カ賣渡ヲ爲シテ販賣シ

(三) 被告人株式會社竹中商店ハ前記(一)(二)記載ノ如ク其ノ從業者タル被告人安太郎及幸男ノ兩名ニ於テ被告
人會社ノ業務ニ關シ割當票ト引換フルニ非スシテ綿絲ヲ販賣シ

タルモノニシテ被告人安太郎同幸男ノ右所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス
法律ニ照スニ被告人安太郎ノ判示(一)ノ所爲同幸男兩名ノ判示(一)及(二)ノ所爲ハ各輸出入品等ニ關スル臨時
措置ニ關スル法律(以下臨時措置法ト稱ス)第二條第五條綿絲配給統制規則第四條ニ該當スルところ被告人安太郎ノ
所爲ハ共同正犯タルト同時ニ連續犯ヲ成シ被告人幸男ノ所爲ハ判示(一)ノ點ニ於テ共同正犯タルト同時ニ判示(一)
及(二)ノ所爲ヲ通シ連續犯ヲ成スヲ以テ何レモ刑法第六十條第五十五條ヲ適用シ共同正犯連續ノ一罪トシ各其ノ所
定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定額範圍内ニ於テ被告人安太郎ヲ罰金五千圓ニ同幸男ヲ罰金三千圓ニ處シ右罰金ヲ完納
スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ被告人安太郎ヲ百二十五日間同幸男ヲ百日間各勞務場ニ留置スヘク被告
人株式會社竹中商店ニ付テハ其ノ從業者タル被告人安太郎及同幸男ノ右所爲ニ付臨時措置法第七條第二條第五條綿絲
配給統制規則第四條刑法第六十條第五十五條ニ依リ其ノ所定罰金額ノ範圍内ニ於テ罰金三千圓ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ就レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人猪股洪清、細見重喬、猪股正清上告趣意書第四點原判決ハ擬律錯誤ノ違法アリ則チ原
判決ハ其ノ事實事由ニ於テ(一)被告人安太郎同幸男ハ共謀ノ上被告人會社ノ業務ニ關シ昭和十三年
三月一日ヨリ同月三十一日迄ノ間ニ百五十二回ニ互リ小林徳藏等五十七名ニ對シ輸出品又ハ輸出品ノ
原料若ハ材料ノ製造又ハ加工ノ爲使用スルモノニ非サル内地向製品ノ使用ニ供スル綿絲合計二萬六千
二百六十五ヲ割當票ト引換フルニ非スシテ之カ賣渡ヲ爲シテ販賣シ(二)被告人幸男ハ被告人會社ノ
業務ニ關シ同年四月七日ヨリ同年六月十八日迄ノ間七回ニ互リ堤慶一外五名ニ對シ前記同趣旨ノ綿絲
合計七百六十五ヲ割當票ト引換フルニ非スシテ之カ賣渡ヲ爲シテ販賣シ(三)被告人株式會社竹中商
店ハ前記(一)(二)記載ノ如ク其ノ從業者タル被告人安太郎及幸男ノ兩名ニ於テ被告人會社ノ業務
ニ關シ割當票ト引換フルニ非スシテ綿絲ヲ販賣シタルモノニシテ被告人安太郎同幸男ノ右所爲ハ夫々
犯意繼續ニ係ルモノトスト判示シ臨時措置法第七條第二條第五條配給規則第四條刑法第六十條第五十
五條ヲ適用處斷シタルモノナリ然レトモ配給規則第四條ニ所謂「綿絲ヲ販賣スル者」トハ綿絲ノ販賣
ヲ業トスル者ヲ云フモノナリ何トナレハ販賣トハ多數人ニ對シ有償讓渡ヲ反覆スル行爲ナレハ反覆ノ

目的ヲ有セサル特定人ニ對スル有償讓渡即チ一回ノ讓渡ハ販賣ニ該ラサルモノトス而シテ被告人株式會社竹中商店(以下會社ト略稱ス)カ綿絲綿布等ノ販賣業ヲ營ム株式會社ニシテ被告人兩名カ右會社ノ業務トシテ本件綿絲ノ販賣ヲ爲シタルコトハ原判決ニ於テ確定シタル事實ナルヲ以テ被告人等カ判示ノ綿絲ヲ販賣シタルニ付犯罪ヲ構成スルモノトセハ開ハ所論禁制ノ販賣ニ違反セル單一ノ罪ヲ構成スルニ過キス即チ被告人等ノ右規則第四條ニ違反スル販賣行爲ハ反覆セラルル多數ノ賣買行爲ナルヲ以テ當然販賣ナル一個ノ事實ト認定セラルヘク從テ被告人等カ右規則第四條ニ違反シテ連續若クハ反覆シテ販賣行爲ヲ爲シタリトスルモ開ハ之ヲ包括的ニ一個ノ犯罪トシテ處罰スヘキモノニシテ個々ノ有償讓渡行爲ヲ同條ニ所謂販賣ナリトシ之ニ對シ連續犯トシテ處罰スヘキ限リニ非ス然ルニ原判決ハ判示被告人等ノ行爲ニ對シ之ヲ連續犯ナリトシ刑法第五十五條ヲ適用處罰シタルモノナレハ開ハ明ニ本令第四條ニ所謂販賣ノ意義ヲ誤解セルノミナラス擬律錯誤ノ違法アルモノト信スト云フニ在レトモ本件ノ犯罪ハ販賣毎ニ犯罪成立スルモノニシテ原判示事實ニ依レハ犯意繼續シテ數回ニ互リ販賣行爲ヲ爲シタルモノナルヲ以テ其ノ所爲ハ連續犯トシテ刑法第五十五條ヲ適用處罰スヘク包括一罪トシテ問擬スヘキモノニ非ス論旨理由ナシ

【要旨第一】

第七點原判決ハ刑事訴訟法第四百三條ニ違背シ第一審判決ヲ不利益ニ變更シタル違法アリ則チ御院判例ニ依レハ右第四百三條ノ法意ハ判決主文ノ全體ヨリ觀察シテ第一審判決ヨリ實質上刑ノ重カルヘキ

言渡ヲ爲ササラシムルニ在リテ必スシモ刑其ノモノノ言渡ノミニ限ラス刑ノ執行方法ニ付テモ亦不利益ノ變更ヲ許ササルニ在リト説明セラレタリ(昭和六年(レ)第二四〇號同年四月二十八日言渡刑事判例集第十卷一七九頁)而シテ刑事訴訟法第五百六十五條及監獄法第九條ニ依レハ懲役刑ノ執行モ罰金完納不能ノ場合ニ於ケル勞役場留置ノ執行モ實質上何等區別ナク又刑ノ輕重ハ刑法第十條ノ定ムルトコロニ依リ禁錮ノ刑ハ懲役ノ刑ヨリ輕ク罰金ノ刑ハ禁錮ノ刑ヨリモ更ニ輕キモノナレトモ同條ノ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトストノ法意ニ徴スレハ罰金完納不能ノ場合ニ於ケル勞役場留置期間カ懲役期間ノ二倍ヲ超ユルトキハ罰金ヲ以テ重シト謂ハサルヘカラス而シテ之ヲ本件ニ付觀ルニ原判決ハ檢事ノ附帶控訴ナキニ拘ラス「被告人安太郎ヲ罰金五千圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ百二十五日間勞役場ニ留置ス」ト宣告セラレ居レリ而シテ之ヲ被告人安太郎ヲ懲役二月ニ處シタル第一審判決ト比較スルニ懲役刑ノ期間二月(六十日)ニ對シ勞役場留置期間百二十五日ニシテ二倍ヲ超ユルコト正ニ五日ニ及ヒ第一審判決ヨリモ反ツテ實質上重キ刑ヲ科シタルモノト謂フヘシ果シテ然ラハ原判決ハ罰金刑ノ名ニ於テ其ノ實被告人安太郎ヲ自由刑百二十五日ニ處スルト同一ノ結果ヲ齎スモノトス則チ斯ノ如キハ刑事訴訟法第四百三條ニ違背シテ第一審判決ヲ不利益ニ變更シタル違法アルモノト信スト云フニ在レトモ

第一審判決ハ被告人小池安太郎同上田幸男ヲ各懲役二月ニ處シ原判決ハ被告人小池安太郎ヲ罰金五千

【要旨第二】

圖ニ被告人上田幸男ヲ罰金三千圓ニ處シタルモノニシテ懲役ハ罰金ヨリ重キ刑ナルコト刑法第十條ニ照シ明ナルカ故ニ縱令罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置ノ期間ヲ被告人小池安太郎ニ付テハ百二十五日間被告人上田幸男ニ付テハ百日間ト定メ之ヲ言渡シタリトスルモ原判決ハ第一審判決ヨリ輕キ刑ヲ言渡シタルモノト謂ハサルヲ得ス蓋シ右勞役場留置期間ハ懲役二月ヨリモ其ノ期間ニ於テ長キコト勿論ナリト雖懲役ト勞役場留置トハ其ノ性質ヲ異ニシ後者ハ罰金ニ代ルヘキモノナルヲ以テナリ左レハ原判決ハ刑事訴訟法第四百三條ニ違反スル所ナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事 榎田 麟二 關與

○業務上横領被告事件(昭和十四年(九)第一八三號 棄却)

【上告人】 被告人 近藤甚太郎

【第一審】 名古屋地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

訴訟費用負擔ノ判示表示方

○判決要旨

被告人ヲシテ訴訟費用ノ負擔ヲ命スルニハ判決主文ニ金額ヲ表示セサルモ判決主文ト記録ト相俟テ之ヲ確定シ得ルヲ以テ足ル

【參照】 刑事訴訟法第二百三十七條第一項 刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ヲシテ訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムヘシ
同法第二百四十五條 訴訟費用ノ負擔ヲ命スル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ執行ノ指揮ヲ爲スヘキ檢事之ヲ定ム

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年ニ處ス訴訟費用中原審證人鈴木桂一ニ支給シタル分ヲ除キ其ノ餘ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ大正十二年辯護士名簿登錄名古屋地方裁判所屬辯護士會ニ入會シ引續キ名古屋辯護士會ニ入會シテ名古屋

訴訟費用負擔ノ判示表示方

市内ニ事務所ヲ設ケ供託金ノ受領保管事件依頼者ノ相手方ニ交付スヘキ示談金又ハ相手方ノ辨済金ノ受領保管其ノ他一般辯護士事務ニ從事中犯意ヲ繼續シ

一 昭和六年七月十日頃早川吉定ヨリ丹羽賢治ニ對スル手形金取立依頼ヲ受ケ假差押保證金トシテ金四百圓ノ交付ヲ受ケテ供託ノ後同月二十八日該供託金ノ支拂ヲ受ケテ之ヲ業務上保管中其ノ頃撞ニ名古屋市内ニ於テ生活費等自己ノ用途ニ費消シ

(中略)

以テ合計金四千八十三圓餘ヲ横領シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百五十三條第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年ニ處スヘク訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ主文掲記ノ如ク被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

第三點判決ニ理由ヲ附セス第二審判決ニハ證人鈴木桂一ノ部分ヲ除キ其ノ他全部ノ訴訟費用ハ被告人ノ負擔トストアルモ其ノ數額ヲ明記セス殊ニ證人中加藤治一、飯田左三ノ如キハ起訴事件トハ全然關係ナキモノナルニ夫レ等ノ費用迄被告人ニ負擔セシムルハ失當ニシテ判決ニ訴訟費用ノ負擔ノ理由並其ノ數額ヲ明示セサルハ明カニ刑事訴訟法第四百十條第一項第十號ノ違背アルモノナリト云フニ在レ

ドモ

【要旨】

被告人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルニハ必ズシモ其ノ負擔セシムベキ費用額ヲ判決主文ニ表示スルヲ要セズ判決主文ト記録ト相俟テ之ヲ確定シ得ベキトキハ即チ以テ足レリト爲ス而シテ原判決主文ニハ一訴訟費用中原審(第一審)證人鈴木桂一ニ支給シタル分ヲ除キ其ノ餘ハ全部被告人ノ負擔トストアリテ之ト記録トヲ對照スレバ被告人ノ負擔タルベキ訴訟費用額ハ裕ニ之ヲ確定シ得ベキガ故ニ原審ガ判決主文ニ於テ被告人ヲシテ負擔セシムル訴訟費用額ヲ明示セザリシトテ目シテ違法ト爲スヲ得ズ又被告人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムル理由ノ如キハ判決ニ於テ示スベキ必要事項ニ非ザルガ故ニ原判決ニ此ノ點ノ説明ヲ缺ケリトテ是亦違法ナリト謂フベカラズ又所論證人加藤治一、飯田左三ハ豫審判事ニ於テ本件犯罪ノ情狀ニ關係アル事項取調ノ爲必要ナリト認メテ之ヲ訊問シタルモノニシテ本件斷罪ト全然無關係ノモノト謂フヲ得ザルガ故ニ是等證人ニ支給シタル費用ヲ被告人ニ負擔セシメタルヲ捉ヘ違法ヲ以テ責ムルハ當ラズ論旨全ク理由無シ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)仍テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事村上常太郎關與

○新聞紙法違反並陸軍刑法違反被告事件 (昭和十四年(九)第二三八號 同年五月四日第二刑事部判決 棄却)

【被告人】 被告人 大澤吉五郎

【第一審】 名古屋區裁判所 【第二審】 名古屋地方裁判所

○判示事項

陸軍刑法第九十九條ニ所謂軍事ノ意義

○判決要旨

陸軍刑法第九十九條ニ所謂軍事ニ關シトハ軍令事項タルト軍政事項タルトヲ問ハサル趣旨ナリト解スヘキモノトス

【參照】 陸軍刑法第九十九條 戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者

ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

海軍刑法第百條 戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

○事實

第二審ニ於テハ被告人ハ其ノ肩書住居ナル名古屋市昭和區永金町一丁目一番地ニ於テ新聞紙法ニ依リ發行スル定期出版雜誌國際經濟ノ發行兼編輯人ナルトコロ昭和十二年九月十日附發行ノ同雜誌第七卷第九號ニ英文雜誌カレント・ヒストリ一誌所載ノ論文ヲ「日本の解剖」ナル題下ニ翻譯轉載スルニ當リ第一軍部カ貧民ノ苦痛ヲ省ミス不合理極マル宣傳ニヨリ民衆ヲ僞騙シ侵略主義軍國主義政治ヲ行フモノナルカ如クニ軍部ヲ誹謗シ我國ヲ軍部ノ專權ニ委セラレタル侵略主義軍國主義ナリト爲シ軍ニ對スル國民ノ信念ヲ動搖セシムル虞アル記事ヲ掲ケ以テ我國家ノ安寧秩序ヲ紊ス事項ヲ掲載シ第二尙右記事ニ繼續シテ日本ニ四ノ弱點アリト主張シテ何等根據ナキ事實ヲ掲載シ以テ割下支那事變ニ際シ軍事ニ關シ造言飛語ヲ爲シ其ノ頃名古屋市昭和通洲原町渡邊龍孝外四百數十名ニ頒布シテ發行シタル旨ノ事實ヲ認定シ左ノ如ク法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ禁錮三月ニ處ス但裁判確定ノ日ヨリ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第一ノ所爲ハ發行人並ニ編輯人トシテ新聞紙法第四十一條ニ第二ノ所爲ハ陸軍刑法第九十九條ニ各該當スルトコロ判示第一ノ發行人トシテノ所爲ト判示第二ノ所爲並判示第一ノ編輯人トシテノ所爲ト判示第二ノ所爲トハ夫々一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ各適用シ結局重キ陸軍刑法第九十九條ノ刑ニ從ヒ其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮三月ニ處シ尙諸般ノ情狀ヲ斟酌シ刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ刑法第二十五條ニ從ヒ本裁判確定ノ日ヨリ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

陸軍刑法第九十九條ニ所謂軍事ノ意義

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書ハ「國際經濟」第七卷第九號ニ掲載セシ「日本の解剖」ト題スル翻譯文カ新聞紙法及陸軍刑法ニ問ハルルニ至リシハ不徳ノ致ス所ナルモ其ノ動機ハ國家ヲ憂フルノ心ニ出テタルモノニシテ省ミテ何等疾シキヲ覺エス從ツテ名古屋區裁判所及同地方裁判所ニ於ケル判決ニ對シテハ斷シテ服スルヲ得ス茲ニ大審院ニ上告セシ次第ニ候以下上告ノ趣意ヲ述ヘ以テ聰明ナル判官閣下ノ名斷ヲ仰キ度ク候「國際經濟」發行ノ趣旨ハ他ナシ政治經濟外交ニ關スル海外ノ刊行物ヲ翻譯シ以テ我國人ニ世界ノ動勢ヲ大觀セシメントスルニ在リ同誌ハ既ニ昭和六年八月十四日第三種郵便物ノ認可ヲ受ケ新聞紙法ニヨリテ發行スルモノニシテ秘密出版物ニ非ス又其ノ翻譯ノ材料モ正式ニ郵便局ヲ經テ海外ヨリ輸入サレ其ノ間何等疑惑ヲ挾マル可キ筋之無ク候日支事變突發以來海外ヨリノ刊行物ハ頗々トシテ其ノ筋ノ手ニ押ヘラレ乃至ハ其ノ一部ノ削除ヲ受クル事アルモ茲ニ問題トナリタル原文ハ悉ナク正式ニ入手セシモノナリ換言セハ翻譯許可アリタルモノトノ確信ノ下ニ翻譯シタル次第ニ候(郵便局ニテ一部削除シタル例トシテ横濱郵便局ノ削除明示ノ付箋附封送紙ハ法廷ヘ提出)第一新聞紙法ノ問題凡ソ歴史家カ一事實ヲ究メントスル時ハ必ス其ノヨツテ來ル原因ヲ探ツネ其ノ周圍ノ事情ヲ察シ以テ

最後ノ判斷ヲ下ス正成モカウテ其ノ居城ヲ燒キテ妻ヲ晦マセシ事アリ此ノ單ナル一事實ヲ捕ヘテ正成不忠ナリトノ烙印ヲ押サントスルハ見識アル歴史家ノ態度ニ非サル可シ今ココニ二人ノ友人手ヲ携ヘテ登山ヲ試ミタリトセン而シテ一匹ノ猛獸現ハレテ其ノ一人ヲ襲ヒタリトセヨ他ノ一人ハ其ノ友ヲ救ハントシテ持テ爾銃ニテ猛獸ヲ射タントシ誤ツテ其ノ友人ヲ殺セシ場合共ノ表面ノ行爲ハ正シク殺人ナリ或ハ家ニ闖入シタル盜賊ノ害ヲ妨カントシテ遂ニ其ノ盜賊ヲ殺害シタリトセンカ之亦殺人ナリ或ハ保險金ヲ詐取セントシテ被保險者ヲ殺害シタリトセン之亦同シク殺人ナリ此ノ三者ハソノ事實ニ於テハ同シク殺人ナルモ第一ノ場合ハ其ノ動機全ク友ヲ救ハントスルニ在リ第二ノ場合ハ所謂正當防衛ナリ然ルニ此ノ第一ノ場合ト第二ノ場合ヲモ第三ノ場合ト同様ニ取り扱フ可キヤ國際經濟ノ「日本の解剖」ニ就キ一、二審ニ於テ檢事及判事ハ單ニ誌上ニ掲載サレシ事實ノミヨリ判斷スヘキモノニシテ小生ノ思想動機等ハ敢テ顧ミル所ニ非スト謂ハルルモ之小生ノ大イニ承服シ能ハサル所ニ御座候小生カコノ文ヲ翻譯掲載セシハ別ニ本論ニ共鳴セシニモ非ス又他人ノ言ヲ借リテ小生ノ所思ヲ洩ラサントセシニモ非スタ本誌ノ卷頭ニ掲ケシ趣旨ニ從ツテ他山ノ石タル材料ヲ供給セント期セシノミ而シテ其ノ根本ハ熱烈ナル愛國心ニ基ツクモノナル事ハ云フ迄モナク候小生ノ經歷行動思想ニ就イテハ一、二審ノ法廷ニ於テモ述ヘ之カ爲ニ證人ノ喚問ヲ申請シタルモ凡テ却下サレタルハ極メテ遺憾ト致ス所ニ候小生ハ明治ノ初年日本道徳ノ衰頹ヲ慨シ之カ作興ヲ計ラントシテ日本弘道會ヲ創立シ普ネク日本

國民ニ呼ヒカケシ西村茂樹翁ノ一門下トシテ翁ノ皇室中心主義中庸主義ノ哲學ヲ繼承スル者ニ候モ斯ル點ニ幾分ノ御考慮ヲ拂ハレ度キ志願ニ候扱テ本件公訴第一ノ事實ハ其ノ内容ニ於テ安寧秩序ヲ紊ルモノトイフ事ヲ得スト思考致シ候蓋シ公訴第一ノ事實ヲナス「日本の解剖」ハ一米國人ノ我國ノ現狀ニ對スル政治的評論ニシテ其ノ評論タルノ性質上我國ノ政治的現勢力ニ對スル評價評論アル事ハ當然ノ事ニ屬ス然ラハ其ノ評價評論ニ幾分ノ誤謬アリ事實ニ誇張アリ措辭ニ於テ多少矯激ニ涉ルモノアリトスルモ之ヲ以テ直チニ國家社會ノ安寧秩序ヲ紊ルモノトイフ事ヲ得サル可ク候何トナレハ政治的勢力ニ對スル論難攻撃ハ單ニ該政治的勢力ノミカ利害ヲ感スルモ一般國民ノヨツテ以テ生活ヲ營ム安寧秩序ニハ直接ノ關係ナシ一國一社會ヨリ見テ政治的勢力ニ對スル評論トソノ國家社會ノ安寧秩序トハ全然別個ノモノタルヲ信シテ疑ハス我國ノ現秩序ハ其ノ爲ス者アルヤ否ヤハ別トシテ尙政治的勢力ノ論評ヲ許スモノナリト思考致シ候試ミニ大審院昭和十三年(れ)第九一六號同年八月三十日言渡シノ判決要旨ヲ摘記スレハ左ノ如キモノニ之有リ候新聞紙法第四十二條ニ所謂安寧秩序ヲ紊ス事項トハ國法ヲ無視シ國憲ヲ否定シ國民ノ道義心ヲ壞亂シ人ノ生命財產自由ニ危害ヲ加フ可キ事ヲ以テ挑發又ハ煽動シ暴力共ノ他不法ノ手段ヲ用キ又ハ急激ニ社會組織ヲ變更シ其ノ他一般ニ國家ノ生存發達ヲ阻害シ公共ノ平和ヲ擾亂スルノ恐レアルノ記事ヲ指スモノナル事本院判例ノ趣旨トスル所ナリ然レ共其ノ判斷ハ社會狀態ノ推移ニヨリ自ラ異ナラサルヲ得スト雖當時ニ於ケル健全ナル社會通念ヲ標準トシテ

客觀的ニ觀察ス可キモノニシテ何等不法ノ手段ヲ用キス又急激ニ之ヲ變更セン事ヲ挑發又ハ煽動スルモノニ非サル時ハ其ノ記事ヤ官憲ノ措置ニ不滿ヲ抱キ而モ其ノ前提ニ判斷ノ誤謬アリ事實ノ誇張アリテ措辭多少矯激ニ涉ルモノアリトスルモ未タ以テ安寧秩序ヲ紊ルモノト云フヲ得サルモノトス陸軍刑法ノ問題「日本の解剖」ハ一米國人ノ説ヲ紹介ニ之有リ候而シテ其ノ著者モ發行所モ明示シ其ノ原文入手ノ手續キモ前述ノ如クニ候他人ノ説ヲ紹介スルハ獨リ小生ノミナラス帝國内何レノ新聞モ競ツテ日々試ミツツアル所ナリトス然ルニ獨リ小生ノミ造言飛語ニ間ハルハ頗ル怪訝ニ堪ヘサル次第ニ候日支事變以來各新聞社ハ事變ニ關スル諸種ノ催シヲナシ戰利品共ノ他ヲ廣ク觀覽セシメツツアルカ其ノ中ニハ日本及日本軍ヲ誹謗スル敵ノ新聞紙傳單等モ散見ス然シ之等新聞社ハ例ヘ敵ノ新聞紙傳單ヲ縱覽ニ供スルトモ其ノ期スル所ハ日本軍ノ弱點ヲ宣傳セントスルニ非ス敵ハ斯ク斯クノ事ヲ我國及我カ軍ニ對シテ報シ居レリト知ラサントスルノミ小生ノ期スル所モ同様ニ候中央公論本年新年號カ「倭寇必敗無疑」ノ傳單ノ寫真ヲ卷頭ニ掲ケシ如キ其ノ一例ニ御座候孫子ハ「敵ヲ知り己レヲ知レハ百戰危フカラス」ト云ヘリ問題トナレル「日本の解剖」ヲ掲載セシハ敵ヲ知ルノ一材料ヲ供給セントセシニ過キス候或ハ此ノ材料ヲ掲載セシ小生ノ動機ヲ疑フヤモ測ラレサルモ小生ハ「日本の解剖」掲載誌ノ卷頭言ニ於テモ左ノ如ク論述シ居レリ「戦ヒニ於テ支那カ我國ノ敵ニ非サルハ最初ヨリ判明セシ事實ナリ問題ハ支那ニ非スシテ列國ノ向背ニ在リ有リ體ニ云ヘハ列國ノ目ニ映スル今日ノ我國ノ評

ハ決シテ宜シキ方ニ非ス評判ヨロシカラストテ殊更氣ニヤム必要ナキモ列國ノ評ニ耳ヲ掩フテ厭ク迄
 獨善主義ニ終始セントスルハナラニ吾人ノ取ラサル所ナリトス殊ニ外國ヨリノ出版物ヲ途中ニ押收シ
 テ迄國民ノ目ヲ蔽フ必要何レニアリヤ彼レニシテ我ヲ誤解セハ我進ンテ之ヲ反駁シ納得セシムル所ニ
 我ノ強ミアリト知ルヘシ(中略)此ノ用意ノ下ニ此ノ警戒ノ下ニ第三國ノ介在ヲ斷乎トシテ都ケ急ク
 事ナクサリトテ徒ラニ曠日彌久ニ陷ラス著々トシテ討ツ可キヲ討チ平ク可キヲ平ケテ以テ東洋平和ノ
 根本的確立ニ猛進ス可キナリ之ヲ帝國ニ課セラレタル大使命ナリトス」ト論セシ次第ニ候更ニ小生ノ
 思想傾向ヲ示ス可キ一端トシテ大正十三年七月一日出版セシ「米國ノ野心ト帝國ノ前途」(本書ハ法
 廷へ提出)ノ序文ノ一部ヲ掲ケン(前略)米國ハ富ム其ノ兵敢ヘテ強シト云フニ非サルモ最近軍國主
 義ノ勃興ハ我國ニ平和主義熱ノ勃興シタルト反比ス黃色人種カ西歐民族ノ專横ニ苦シムヤ年久シ今ヤ
 米國テフ新ナル無道者出現シ更ニ新ナル壓迫ヲ加ヘントス實ニ今日ハ彼等ニ膝ヲ屈スルカ起ツテ神州
 ノ爲ニ將タアジアノ爲ニ氣焰ヲ吐ク可キカノ時ナリトスサレト彼ハ富ミ我ハ貧シ徒ラニ輕舉シ徒ニ盲
 動セハ却ツテ彼等ニ好機ヲ與ヘン吾人ハココニ於テ臥薪嘗膽雖伏以テ計ヲ立テサル可カラス疑フ我國
 民果シテ此ノ覺悟アルカ果シテ此ノ決心アルカ夫レ戰ヒハ士氣ノ振フト振ハサルニヨツテ決ス我歐米
 巡遊七年ヲ經テ今春歸來シ痛ク我國ノ現狀ニ失望シタリ殊ニ青年ノ元氣舉ラサルヲ見テハ國家百年ノ
 爲ニ歎カサルヲ得サルモノアリ我レ此ノ書ヲ公ニス他意ナシ排日ノ根柢淺カラサルヲ知ラシメ以テ米

國ニ備ヘシメントスルニ在ルノミ斯克ノ如ク當時我國ニハ平和熱力瀰蔓シ軍人スラ軍服ヲ著スル事ヲ
 恥スル時代ナリシ然ルニ小生ハ同書二百二十一頁ニ於テ大陸政策ヲ論シ「ケニモ支那乃至滿洲方面へ
 ノ發展ハ今後ノ日本ノ浮沈ニ關スル」事ヲ痛論シタリ是レ今日ヲ去ル十五年前ノ事ニ屬シ顧ミテ無量
 ノ感ニ打タレ候次ニ陸軍刑法ニ所謂軍事ニ關シトハ軍ノ作戰用兵ニ關シトイフ意義ト解釋致シ候ソハ
 純然タル軍機軍略上ノ事ニ屬ス然ルニ本件公訴ニカカル第二ノ事實タル記事ハ既述ノ如ク我國ノ政治
 的評論ナリ軍部ヲ論スル所アリトスルモソハ政治的部門ニ關スルモノノミニシテ軍ノ作戰用兵ニ關ス
 ルト思惟スル事能ハス恰モ最近我國ノ新聞紙上ニ發表セラレタル支那國民政府ノ聲明乃至歐米各國ノ
 申入レノ如シ然モ之ハ假ニ本文ヲ翻譯文トセス小生ノ創案トシテノ假定ナリ事實ハ小生ノ說ニ非スシ
 テ他人ノ說ヲ紹介セシニ過キスノミナラス小生ハ文中伏字ヲ施シ不穩當ノ部分ハ削除スルノ注意ヲ意
 ラス辯護士モ小生モ法廷ニ於テ他人ノ說ノ紹介ナル點ヲ口ノ疲ルル迄強調セシモ一、二審ノ法廷ニテ
 此ノ點全ク顧ミラレサリシハ遺憾ヤル方ナク候更ニ御考慮ヲ請ヒ度キハ本誌ノ讀者層ニ關シテナリ本
 誌ノ讀者ハ文學博士渡邊龍聖氏海軍中將森越太郎氏ヲ始メ盡ク當代ノ識者ニ候而モ書肆ニ出サス全部
 郵送シ其ノ數モ僅ニ數百人ニ限ラレ此ノ中等教育ヲ受ケサル者ハ無シト云フモ過言ニアラス候假リ
 ニ一步ヲ讓ツテ造言飛語ナリトスルモ此ノ種ノ人ニ對シ造言飛語ハ何等ノ影響ヲ與フルヲ得サルヘク
 候隣國支那ノ歴史ヲ一瞥スルニ焚書坑儒必スシモ世ヲ安カラシメス竹林ノ七賢人出テテ後世ハ益々亂

レテ民衆ハ其ノ歸スル所ヲ知ラス蓋シ衆智ヲ蔽ヒ善言ヲ鎖シテ天下太平ヲ求メントスルハ聊モ當ラス
 小生モ我國ノ現状ニ於テ舊式ノ言論自由ヲ強調スル程ノ蠻勇ヲ所持セス候モ問題ノ翻譯ハ單ナル一米
 國人ノ一家言ノ紹介ニ過キス之ヲシモ造言飛語トシテ阻止スルニ於テハ筆ヲ握ル者ハ戰慄シ顛晦自ラ
 晦マスニ至リ知識ヲ世界ニ求ムルノ道全ク絶タレン斯クテハ我國ノ文化ニ影響スル所少ナカラサルヘ
 シト存候而モ本論掲載ノ第七卷第九號カ發行サレシハ我國政府カ現地解決不擴大主義ヲ強調シ居レル
 ノ秋ナリトス當時同號ハ行政上ノ處分ヲ受ケ問題ノ部分タケ削除ノ上頒布ヲ許サレシモノ然ルニソレ
 ヨリ半歳ヲ經過シタル後ニ於テ卒然トシテ起訴セラレシ次第當局ノ所期何レニアリヤ解スルニ苦シミ
 候思フニ三年前ノ事ヲ律スルニ三年後ノ尺度ヲ以テスルハ當歳ノ兒童ニ三歳ノ兒童ノ衣服ヲ著セシム
 ルニ同シカラサルカ這邊ノ點ニ深慮ヲメクラサレ名斷アラン事ヲ伏シテ懇願仕リ候之ヲ要スルニ(一)
 本件事案ニ擬律セラレタル陸軍刑法第九十九條ノ造言飛語罪カ成立スルニハ一般犯罪ト同様犯意ヲ必
 要トスル事ハ論ヲ俟タサル所ニ候而シテ原審認定ノ本件公訴事實ニ付小生カ果シテ犯意アリシヤ否ヤ
 之ヲ認定スルニ當リテハ須ラク小生カ「日本の解剖」ト題スル翻譯文ヲ掲載スルニ至リタル趣旨目的
 カ果シテ那邊ニアルカ仔細ニ之ヲ検討シ更ニ此ノ記事ヲ掲載シタル國際經濟ノ使命ト之ニ掲載シタル
 具體の記事トヲ客觀的ニ觀察セラレ右翻譯記事掲載當時ノ小生ノ意思ヲ探究シ決定セサル可カラサル
 ハ茲ニ贅言ヲ俟タサル事ト存シ候然ルニ小生カ右翻譯記事ヲ掲載シタルハ畢竟我國防ト其ノ將來ヲ憂

慮スルノ餘リ國際經濟ノ使命ニ從ヒ海外情勢就中我國ノ行動ヲ常ニ監視シ居レル亞米利加ニ於テハ我
 國ヲ如何ニ觀察シ居レルカヲ汎ク讀者ニ知ラシメ世ヲ警醒シ因ツテ國民ノ覺悟ト國防ノ完璧ヲ期スル
 趣旨ニ出ラタルモノナルコト炳トシテ明ナル事ニ候此ノ明白ナル點ヲ原審ニ於テ毫モ考慮セス唯單ニ
 敍上翻譯掲載ノ事實ノミヲ捉ヘ直チニ小生ニ造言飛語ノ故意アリト認定サレタルハ重大ナル事實ノ誤
 認アルモノト考ヘラレ候蓋シ或ル事象ヲ社會ニ惹起セシメタルモノニ果シテ該事象ヲ惹起セシムル意
 思アリタルヤ否ヤヲ決定スルニ當リテハ惹起サレタル客觀的事實ノミニ依據シ判斷シ能ハサル可シト
 存シ候(例殺人罪ト過失罪)(二)造言飛語罪カ成立スルニハ軍事ニ關シ(作戰用兵ノ意ト解ス)造
 言飛語シタル場合ニ限ル事ハ陸軍刑法第九十九條ノ解釋上極メテ明白ナル所ニ候然ル所小生ハ唯單ニ
 一米國人カ我國軍ノ作戰用兵ニ關セサル我國ノ軍政ニ關シ爲シタル所論ヲ翻譯掲載シタルモノナルヲ
 以テ掲載記事自體ハ陸軍刑法第九十九條ニ所謂軍事ニ關シトハ判定シ難ク又該記事ノ内容ハ小生自ラ
 造言シタルモノニ非サルカ故ニ小生ハ以上何レノ點ヨリ見ルモ右法ノ適用ヲ受クヘキ限リニアラスト
 解サレ候殊ニ右法條ニ於テ處罰サルヘキ行爲ハ其ノ對象タル可キ行爲カ軍事ニ關シ換言スレハ我國軍
 ノ作戰用兵上ニ支障ヲ來シ又ハ來サントスル虞レアル實害ノ危險存スル行爲タラサルヘカラサルハ立
 法ノ趣旨ニ鑑ミ論無キ所ナルモ本件掲載記事ノ如キハ其ノ記事ノ内容自體ニ照シ該法條ノ對象トスル
 價值ナキモノナルコト寔ニ明白ニ候果シテ然ラハ原判決ハ事實ヲ誤認シ不當ニ法則ヲ適用シタル瑕瑾

アルモノト思考サレ候ト云フニ在レトモ

刑罰法規ニ所謂罪ヲ犯スノ意トハ犯罪事實ノ認識又ハ其ノ豫見ニシテ充タサルヲ以テ足り動機ノ如何ハ犯意ノ有無ニ影響ナキモノトス故ニ被告人ノ動機ハ所論ノ如ク熱烈ナル愛國心ニ基クモノナリトスルモ量刑上斟酌スヘキハ格別本件罪責ニ消長スル所ナシト謂ハサルヲ得ス又本件ノ雜誌國際經濟ハ元ト英文雜誌所載ノ論文ヲ翻譯轉載シタルモノニシテ其ノ原文ハ輸入ニ際シ所論ノ如ク一部削除サレタル殘部ニシテ店頭ニ販賣サレアルモノナリトスルモ之ヲ以テ翻譯掲載ノ許可アリタルモノト謂フヘカラス而シテ判示第一ノ事實ハ要スルニ軍部カ貧民ヲ省ミス不合理極マル宣傳ニヨリ民衆ヲ僞瞞シ侵略主義軍國主義ヲ行フ如ク誹謗シ延テ軍ニ對スル國民ノ信念ヲ動搖セシムル虞アル記事ヲ右國際經濟ニ掲載シテ四百數十名ニ頒布シテ發行シタリト云フニ在ルヲ以テ我國ノ安寧秩序ヲ紊スモノナルコト洵ニ明ナルコト更ニ絮説ヲ要セス論旨引用ノ本院判例ハ本件ニ適切ナラス又判示第二ノ事實ハ陸軍刑法第九十九條違反等ノ事案ニ係ルヲ以テ案スルニ同條ニ所謂軍事ニ關シトハ軍令タルト軍政タルトヲ問ハサル趣旨ト解スヘキヲ以テ苟モ事變ニ際シ判示ノ如ク何等根據ナキ事項ヲ掲載シテ造言飛語ヲ爲シタルトキハ假令作戦用兵ニ關スル所ナシトスルモ同條ノ罪ヲ構成スルモノトス文中伏字ヲ施シ不穩當ノ部分ヲ削除シタリトスルモ前後通讀スレハ其ノ趣旨ヲ看取スルヲ得ヘク又雜誌國際經濟ニ掲載スル所ハ所論ノ如ク外人ノ説ヲ紹介シタルニ止マリ自己ノ説ニ非ストスルモ將タ讀者カ所論ノ如ク高等

【要旨】

教育ヲ受ケ當代ノ識者ナリトスルモ被告人ノ罪責ヲ消滅セシムル事由トスルニ足ラサルコト贅言ヲ費ヤスノ要ヲ見ス而シテ原判決ニ舉示セル各證據ヲ綜合スレハ優ニ判示事實ヲ證明スルニ足り記録ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルヲ認メス又證據調ノ限度ハ裁判所ノ職權ニ因ル裁量ナレハ原審ニ於テ證據調ノ申請ヲ却下シタルヲ云爲スルハ當ラス論旨理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事山井浩關與

○收賄被告事件(昭和十四年(れ)第一〇〇號
同年五月五日第三刑事部判決) 棄却

【上告人】 被告人 高士 實 辯護人

平松市 登殿
萬城市
石濱美春
相澤美春

【第一審】 名古屋地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

公判手續ノ更新ト判決書ニ記載スヘキ檢事ノ官氏名

○判決要旨

公判手續ノ更新アリタル場合判決書ニハ更新後ノ審判ニ立會ヒタル檢事ノ官氏名ヲ記載スヘキモノトス

【參照】 刑事訴訟法第六十九條 裁判書ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判ヲ受クル者ノ氏名、年齢、職業及住居ヲ記載スヘシ裁判ヲ受クル者法人ナルトキハ其ノ名

公判手續ノ更新ト判決書ニ記載スヘキ檢事ノ官氏名

稱及事務所ヲ記載スヘシ
判決書ニハ前項ニ規定スル事項ノ外公判ニ關與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載スヘシ
同法第三百五十三條 開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他
ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セザリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ
同法第三百五十四條 開廷後列事ノ更迭アリタルトキハ公判手續ヲ更新スヘシ但シ
判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人高士實ヲ懲役八月ニ處ス原審ニ於ケル未決
勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入ス(其ノ他省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人高士實ハ稅務署屬トシテ昭和十年四月十八日三重縣阿山郡上野町所在ノ上野稅務署ニ著任シ爾來同町玄蕃町ニ
居住シ同署ノ間稅課次席トシテ勤務シ居リタルカ昭和十一年七月一日附ヲ以テ同縣南牟婁郡木本町所在ノ木本稅務署
ヘ轉勤ヲ命セラレ同月十日上野町ノ前記居宅ヲ引拂ヒ同月十二日ヨリ前記木本町立切町ニ轉住シタルモノニシテ其ノ
上野稅務署在動中ハ間稅ノ徵稅、脫稅ノ防止及其ノ犯則檢舉ノ職務ニ從事シ居リタルモノナル處

第一 被告人高士實ハ

一 (イ) 右上野稅務署ノ管内タル同縣名賀郡名張町新町ニ於テ同稅務署ノ監督ヲ受ケ酒造販賣業ヲ營ミ居リタル
北村榮助(原審相被告人)カ被告人實ヨリ從來其ノ職務上便宜寬大ナル處置ヲ受ケタル謝禮竝ニ將來猶其ノ職務上
便宜ノ取扱ヲ得度キ趣旨ヲ以テ獎勵スルモノナルコトノ情ヲ知リナカラ昭和十一年二月十日右名張町字新町料理店
兼旅館業田中屋事田中よま方ニ於テ右北村榮助ヨリ同人外一名計三名ニテ飲食遊興シタル代金三十圓二十七錢一人

前金十圓九錢及自己カ同夜田中屋ニ宿泊シ翌日同所ニ於テ飲食シタル代金四圓九錢以上合計金十四圓十八錢相當ノ
獎勵ヲ受ケ

(中略)

以テ其ノ職務ニ關シテ收賄シタルモノナリ

尙被告人高士實ノ判示所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人高士實ノ判示第一ノ一乃至五ノ各所爲ハ刑法第九十七條第一項前段第五十五條ニ該當スルヲ以
テ所定期間範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役八月ニ處スヘク同法第二十一條ニ則リ未決勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入
スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人平松市藏、万城登上告趣意書第一點原判決ハ公判ニ關與シタル檢事ノ官氏名ヲ判決書ニ記載セ
サルモノニシテ刑事訴訟法第六十九條第二項ニ違背シ不法ナリ第二審第四回公判調書ノ冒頭ニハ「裁
判長ハ前回公判後法定ノ期間ヲ經過シタルニヨリ審理ヲ更新スル旨ヲ告ケ云々檢事ハ豫審終結決定書
記載ノ通り被告事件ノ陳述ヲ爲シタリ」トノ記載アリ依是觀是原判決ハ第二審第四回以後ノ公判審理
ニ基キ爲サレタルモノナルコト明ナリ從テ判決書ニハ右第四回以後ノ公判ニ關與シタル檢事ノ官氏名

公判手續ノ更新ト判決書ニ記載スヘキ檢事ノ官氏名

ヲ記載スヘキモノナルコト刑事訴訟法第六十九條第二項ノ規定ニ徴シ極メテ瞭ナリ而シテ第二審第四回公判ハ檢事檜原義男立會シテ開廷セラレタルコト其ノ公判調書ノ記載ニ依リテ明白ナレハ原判決ニハ右檢事檜原義男ノ官氏名ヲ記載スヘカリシモノナリ然ルニ原判決ハ其ノ冒頭ニ於テ檢事松本貞之助關與審理判決セル旨記載シ檢事檜原義男ノ官氏名ヲ記載セス從テ原判決ハ冒頭掲記ノ如キ違法アルモノナリ尤モ第二審第一乃至第三回公判調書ニ依レハ右第一乃至第三回公判ハ檢事松本貞之助立會シテ開廷セラレタルコト明ナリ然レトモ前示第四回公判調書ノ記載ニ依リテ明ナル如ク原判決ハ右第一乃至第三回ノ公判ニ基キ爲サレタルモノニ非スシテ第四回公判ニ於テ審理更新セラレ右更新後ノ公判ニ基キ爲サレタルモノナリ而シテ刑事訴訟法第四十八條第一項ニ於テ「判決ハ口頭辯論ニ基キ之ヲ爲スヘシ」ト規定シ所謂口頭辯論主義ヲ採用シ辯論更新ノ制ヲ定メタルモノナレハ右更新前ノ公判ニ立會シタル檢事ノ如キハ所謂判決ノ基礎ヲ爲ス公判ニ關與シタル檢事ト謂フコト能ハサルモノナリ蓋シ刑事訴訟法第六十九條第二項ニ「公判ニ關與シタル」トハ其ノ判決ノ基礎トナルヘキ口頭辯論ノ爲サレタル公判ヲ謂フモノト解スヘキモノナルコト前示刑事訴訟法第四十八條第一項ノ規定ニ參照シテ疑ヲ容レサル處ナルノミナラス判事ノ更迭ニ依リ審理更新アリタル場合ニ於テ其ノ更新前ノ公判ニ關與シタル判事ヲ以テ其ノ判決ノ基礎トナリタル公判ニ關與シタルモノト爲スコト能ハサルト同一徹ナリ從テ第二審第一乃至第三回公判ニ檢事松本貞之助立會シタリトスルモ同檢事ハ原判決ノ基礎トナリタ

ル第四回以後ノ公判ニ立會シタルモノニ非サルヲ以テ判決書ニハ同檢事ノ官氏名ヲ記載スヘキモノニ非スシテ更新後ノ公判ニ立會シタル檢事檜原義男ノ官氏名ヲ記載スヘキモノナリ然ルニ原判決ハ前示ノ如ク判決ノ基礎トナリタル公判ニ關與シタル檢事ニ非サル檢事松本貞之助ノ官氏名ヲ記載シ公判ニ關與シタル檢事檜原義男ノ官氏名ヲ判決書ニ記載セサルモノナルヲ以テ則チ冒頭掲記ノ違法アルモノナリト云フニ在レドモ

刑事訴訟法第六十九條第二項ガ「判決書ニハ前項ニ規定スル事項ノ外公判ニ關與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載スヘシ」ト規定セル所以ノモノハ當該審判手續ガ檢事ノ關與アリテ適法ニ行ハレタルコトヲ明カニセムトスルニ外ナラザレバ、判決書ニハ少クトモ審理又ハ判決言渡ニ關與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載スベキモノト解セザルヘカラズ。故ニ若シ引續キ十五日以上開廷セザリシコト又ハ開廷後判事ノ更迭アリタルコトニ因リテ公判手續ノ更新アリタルガ如キ場合ニ於テハ、更新後ノ審判ニ立會ヒタル檢事ノ官氏名ヲ記載スベク、更新前ノ審判ニ立會ヒタル檢事ノ官氏名ヲ記載スベカラザルヤ言ヲ竣タズ。然ラバ本判決ニ所論ノ如ク公判手續ヲ更新シタル第四回公判ニ立會ヒタル檢事檜原義男ノ氏名ヲ記載セズシテ、更新前ノ第一乃至第三回ノ公判ニ立會ヒタル檢事松本貞之助ノ官氏名ヲ記載セルハ明カニ刑事訴訟法第六十九條第二項ニ違反スルモノニシテ檢事ノ官氏名ヲ記載セザルト擇ブ所ナシト雖、此ノ如キ法令違反ハ裁判ニ影響ヲ及ボサザルコト明白ナルヲ以テ上告理由ト爲スコト能ハザルハ

既ニ本院判例ノ示ス所ナレバ(大正十三年(レ)第一七〇號同年四月九日第三刑事部判決參照)此ノ點ヲ以テスル所論攻撃ハ之ヲ採用スルニ由ナク結局論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事植田麟二關與

○再審請求棄却決定ニ對スル再抗告事件(昭和十四年(レ)第一〇號同年五月十八日第二刑事部決定 棄却)

【抗告人】 再審請求人 江口 薫 辯護人 中込 虎雄

【第一審】 橫濱區裁判所 【第二審】 橫濱地方裁判所

○判示事項

刑事訴訟法第四百八十五條第六號ニ所謂原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ノ意義

○判決要旨

刑事訴訟法第四百八十五條第六號ニ所謂原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪トハ原判決力認定シタル罪ヨリ法定刑ノ輕キ他ノ罪ヲ謂フ

【參照】 刑事訴訟法第四百八十五條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シ

- 一 原判決ノ證據ト爲リタル證據書類又ハ證據物確定判決ニ因リ偽造又ハ變造ナリシコト證明セラレタルトキ
- 二 原判決ノ證據ト爲リタル證言、鑑定、通譯又ハ翻譯確定判決ニ因リ虛偽ナリシコト證明セラレタルトキ
- 三 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ誣告シタル罪確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ誣告ニ因リ有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキニ限ル
- 四 原判決ノ證據ト爲リタル通常裁判所又ハ特別裁判所ノ裁判確定裁判ニ因リ變更セラレタルトキ
- 五 特許權、實用新案權、意匠權又ハ商標權ヲ害シタル罪ニ因リ有罪ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付其ノ權利ノ無効ノ審決確定シタルトキ又ハ無効ノ判決アリタルトキ
- 六 有罪ノ言渡シテ受ケタル者ニ對シテ無罪若ハ免訴ヲ言渡シ、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ刑ノ免除ヲ言渡シ又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

刑事訴訟法第四百八十五條第六號ニ所謂原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ノ意義 二七五 (三)

七 原判決若ハ前審ノ判決若ハ其ノ判決ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル事
豫審終結決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル事、公訴ノ提起若ハ其
ノ基礎ト爲リタル捜査ニ關與シタル事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴
提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シ
タルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前判事又ハ檢事
ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テ原判決ヲ爲シタル裁判所其ノ事實ヲ知
ラザリシトキニ限ル

○事實

事實關係ハ決定理由ニ説示スル所ノ如シ

○主文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

○理由

本件抗告ノ趣旨ハ原決定ヲ取消シ更ニ相當ナル裁判アランコトヲ求ムト謂ヒ其ノ理由トシテ原決定ハ
事實ノ認定及法律ノ解釋適用ヲ誤リタル違法アリ全部不服ニ付抗告ニ及ヒタリ即第一點原決定ハ法ノ
解釋ヲ誤リタル違法アリ原決定ハ抗告人カ原審ニ提出セル抗告理由ハ刑事訴訟法第四百八十五條第六
號ニ該當セスト決定セリ然レトモ本件被害者坂下松太郎氏ハ抗告人ノ父江口勘治ト十數年前ヨリ友人
ニシテ其ノ縁故ニテ抗告人ハ坂下松太郎氏方ニ雇ハルルニ到リ坂下氏カ本件現場即チ川崎市登戸ニ於

テ工事ノ下請負ヲ爲シ抗告人モ其ノ現場ニ於テ働キ居リタル處昭和十三年十月六日坂下氏ハ現金八千
圓(判決ハ九千圓トアルモ坂下氏カ江口勘治ニ告ケタルハ八千圓ナリ)ヲ下請代金トシテ受取其ノ日
ノ夕方坂下氏ハ抗告人及外一人ノ雇人ニ對シ今晚ハ大ニ飲モフト申シ右假事務所ニテ飲酒シ其ノ際八
千圓ヲ懷中ヨリ取出シ計算シテ洋服ノポケットニ入レタルヲ以テ一杯氣嫌ノ抗告人ハ之ヲ目撃シテ羨
望ニ堪ヘス折柄主人坂下氏ノ景氣ノ好キ話ニ遂ニ氣分ヲ許シ約四合位ノ酒ヲ過シ(最高五合位ノ酒量
ナリ)タリ時偶右二人ノ雇人中抗告人以外ノ雇人ニ對シ主人坂下氏ハ陸軍省ノ監督カ歸ヘル頃テアル
未タ協議致シ度キ事項アルヲ以テ歸途ヲ登戸ノ電車停留所ニテ待受ケ速レ來ル様命シタルヲ以テ之ニ
赴キタリ其ノ後更ニ兩人ハ飲酒セルヲ以テ主人坂下氏ハ遂ニ酩酊シ抗告人ニ他ノ一人ト更替ヲ命シ横
臥醉眠セリ青年ニシテ獨身ノ抗告人ハ多量ノ飲酒ノ爲メ氣分増大シ居ル際トテ主人坂下氏カ見セタハ
千圓ノ中一部ニテモアレハ景氣ヨク遊里ニ入り歡樂ヲ盡シ得ルト考ヘ之ニ主人坂下氏ハ父ト友人テア
ルコトモ手傳ヒ飲酒後ノ一時ノ出來心ヨリ醉眠セル主人坂下氏ノ洋服ノポケットヨリ一摺ミ札ヲ擱ミ
出シ懷中シテ吉原其ノ他ニテ遊興シタルモノニシテ犯情最モ慫慂スヘキモノナリ主人坂下氏カ嚴格ナ
ランカ決シテ本件ノ如キ犯罪發生セサルモノナリ主人カ札ビラヲ切ラスンハ之又本件發生セス少量ノ
飲酒ニ止メタランニハ之亦本件ハ發生セサルモノナリ故ニ本件發生ハ申立人ノ飲酒ト主人坂下氏ノフ
シダラヨリ生シタルモノナリ若シ夫レ抗告人ニ懲役刑ヲ科シ刑務所ノ既決囚トシテ收容スル程ノ惡性

アランカ八千圓ノ内二千餘圓ニ止メテ之ヲ竊取スル筈ナク必スヤ全部竊取シ居リタルモノナリ又申立人ノ父勸治ハ抗告人ハ家督相續人ナルヲ以テ昭和十三年十月十二日附ノ抗告人勾留處分ノ通知カ高津警察署ヨリ送達サルルヤ同月二十日ニハ主人坂下氏ノ被害金二千二百圓(判決ニハ二千四百五十圓トアルモ主人坂下ヨリ抗告人ノ父勸治ニ話セルハ二千三百圓ト稱ス)ノ内千四百五十圓ハ抗告人ヨリ坂下氏ニ返還シ殘千二百五十圓ノ中金一千圓ヲ現金ニテ同月二十日辨償シ殘二百五十圓ハ抗告人カ買入レタル衣類及動産約五百餘圓ヲ以テ坂下氏ニ代物辨償スル旨申述ヘ被害金全部辨償セリ因テ坂下氏ハ自分カ警察又ハ検事局ニ赴キ本人ヲ貰ヒ下ケ來ルヘキヲ以テ安心サレ度シ之迄本件ノ如キ事件ノアツタコトハアルモ常ニ貰ヒ下ケテ濟ンテ居ル決シテ心配スルニ及ハヌ元ヲ糺セハ自分カ犯罪ヲ作ツタ様ナモノヲアル反テ自分カ申譯ナシト申サレタリ因テ父勸治ハ之ヲ信シ安心シ居リタリ夫レノミナラス若シ假ニ事件カ検事局ニ移レハ警察同様又検事局ヨリ通知アルモノト考ヘ居リタリ然ルニ事件ハ右事實ト別ニ進行シ昭和十三年十月二十四日抗告人ハ警察ヨリ横濱検事局送リトナリ同日起訴同月二十五日横濱刑務所ニ未決囚トシテ拘留サレ一日隔テ同月二十七日公判開廷サレ取調ヲ受ケ同日判決言渡アリ同日控訴權拋棄確定トナリ検事局裁判所ヲ通シテ僅ニ三日間ニテ確定スルニ至リタル最モ快速裁判ナリ刑ハ判決スル當時ノ情狀ニヨリ減刑又ハ執行猶豫ヲ爲スヘキニ只三四時間ノ間ニ取調ヘ判決言渡且其ノ判決ヲ確定サセタノテアツテハ如何トモ爲ス術ナク之カ前科數犯ニテ親兄弟ニ見離ナサレタ者

ナランカ止ムヲ得サルモ初犯ニシテ而モ酒ノ上ニテ父ノ友人トシ同一事務所ニテ爲シタル犯罪ナルヲ以テ其ノ情狀ノ真相ヲ知ル爲メ少クモ被害者位ハ證人トシテ取調ヲ爲スヘキモノナリ此ノ取調ヲ爲セハ當時ノ様子ハ明ニ判明シ之ニ相當スル裁判ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ然ルニ之ヲ爲サス判決ヲ爲シ又調書判決ニテ而モ取調ヨリ確定迄數時間トハ餘リニモ人ノ權利ヲ輕視シ過キタル傾キアリ刑罰權行使ハ最モ重大ナルモノニシテ刑罰宜敷キヲ得サレハ國亂ルノ謠アリ犯罪ニ對シ不當ナル刑ノ言渡ヲ爲サンカ途ニハ國ヲ亡ホス源泉ヲ爲スモノナレハ自己カ先ツ刑罰ヲ科セラルル心持ニテ刑罰ヲ科スヘキモノナリ又刑事被告人カ裁判長ノ面前テ判決ニ不服ナルヲ以テ控訴スルト申ス人ハ相當教養アル人カ冤罪ニ問ハレタルカ又ハ大膽不敵ノ者ヨリ外ナク初犯ニシテ改悛セルモノハ良心ノ苛責ニ責メラレ刑ノ量定ニ迄突嗟ニ考ヘテ及ホス豫猶ナク之ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタル判事カ不服カアルマイト申サハ自然ニ頭ヲ下ケルハ當然ニシテ斯カル行爲ヲ爲シタルコトハ夫レ自體全ク惡質ノモノニ非サルコト明ナリ因テ斯カル者ニ對シテハ之ヲ保護スル爲メ一週間以内ニ上訴スルカ否カラ決スヘシト諭告シ歸去セシムヘキモノナリ(東京區裁判所ニ於テ一昨々年四月頃長澤太郎ナル者竊盜ニテ懲役八月ノ刑ヲ受ケタルモ上訴拋棄ヲ爲サシメタル爲メ親族ニ知ラシ控訴シ被害者ト和解シ執行猶豫ノ判決ヲ受ケ其ノ後事故ナク眞面目ニ職業ニ就キ居レリ)抗告人ハ餘リニスビード裁判ナルヲ以テ右父ノ辨償ノ事實ヲ知ル邊モナク精神上ニ於テハ親族ニ通知スル邊ナク唯自責ノ念ニカラレ悔心シ居タルヲ以

テ裁判長ノ命唯之ニ從ヒ居リタルノミナリ然ルニ昭和十三年十一月十日東京市荒野川區西ヶ原町五百十一番地南雲祐吾氏(叔父)カ横濱區裁判所ヲ訪問シ尋ネタルニ本件ハ既ニ確定セルコトヲ聞キ驚キ同日抗告人收容サレ居ル横濱刑務所ヲ訪ネ教誨師看守立會ノ上右事情ヲ述ヘタルニ抗告人ハ高津警察署ニ於テ勾留處分ヲ受ケタル當時ヨリ既ニ改悛シ居リタルヲ以テ落涙罪ヲ謝シ且父カ奔走努力ヲ謝シタルモ時既ニ遅ク唯其ノ際父勸治カ主人坂下氏ニ昭和十三年十月二十日金一千圓ヲ辨償セル事實ヲ知リ其ノ受領證ハ同月十四日辯護人中込虎雄面會ノ際始メテ見知セルモノナリ刑事訴訟法第四百八十五條第六號ニ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキトアリ後ニ輕キ罪ナルコトノ明確ナル證據アレハ再審ノ原因トナルモノナリ勿論罪ト刑トハ異ルモ現行刑法ハ殺人ノ罪ハ三年ヨリ死刑迄トアリ竊盜ノ罪ハ十年以下トシ最高ハ異レトモ殺人ノ罪ヲ犯ストモ犯情ニヨリテハ二年以下ノ刑トナリ執行猶豫ノ恩典ニ浴スル人アリ又輕キ竊盜ノ罪ト雖犯情ニ依テハ十年ノ懲役刑ニ處セラルルコトアリ現行刑法ノ如ク量定刑ノ範圍擴張サレタル刑法ニ於テハ右重キ罪輕キ罪ノ解釋ハ刑ノ量定カ著シク重ク又ハ輕クト解スヘキモノナリ本件ニ於テ抗告人カ若シ前記父勸治カ被害金辨償シ居ルコトヲ知り之ヲ裁判所ニ申立共ノ立證ヲ爲セハ左記家庭事情モ加ハリ當然刑ノ執行猶豫ノ恩典ニ浴スヘキモノナリ(執行猶豫カ付クト付カサルニヨリ刑ノ判定著シク不當ト謂フコトハ刑事訴訟法第四百十二條ニヨル大審院刑事部ノ取扱ニヨリ明ナリ)然ルニ之ヲ知ラサル爲前記ノ判決

ノ言渡シニ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ伴ハス其ノ後ニ至リ抗告人ハ前記説明スル如ク右事實ヲ知り且ツ右辨償金ノ受領證ヲ發見シタルモノニシテ再審請求趣意書添附ノ第一號證明書中盜シタ金ノ辨償カ出來ルカトノ判事ノ問ニ對シ出來ソウモアリマセスト答ヘアル記載ト第二號證ノ日附トヲ對照セハ抗告人ハ判決言渡當時右事實及證據ヲ知ラス其ノ後聞知及發見セルコト明ニシテ刑事訴訟法第四百八十五條第六號ニ該當スルモノナリ然ルニ原審前記決定ヲ爲シタルハ違法ナリ(家庭ノ事情父江口勸治ハ東京瓦斯株式會社ニ三十有餘年間勤續シ相當ノ地位ヲ占メ昭和十一年度ハ附近約八百戸ノ町會長ニ推サレ次女ハ前記南雲家ノ養女トナリ目下高等師範學校在學將來教育家トシテ社會ニ活動スル目的アリ次男ハ目下村上養鷄場ニ勤務シ三男ハ中學校ニ在學シ長女ハ武藏野高等女學校ヲ卒業目下三菱重工業株式會社ニ勤務シ居レリ長男申立人カ刑餘ノ人ト終ラハ一家一門ノ不面目又將來子女ノ職業及婚姻等ヲ思ヘハ父勸治ハ頭腦モ狂ハン計リニ候抗告人ハ叔父南雲氏ヨリ之ヲ聞カサレ今ハ全ク悔悟シ居ルモノナリ)ト云ヒ第二點原審ハ判斷違脫ノ違法アリ抗告人カ原審ニ提出セル抗告理由中抗告人カ横濱區裁判所ニ於テ判決言渡ヲ受ケル當時ハ父勸治カ被害者坂下氏ニ被害金一千圓支拂ヒタルコトヲ知ラス又其ノ受領證アリタルコトヲ知ラス何レモ判決言渡後發見セルコトノ證據ヲ舉ケ説明セリ右受領證ハ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百八十五條第六號ノ規定ニ該當スルモノナリ然ルニ原審ハ右事實ニ付テハ其ノ判斷ヲ爲サス即チ判斷違脫ノ違法アルモノナリト謂フニ在リ

仍テ案スルニ抗告人ニ對スル竊盜被告事件ニ付昭和十三年十月二十四日横濱區裁判所檢事ノ起訴ニ因リ同月二十七日横濱區裁判所ニ於テ被告人ハ昭和十三年十月六日川崎市登戸二千八十七番地坂下組假事務所六疊ノ間ノ背廣服上衣ポケット内ニ入レ置キタル判示坂下松太郎所有現金九千圓中ヨリ金二千四百五十圓ヲ竊取セリトノ事實ヲ認定セラレ懲役八月ニ處スル旨ノ判決ヲ受ケ檢事及被告人ノ控訴拋棄ニ因リ該判決ハ即日確定シタルトコロ抗告人ヨリ該判決ニ對シ刑事訴訟法第四百八十五條第六號所定ノ原由アリトシテ同裁判所ニ再審請求ヲ爲シ其ノ理由ナシトシテ右請求ヲ棄却セラレ之ニ對シテ横濱地方裁判所ニ抗告ヲ申立テタルモ抗告棄却ノ決定ヲ受ケ更ニ本院ニ再抗告ヲ申立タルコトハ一件記録ニ徴シテ明白ナリ而シテ刑事訴訟法第四百八十五條第六號ニ所謂原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキトキトハ原判決カ認定シタル罪ヨリ其ノ法定刑ノ輕キ他ノ罪ヲ認ムヘキトキノ意義ニシテ同一ノ罪ニ付原判決ノ科シタル刑ヨリ輕キ刑ヲ以テ處斷シ又ハ原判決ノ與ヘサリシ刑ノ執行猶豫ヲ言渡シ得ヘキ情狀アルカ如キ場合ヲ指稱スルモノニアラス今本件ニ於テ抗告人ノ竊取金額カ原判決認定ノ額ト差異アル事實犯罪ノ動機緣由並抗告人ノ家庭ノ狀況及判決言渡前ニ於テ被害額ノ辨償セラレタルコトヲ抗告人カ判決確定後ニ新ニ知り得且其ノ金員ノ受領證ヲ實見シタル等所論ノ事情ノ如キハ單ニ原判決ノ刑ヨリモ輕キ刑ヲ以テ處斷シ又ハ刑ノ執行猶豫ヲ與ヘ得ヘカリシ情狀アリト謂フニ過キスシテ前示法條第六號ニ所謂原判決ノ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタ

【要旨】

ルトキニ該當セサルコト明ナルカ故ニ之ヲ以テ再審請求ノ原由ト爲スニ足ラス本件再審請求ハ理由ナシトスサレハ原審カ之ト同一ノ見地ニ立チテ右請求ヲ棄却シタル第一審ノ決定ニ對スル抗告ヲ理由ナシト認メテ棄却シタルハ洵ニ正當ニシテ原審ニハ所論ノ如キ法律ノ解釋適用ヲ誤リタル等ノ違法アルコトナク又原審カ所論受領證ニ付特ニ説明ヲ加ヘサリシハ原決定ニ於テ被害金辨償ノ事實ヲ判決後ニ知り得タル場合ノ如キハ前示法條第六號ニ該當セスト判示シタル以上ハ右受領證ニ付特ニ言及スル必要ナシト認メタルニ依ルモノニシテ之ヲ以テ判斷遺脱ト爲スハ當ラス畢竟本件抗告ハ其ノ理由ナキカ故ニ刑事訴訟法第四百六十六條第一項ニ則リテ主文ノ通り決定ス

檢事柴碩文關與

○業務上過失致死傷被告事件(昭和十四年(レ)第二三三號 棄却)

【上告人】 被告人 西本義盛 辯護人 (野中 真 雄)

自動車ノ運転ト同乗者ノ死傷

○ 判示事項

自動車ノ運轉ト同乗者ノ死傷

○ 判決要旨

自動車ノ運轉免許ヲ受ケ居レル醫師力自家用自動車ヲ操縦運轉スルニ當リ必要ナル注意ヲ怠リ過ツテ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ其ノ被害者力路上ノ者ナルト同乗者ナルトヲ論セス過失死傷ノ責任ヲ負フヘキモノトス

【參照】 刑法第二百一十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ他人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金四十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ四十日間勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ醫師ニシテ自動車ノ運轉免許ヲ受ケ往診ニ際シ自ラ自家用自動車ヲ運轉シ居ルモノナルトコロ昭和十三年六月上旬頃ヨリ連日多忙ニシテ東奔西走シ診察治療ニ務メ睡眠不足ヲ來シ疲勞甚シク之ヲ回復スル暇モナカリ折柄同

年六月十日高知縣香美郡上蓮生村五王堂小學校ニ於テ約四時間ニ互リ約百三十名ノ兒童ノ身體検査ヲ爲シ更ニ疲勞ヲ加ヘタル上自家用小型三輪乘用自動車高第一六九九號ヲ操縦シテ歸途ニ就キ縣道大橋五王堂線ヲ西南ニ進行シ午後二時過頃上蓮生村大字安丸蓮生郵便局南方約二町附近ノ右道路上ニ來リタル際小松敏明(當十六年)ノ合圖ニ依リ停車シ其ノ依頓ニ應シ同人ノ母山本芳美(當三十六年)及岡村村衛(當六十九年)ヲ右自動車後部客席ニ同乗セシメタル際右客席ヨリ取出シタル洋傘ヲ運轉臺ニ置キタル儘發車シタルカ同所ハ道路ノ副員約九尺ニシテ左側(東側)ハ山ニ接シ右側(西側)ハ斷崖ニ臨ミ僅カニ操縦ヲ誤ルモ忽チ右斷崖ヨリ墮落スヘキ虞アル危險區域ナルカ斯ル場所ヲ身體疲勞シタル際他人ヲ同乗セシメテ運轉スル場合ハ如何ナル事故ヲ惹起スヘキヤ洞ラレサルニ依リ自動車運轉者タルモノハ特別ノ注意ヲ拂ヒ把手ヲ確持シ前方ヲ注視シ萬一運轉ノ妨害トナルヘキ物ノ運轉臺ニ在リタル場合ハ須ク一旦停車シテ之ヲ他ノ安全ナル場所ニ置換ヘタル後更ニ運轉ヲ繼續スル等適宜ノ措置ヲ構シ以テ墮落ノ危險ヲ防止スヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラス被告人ハ前記疲勞ノ際事故ニ出テス周到ノ注意ヲ缺キ右發車後數間進行シタル際前記運轉臺ニ置在リタル洋傘ヲ後方客席ノ岡村村衛ニ手渡サントシテ右手ヲ把手ヨリ離シテ洋傘ヲ持チ單ニ左手ニテ把手ヲ握リタル儘前方ヲ注視スルコトナク右後方ニ振向キタル爲運轉ヲ誤リ把手ヲ右手ニ轉シタル儘進行セシメタル結果該自動車ヲ前方約八九間ノ道路ノ右端ヨリ崖下ニ墮落セシメ因テ前記山本芳美ノ右頭骨及肩胛骨ニ治療一ヶ月ヲ要スル骨折傷ヲ負ハシメ又岡村村衛ヲ腦震盪ニ基ク心臟機能衰弱ニ因リ翌十一日午後三時頃岡村安丸ナル同人ニ於テ死亡スルニ到ラシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中山本芳美ニ對スル業務上過失傷害岡村村衛ニ對スル業務上過失致死ノ點ハ孰レモ刑法第二百一十一條ニ該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ犯情重キ業務上過失致死罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金四十圓ニ

自動車ノ運轉ト同乗者ノ死傷

二八六 (一〇)
處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ被告人ヲ四十日間勞務場ニ留置スヘク訴訟費用ハ
刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ從ヒ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人野中轍上告趣意書第五點原判決ハ擬律錯誤ノ違法アリ則チ本事案ニツキ業務上過失罪トシテ刑
法第二百一十一條ヲ適用シタルハ違法ナリト信ス抑々本件自動車ハ他人(旅客、病傷者其ノ他ノ他人)
ヲ輸送スル業務ニ之ヲ被告人カ使用スルニ非ス只專ラ被告人カ山村遠里ニ散在スル患者ヲ自ラ診療
往訪スルニ歩行ノ疲勞ト時間ノ空費ヲ救フタメニシテ後部ニ客席ト見ユル座ヲ設ケタルハ時トシテ產
婆、看護婦等ヲ同伴シ又ハ醫療用器具材料等ヲ携帯スル必要ノ場合ニ備ヘタルノミ會社社長カ自家專
用車ヲ用ヒテ通勤往復ノミナラス出勤中ノ私用社用ニテ之ニ乗ル事例少カラズ俳優カ劇場往復其ノ他
演劇關係用ニ自用車ヲ使ヒ辯護士カ自宅ト事務所ノ往復裁判所ヘノ出退其ノ他ノ所用ニ自用車ヲ用
フル場合ニ之ヲ業務上ノ自動車使用ト云フハ妥當ナラサル如クニ醫師ノ往診用ノ專用自動車モ之ヲ業
務上使用ト云フハ穩當ニ非ス假リニ醫師ノ往診ニ自用車ヲ用フルハ業務上ノ使用ナリトスルモ本件ノ
場合ハ被告人ノ醫療業務ト全ク交渉ナク歩行中ノ山本芳美竝ニ岡村村衛カ大槓方向ニ旅行スル歩行ノ

苦勞ヲ救フ純然タル仁惠好意ニ出テテ便乘セシメタ次第ナレハ此ノ場合ヲモ區別セシテ業務上過失
ニ間擬スヘキモノニ非ス則チ往診ナル業務ニ使用スルトキハ業務上過失ノ問題ヲ考ヘ得ヘキモ業務外
ノ目的殊ニ純然タル仁惠好意ノ目的ヲ以テ自家用自動車ヲ使用スル場合ニハ業務上過失ノ問題ヲ生ス
ヘキ餘地ナシト思惟ス蓋シ過失傷害竝ニ致死罪ニ付キテ業務上梅毒ヲ重ク所罰スル所以ノモノハ業務
ノ執行ニ付キ生スヘキ過失責任ヲ基礎トセルコト明白ナリ仁惠好意ノ目的ヲ以テ判示兩女ヲ大槓迄輸
送スル行爲ハ到底之ヲ被告人ノ業務ノ執行ト目スヘカラサル所ナレハ假リニ過失傷害竝ニ死ノ刑責ア
リトスルモ其ノ限度ニ止ルヘク之ヲシモ更ニ刑責ヲ加重スル業務上過失犯トナスハ不當ナルノミナラ
ズ不法ナリト思考ス此ノ點ニ付キ辯護人ハ原審ニ提出セシ昭和十四年一月二十五日附辯論要旨ト題
スル書面ニ基キ主張セルニ拘ハラス原判決ハ其ノ點ノ審理ヲ盡シタル刑跡ナク又本件ヲ必ス業務上過
失ニ間擬セサル可ラサル理由ヲ判示セスシテ刑法第二百一十一條ニ擬シタルハ審理不盡理由不備ノ外ニ擬
律錯誤ノ違法アリト謂ハサル可カラスト云フニ在レドモ

刑法第二百一十一條ニ所謂業務トハ人ガ社會生活上ノ地位ニ基キ反覆繼續シテ行フ事務ヲ謂フモノト解
スルヲ相當トスベク其ノ事務ガ營利ノ目的ニ出デタルト將又其ノ事務ガ主トシテ爲スモノナルト附隨
的ニ爲スモノナルトヲ問ハザルモノトス左レバ自動車ノ運轉免許ヲ受ケ居レル醫師ガ往診其ノ他醫業
ヲ行フニ當リ自ラ自家用自動車ヲ操縱運轉スル場合ハ其ノ操縱運轉ハ同條ニ所謂業務ニ該當スルモノ

自動車ノ運轉ト同業者ノ死傷

ト謂フベク偶々其ノ自動車ニ他人ヲ便乗セシメタリトスルモ之レガ爲其ノ性質ヲ異ニスルモノニ非ズ
 而シテ斯ル操縦運轉ヲ爲スニ際シ必要ナル注意ヲ怠リ過ツテ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ其ノ被害者ガ
 路上ノ者ナルト同乗者ナルトヲ論セズ右醫師ハ業務上過失致死傷ノ責任ヲ負フベキモノトス原判決ノ
 認メタル所ニ依レバ被告人ハ醫師ニシテ自動車ノ運轉免許ヲ受ケ往診ニ際シ自ラ自家用自動車ヲ運轉
 シ居ルモノナレバ往診ノ歸途山本芳美、岡村村衛ヲ便乗セシメ自ラ自家用自動車ヲ操縦運轉スルニ際
 シ必要ナル注意ヲ怠リテ同自動車ヲ斷崖ヨリ墮落セシメ因テ同人等ヲ死傷ニ致シタルモノナル以上刑
 法第二百一十一條ノ業務上過失致死傷ノ罪ニ該當スルコト疑ヲ容レザル所ナリ從テ原判決ニハ所論ノ如
 キ違法アルモノト謂フベカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事村上常太郎關與

○殺人被告事件(昭和十四年(九)第三〇七號 棄却)
(同年五月二十五日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 新谷勝太郎 辯護人 高木右門

【第一審】 福岡地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

自首調書ト刑事訴訟法第三百四十三條

○判決要旨

刑事訴訟法第二百七十六條第二百七十三條ニ基キ作成シタル自首
 調書ハ刑事訴訟法第三百四十三條ノ制限ニ依ルノ限りニアラス

【参照】 刑事訴訟法第三百四十三條 被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシ
 テ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限リ之ヲ證據ト爲ス

自首調書ト刑事訴訟法第三百四十三條

- コトヲ得
- 一 供述者死亡シタルトキ
- 二 疾病其ノ他ノ事由ニ因リ供述者ヲ訊問スルコト能ハサルトキ
- 三 訴訟關係人異議ナキトキ
- 區裁判所ノ事件ニ付テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス
- 同法第二百七十三條 檢事又ハ司法警察官口頭ノ告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ
- 第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ調書ニ付之ヲ準用ス
- 同法第二百七十六條 第二百七十二條 第二百七十三條及第二百七十四條ノ規定ハ自首ニ付之ヲ準用ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役八年ニ處ス但シ原審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入ス押收ニ係ル七首一本(證第一號)ハ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和二年頃ヨリ諏訪シゲノト内縁ノ夫婦トナリ爾來同棲シ來タレカ昭和十二年六月頃ヨリ山本シヅ子(當時三十一歳)ト情交關係ヲ結ビ同年九月頃起請文ヲ取交ハシテ一年以内ニハ必スシゲノヲ離別シテ夫婦タラシコトヲ誓ヒ同年十二月ヨリ被告人ノ雇主玉井金五郎ノ仕事先ナル福岡縣糟屋郡古賀町ニシヅ子ヲ連行シテ其ノ宿舍ニ同棲シタルカ之ヲ知りタルシゲノハ若松市ノ居宅ヨリ雇主古賀町ノ右被告人宿舍ニ到リシヅ子ト喧嘩口論シテ風波絶エサリシ

ヲ以テ被告人ハ速ニシゲノヲ離別センコトヲ欲シタルモ雇主金五郎ハ被告人ノ不心得ヲ訓誡シシヅ子ト關係ヲ絶ツカ若ハ職ヲ辭スルカ二者其ノ一ヲ擇フヘキ旨申向ケ極力被告人ノ反省ヲ促シタルヲ以テ被告人モ同人ヲ憚リテ之ヲ決行スルコト能ハス他面シゲノハ同人ノ勸メニ從ヒ昭和十三年三月末頃若松市ニ於テ營ミ居リタル下宿屋ヲ幾ミ家財道具ヲ携ヘテ古賀町ニ赴キ被告人ト同棲スルニ至リタルヲ以テ被告人ハ已ムナク一旦シヅ子ヲ實家ニ歸サシメタルカシヅ子ニ對スル恩慕ノ情抑ヘ難ク無分別ニモ金五郎トノ雇關係ヲ絶テテ同人ノ干涉ヲ排シシゲノヲ離別シテシヅ子ト晴レテ添ハンコトヲ決意シ同年五月末頃金五郎方ヨリ取テ若松市ニ歸來シ次テ同年六月初頃シゲノヲ離別シタル上シヅ子ニ同棲ヲ求メタル處意外ニモシヅ子ハ種々口實ヲ構ヘテ被告人ト同棲スルコトヲ背セサルノミナラス情交スラ拒絶シタルヲ以テシヅ子ハ他ニ情夫ヲ拵ヘテ變心シタルモノト思惟シ之ヲ追窮シタルモ要領ヲ得サリシヨリ寧ロ情夫トノ密會ノ現場ヲ取押ヘテ強談メンコトヲ決意シ且情夫ノ反撃ニ備ヘンカ爲同月十日頃七首一本(證第一號)ヲ買求メテシヅ子ノ動靜ヲ窺ヒタルモ其ノ機ヲ得ス其ノ間同月十三日及十九日ノ兩度シヅ子ヲ呼出シテ執拗ニ同棲ヲ迫リタルモシヅ子ハ事ヲ構ヘテ容易ニ應諾セサリシヲ以テ被告人ハシヅ子ノ變心ヲ感知シタルカ未練尙絶キ難ク一縷ノ希望ヲ抱キ乍ラ同月二十二日午後八時半頃更ニシヅ子ヲ被告人方ニ招致シ事理ヲ論シテ只管同棲ヲ懇進シタルモシヅ子ハ依然前言ヲ繰返シテ之ニ應セサリシヲ以テ深ク其ノ無情ヲ恨ムト共ニシヅ子ノ爲メ妻ヲ捨テ職ヲ抛テ今更ニシヅ子ト夫婦タリ得スハ徒ニ世ノ嘲笑ヲ買フニ至ルヘキヲ思ヒ痛憤遺ル方ナク今一度シヅ子ノ翻意ヲ促スモ應セスンハシヅ子ヲ殺害シテ恨ミヲ霽スニ如カスト決意シ密ニ七首一本(證第一號)ヲ懷中ニ忍ハセ同夜十時頃歸路ニ就クシヅ子ヲ送リテ被告人方ヲ出テ途中若松市五反町若松市役所裏ノ武徳殿ノ縁側ニ腰掛ケ再度其ノ翻意ヲ懇請シタルモシヅ子ハ之ニ耳ヲ藉サス歸リ始メタルヲ以テ今ハ之迄ト覺悟ヲ定メ同市役所裏通路上ニ於テ懷中ヨリ七首ヲ取出シ左手ニテシヅ子ヲ握マヘ「ヨクモ俺ヲ瞞シタナ」ト叫ビ乍ラ七首ヲ右逆手ニ握リ矢處ニシヅ子ノ頸部其ノ他數箇所ヲ突刺シ因テ

シブ子ノ左側下顎三角部ニ三角形ヲナス最大横徑二・八釐深サ七釐ニシテ左側顛動脈及總頸動脈ヲ切斷スル刺創ヲ加ヘタル外尙九個ノ刺傷ヲ加ヘ右左側顛動脈ノ切斷ニ基ク出血ノ爲同人ヲシテ即死セシメ以テ殺害ノ目的ヲ達ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示行爲ハ刑法第九十九條ニ該當スルヲ以テ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役八年ニ處シ同法第二十一條ニ附リ原審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入シ押收ノ比首一本(證第一號)ハ本件犯行ノ供用物件ニシテ被告人ノ所有ニ屬スルヲ以テ同法第十九條ニ則リ之ヲ沒收スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人高木右門上告趣意書第一點ハ原判決ハ證據ニ供スヘカラサルモノヲ證據トシテ用ヒタル不法アルモノナリ即チ原判決ハ其ノ證據理由ノ部分ニ於テ司法警察官ニ對スル被告人ノ自首調書(記錄三丁以下)中ノ供述記載部分ヲ採テ以テ本件ニ付被告人ノ殺意ヲ認定スルノ資料トナシタリ然レ共元來捜査官ノ作成シタル自首調書ナルモノハ性質上單ニ當該犯罪ニ付自首アリタリヤ否ヲ認ムルノ資料タルニ過キスシテ之ニ一步ヲ進メテ犯罪ヲ認定スルノ證據ト爲スヲ得サルモノナリ此ノ點ニ關スル限リ自首調書ハ全ク司法警察官又ハ檢事ノ所謂聽取書ト同様刑事訴訟法第三百四十三條ノ「被告人……ノ供

述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノ」ニ該當スルモノト信ス果シテ然ラハ之ヲ證據トスルモ可ナル同條所定ノ要件ヲ具備セサル本件ニ於テ殺意認定ノ資料ニ供シタル原判決ハ結局證據ニ依ラスシテ事實ヲ認定シタル違法アルモノニシテ第二點ニ於テ説明スル點ト相俟テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニアレトモ

【要旨】

自首調書ハ刑事訴訟法第二百七十六條第二百七十三條ニ基キ作成スル書類ナルヲ以テ所謂聽取書ト同視スヘキモノニアラス從テ刑事訴訟法第三百四十三條ノ制限ニ依ルノ限リニアラス法カ自首調書ノ作成ヲ命シタルハ單ニ自首アリタルヤ否ヲ認定スルノ資料トナスニ限りタルモノニアラスシテ其ノ内容ニシテ苟モ證據トシテ採ルヘキモノアルトキハ其ノ採否ハ一ニ原審ノ專權ニ屬ス原判決ニハ所論違法ノ點ナキヲ以テ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事山井浩關與

○業務上横領竊盜被告事件(昭和十四年(九)第三一〇號 棄却)

【上告人】 被告人 山下 正信 辯護人 (尾山 正義 秋元 勇一 郎)

【第一審】 小倉區裁判所 【第二審】 福岡地方裁判所

○判示事項

重油運送船船長ノ横領罪ト竊盜罪

○判決要旨

重油運送船ノ船長力權ニ其ノ運送中ノ重油ヲ汲取リタル場合ニ於テ其ノ船艙ノ蓋ニ封印ナキトキハ業務上横領罪ヲ構成スヘク其ノ封印アルトキハ竊盜罪ヲ構成ス

【参照】 刑法第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

同法第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十月ニ處ス但シ原審ニ於ケル未決勾留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十二年五月頃ヨリ門司市内濱町二丁目山脇同濟店所有ノ重油船田島丸ノ船長トシテ重油運送ノ業務ニ従事シ居リタルモノナルトコト同船水夫長ナル實弟山下重三外二名ト共謀ノ上

第一 昭和十三年二月二十二日頃ヨリ同年三月二十四日頃迄ノ間前後五回ニ互リ門司港大里沖合ヨリ門司市小森江三井物産株式會社門司支店貯油所ニ向ケ重油運送中同船船艙ノ蓋ニ封印ナキヲ寄貨トシ擅ニ該船艙在中ノ同會社所有ニ係ル重油百三十罐(時價合計金百四十餘圓相當)ヲ汲取リ置キ以テ其ノ頃宇部港内ニ於テ之ヲ他ニ賣却横領シ

第二 同年四月八日頃ヨリ同年七月一日頃迄ノ間前後七回ニ互リ前記三井物産株式會社門司支店貯油所外二箇所ヨリ大分縣津久見港等ニ向ケ重油運送中同船船艙ノ蓋ニ封印シテ其ノ頃宇部港内ニ於テ之ヲ他ニ賣却横領シ

郡佐賀關町柏原商店等所有ニ係ル重油百七十五罐(時價合計金約二百圓相當)ヲポンプニテ汲取リ竊取シタルモノニシテ右業務上横領及竊盜ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第一ノ各業務上横領ノ點ハ刑法第二百五十三條第六十條第五十五條ニ第二ノ各竊盜ノ點ハ同法第二百三十五條第六十條第五十五條ニ夫々該當スルトコロ右ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ノ關係アルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ從ヒ犯情重キ竊盜罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十月ニ處スヘク但シ同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

重油運送船船長ノ横領罪ト竊盜罪

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人尾山正義上告趣意書第一點原判決ハ法令ニ違反シ且理由不備ノ違法アル判決ナリト思料ス原判決理由ニ依レハ「第一、昭和十三年二月二十二日頃ヨリ同年三月二十四日頃迄ノ間前後五回ニ互リ門司港大里沖合ヨリ門司市小森江三井物産株式會社門司支店貯油所ニ向ケ重油運送中同船船艙ノ蓋ニ封印ナキヲ奇貨トシ擅ニ該船船在中ノ同會社所有ニ係ル重油百三十一罐（時價合計百四十餘圓相當）ヲ汲取リ次テ其ノ頃宇部港内ニ於テ之ヲ他ニ賣却横領シ」ト說示シテ上告人ノ右所爲ヲ業務上横領トシテ刑法第二百五十三條ヲ適用シタリ然レトモ上告人ノ右所爲ハ何レモ門司港内ニ於テ爲サレタルモノナル處元來重油運搬ニ際シテハ先ツ三井物産株式會社門司支店ヨリ倉掛運送店ニ而シテ倉掛運送店ハ更ニ重油運搬船田鶴丸ノ船主タル山脇回漕店ニ順次委託シ上告人ハ田鶴丸船長トシテ山脇回漕店ニ雇儲サレ居ル關係上雇主タル山脇ノ命ニヨリ田鶴丸ヲ運行セルモノナルカ前記三井物産株式會社門司支店及倉掛運送店並山脇回漕店ハ何レモ門司市所在ノモノナルニヨリ同一港内ニ於テ運搬ニ從事セル上告人ハ勿論運搬船田鶴丸ハ山脇回漕店ノ監督内ニ在リタルモノト謂フヘク且該運搬船船艙中ノ重油ハ所有者タル三井物産株式會社門司支店ハ勿論倉掛運送店及山脇回漕店ヨリ見ルモ之カ看視内ニアリタル物ニシテ之ヲ汲取リタル上告人並乘組員等ノ行爲ハ竊盜罪ヲ構成スヘキモノナルヲ以テ原審辯護人

ハ此ノ點ニ付陳述シタルモノナルカ原判決ハ何等理由ヲ明確ニセス即チ何カ故ニ竊盜罪ヲ構成セスシテ業務横領罪ノ成立スルヤノ點ヲ說示セス漫然前記上告人ノ行爲ハ業務横領ナリトシテ刑法第二百五十三條ヲ適用シタルハ明ニ法令違反且理由不備ナル違法アル判決ニシテ到底破毀ヲ免レサルモノナリト云ヒ」辯護人秋元勇一郎上告趣意書第三點原判決ハ理由不備並擬律上法ノ適用ヲ誤リタル違法アリト云ヒ」第一、昭和十三年二月二十二日頃ヨリ同年三月二十四日頃迄ノ間前後五回ニ互リ門司大里沖合ヨリ門司市小森江三井物産株式會社門司支店貯油所ニ向ヒ重油運送中同船船艙ノ蓋ニ封印ナキヲ奇貨トシ該船船在中ノ重油ヲ擅ニ汲取リ之ヲ横領シ第二、同年四月八日頃ヨリ同年七月一日頃迄ノ間前後七回ニ互リ前記三井物産株式會社門司支店貯油所其ノ他二箇所ヨリ大分縣津久見港ニ向ケ重油運送中同船船艙ノ蓋ニ封印シアリタルメ甲板ノ孔ヨリ竊ニ該船船在中ノ重油百七十五罐ヲポンプニテ汲取リ竊取シタルモノニシテ」ト判示シ刑法第二百五十三條及同第二百三十五條ニ開擬シ同法第四十七條ニ依ツテ之ヲ處斷セラレタリ然シナカラ（一）刑法第二百五十二、三條ニ所謂横領罪ハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領スルニ依リテ成立シ同法第二百三十五條ニ所謂竊盜罪ハ他人ノ支配ニ屬スル財物ヲ奪取スルニ依リテ成立スルモノニシテ兩者ノ區別ハ其ノ客體カ事實上何人ノ支配ニアリタルヤニ依リテ定マルモノニシテ前記第一ノ所爲ハ暫ク措キ第二ノ所爲ニ對シ竊盜罪ヲ以テ開擬センニハ單ニ船艙ニ封印ノ存シタル一事ヲ以テ直ニ他人ノ所持内ニアリタルモノト斷スル能ハス封印存スルモ

其ノ占有ヲ移轉スル場合アリ又然ラサル場合アリ後陳スル如ク其ノ内容物カ特定物ナリヤ不特定物ナリヤニ依リ自ラ法律效果ヲ異ニセサルヘカラス然ルニ原判決ニ於テハ前記上告人ノ所爲ニ對シ刑法第二百三十五條ニ定ムル竊盜罪ノ條件ヲ具備スルヤ否ヤニ關シテハ何等ノ理由ヲ明示セズ理由不備ノ違法アリト謂ハサルヘカラス(二)從來御院ニ於テ封印アル内容物ヲ領得セル場合ニ於テハ横領罪ニアラスシテ竊盜罪ニ問擬スヘキモノナリトノ判例之アリト雖如何ナル場合モ一律ニ論スルハ概念ニ捉ハレタル謬見ニシテ封印ノ付シアル場合ハ如何ナル場合ニ於テモ横領罪ヲ構成セスト謂フヘキニアラス即チ横領罪ハ自己ノ占有スル他人ノ物ニ對スル犯罪ニシテ其ノ客體ハ委託ニ因リテ占有セラレル物ヲ謂ヒ封印ヲ有スル場合ト雖之ヲ包括シテ被委託者ニ占有移轉セラレル場合アリ例ヘハ金錢其ノ他代替物カ封印ノママ委託セラルル場合ニ於テモ其ノ所持ハ依然委託者ニ在リテ被委託者ニ移轉セストナスハ事實ヲ無視シタル概念ニ捉ハレタルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ不特定物ハ若シ封印ノ存在セサル場合ハ假令被委託者カ之ヲ領得スルモ適當ノ時機ニ於テ同種ノ物ヲ以テ委託者ニ返還ノ義務ヲ履行スル限リ横領罪ヲ構成スルモノニアラサルコトハ論ヲ俟タス然ルニ若シ之ニ封印ヲ付シタル場合ハ其ノ不特定物タル性質ヲ變シ特定物トナルモノナルヲ以テ之ヲ領得シタル場合ハ其ノ一部タルト全部タルトヲ問ハス横領罪ヲ構成スルモノナリ即不特定物ハ之ヲ内容トシタル容器ニ封印ヲ施シテ委託シタル場合ニ於テハ其ノ目的物ハ特定物トシテ被委託者ニ占有カ移轉セラレタリト謂フノミニシテ事

實上之ヲ占有シ支配スル者ハ被委託者ニシテ委託者ニアラサルコトハ有封ト無封トニ依リ之ヲ異ニスルモノニアラス(牧野英一博士著改訂日本刑法第八八七頁第九四五頁參照)即本件上告人前記第二ノ所爲ハ將ニ之ニ該當シ斷シテ第一ノ所爲ト其ノ性質ヲ異ニスルモノニアラサレハ當然横領一罪ヲ以テ論スヘキニ原判決ハ第一ノ所爲ヲ横領罪ニ第二ノ所爲ヲ竊盜罪ニ問擬シ併合罪トシテ刑法第四十七條ニ依リ處斷シタルハ明ニ擬律上法ノ適用ヲ誤リタル違法アリト云フニ在リ

【要旨】

因テ案スルニ海運業者タル同濟店ニ雇ハレ重油船ノ船長トシテ重油運送ノ業務ニ從事スル者カ重油運送ノ途中損ニ之ヲ汲取リタル行爲ハ其ノ在中セル船長ノ蓋ニ封印ナキトキハ業務上横領罪ヲ構成スヘク其ノ封印アルトキハ竊盜罪ヲ構成スヘキモノトス蓋海運業者ニ雇ハレタル船長ハ運送契約ニ因リ受託物ノ占有ニ付テハ右業者ノ代理人タル地位ニ在ルト同時ニ船長ハ右受託物タル重油ニ封印アルトキハ其ノ物ヲ所持セルニ拘ラス在中物ヲ支配スルコトヲ得サルモノナレハ重油ノ占有ハ全部的ニ依然トシテ委託者ニ存スルニ反シ其ノ封印ナキトキハ船長ニ於テ在中物ヲ支配シ得ヘク所謂占有アリト謂ヒ得ヘケレハナリ原判決ノ確定セル事實ハ之ヲ要スルニ被告入ハ山縣同濟店所有ノ重油船田鶴丸ノ船長トシテ重油運送ノ業務ニ從事シ居リタルモノナルトコロ第一、三井物産株式會社門司支店貯油所ニ向ケ重油運送中同船船長ノ蓋ニ封印ナキヲ奇貨トシ損ニ右船長在中右會社ノ重油百三十鐘ヲ汲取リ他ニ賣却シテ横領シ第二、同會社外二箇所ヨリ他ニ向ケ重油運送中同船船長ノ蓋ニ封印シアリタル重油ヲ

竊ニ甲板ノ孔ヨリボンブニテ汲取り竊取シタリト云フニ在ルヲ以テ第一ハ横領罪ニシテ第二ハ竊盜罪ニ當ルコト洵ニ明ナリ而シテ原判決ハ第一ニ付業務上横領罪ノ構成要件ヲ判示セルヲ以テ其ノ反面ニ於テ竊盜罪ニ非サル所以モ自ラ推知シ得ヘク所論ハ畢竟犯罪ノ構成要件ヲ争フモノニシテ刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ主張ニ當ラサルモノトス故ニ原判決ニハ被告上ノ理由ニ依リ法令違反理由不備及擬律錯誤ノ違法アルヲ見ス論旨執レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事山井浩關與

○軍機保護法違反被告事件(昭和十四年(九)第二八七號 棄却)

【上告人】 被告人 石丸 勝太 辯護人 宮本多賀雄
 原審辯護人 宮本多賀雄

【第一審】 東京刑事地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

軍機保護法ニ所謂軍事上秘密ノ事項

○判決要旨

帝國陸軍部隊ノ戰時編制、裝備並人馬數等ニ關スル事項ノ如キハ軍機保護法ニ所謂軍事上秘密ノ事項ニ屬スルモノトス

【參照】 軍機保護法(明治三十二年法律第四百四號)第一條 軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件タルコトヲ知ツ之ヲ探知收集シタル者ハ重懲役ニ處シ其ノ情輕キモノハ一等ヲ減ス

同法(昭和十二年法律第七十二號)第二條第一項 軍事上ノ秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ六月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

同法第一條 本法ニ於テ軍事上ノ秘密ト稱スルハ作戰、用兵、動員、出師其ノ他軍事上ノ秘密ヲ要スル事項又ハ圖書物件ヲ謂フ

前項ノ事項又ハ圖書物件ノ種類範圍ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣命令ヲ以テ之ヲ定ム

同法施行規則(昭和十二年陸軍省令第四十三號)第一條第一項 軍機保護法第一條第二項ノ規定ニ依リ陸軍ノ軍事上秘密ヲ要スル事項又ハ圖書物件ノ種類範圍左ノ如シ

(中略)

二 編制、裝備又ハ動員ニ關スル事項

軍機保護法ニ所謂軍事上秘密ノ事項

イ 戦時ノ編制又ハ裝備
(以下省略)

○ 事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年六月ニ處ス但シ本裁判確定ノ日ヨリ一年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス押收ニ係ル陸軍戦時編制表並關係手紙(昭和十二年押第一〇〇五號ノ一ノ一及二)ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ明治三十四年十二月海軍兵學校ヲ卒業シ明治三十六年一月海軍少尉ニ任セラレ爾來累進シテ大正元年十二月海軍少佐ニ任セラレタルカ大正四年十二月豫備役ヲ仰付ケラレ數年前退役海軍少佐トナリタルモノニシテ十數年前ヨリ軍事外交ニ關スル著述ヲ業トシ米リタルコロ日、ソ兩國交戦ノ場合ヲ想定シ權威アル軍事小説ヲ執筆センコトヲ志シ之カ豫備資料トシテ帝國陸軍ノ戦時ニ於ケル部隊ノ編制等ニ關シ其ノ大略ノ知識ヲ獲得セント欲シ帝國陸軍ノ戦時編制カ軍事上秘密ニ屬スル事項ナルコトヲ知り乍ラ昭和十一年七月二十日過頃東京市杉並區井萩二丁目八十二番地ノ被告人ノ當時ノ居宅ニ於テ豫テ知合ノ同市淀橋區上落合一丁目四百二十番地豫備陸軍歩兵中尉松下芳男ニ宛テ日本陸軍ノ平戦兩時ニ於ケル一個師團ノ人員並編制ニ付其ノ概要ヲ教示セラレ度旨ヲ記載シタル依頼狀ヲ作成シテ之ヲ同人ニ郵送シ因テ右松下ヲシテ同月二十三、四日頃日本陸軍部隊ノ平戦兩時ニ於ケル編制並裝備ニ付相當詳細ニ記述シタル書面(昭和十二年押第一〇〇五號ノ一ノ一及二)ヲ郵便ニ依リ前記被告人居宅ニ送付セシメテ之ヲ閱讀シ以テ戦時部隊ノ裝備並人員馬數等ニ關シ軍事上秘密ノ事項ヲ探知シタルモノナリ
被告人ノ判示所爲ハ之ヲ行爲時法タル明治三十二年法律第四百號軍機保護法ニ照スニ同法第一條刑法施行法第十九條

第一項本文第二條第二十條舊刑法第二十二條第二項ニ該當シ其ノ情輕キモノト認ムルヲ以テ同軍機保護法第一條後段刑法施行法第二十一條ニ則リ舊刑法第六十七條第二十二條第二項ノ規定ニ依リ同軍機保護法第一條前段ノ刑ニ一等ヲ減シ六年以上八年以下ノ懲役刑ヲ以テ處斷スヘク又之ヲ裁判時法タル昭和十二年法律第七十二號ヲ以テ改正セラレタル軍機保護法ニ照スニ同法第二條第一項第一條(昭和十二年陸軍省令第四十三號軍機保護法施行規則第一條第一項第二號イ)ニ該當スルヲ以テ六月以上十年以下ノ懲役刑ヲ以テ處斷スヘキモノトス仍テ刑法第六條第十條ニ從ヒ刑ノ輕重ヲ比較スルニ前示舊軍機保護法ノ刑輕キヲ以テ之ニ依リテ處斷スヘキトコロ犯罪ノ情狀同諒スヘキモノアルヲ以テ刑法第六十六條刑法施行法第二十一條ニ則リ舊刑法第九十條第六十九條第一項第七十條第一項ノ規定ニ依リ前示舊軍事保護法ノ六年以上八年以下ノ懲役刑ニ二等ヲ減シタル一年六月以上三年九月以下ノ懲役刑ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年六月ニ處シ情狀ニ因リ刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認ムルヲ以テ刑法第二十五條ニ則リ本裁判確定ノ日ヨリ一年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク押收物件中昭和十二年押第一〇〇五ノ一ノ一及二(陸軍戦時編制表並關係手紙)ハ被告人カ本件ノ罪ヲ犯シ因テ得タル財物ナルヲ以テ前示舊軍機保護法第七條ニ則リ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條ニ則リ被告人ヲシテ全部之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

辯護人宮本多賀雄上告趣意書第一點原審判決ハ事實ノ認定ヲ誤リ適用スヘカラサル法ヲ適用シタル違法アリ即チ原審判決ハ「被告人ハ日、ソ兩國交戦ノ場合ヲ想定シ權威アル軍事小説ヲ執筆センコトヲ

軍機保護法ニ所謂軍事上秘密ノ事項

志シ之カ準備資料トシテ帝國陸軍ノ戰時ニ於ケル部隊ノ編制等大略ノ智識ヲ獲得セント欲シ帝國陸軍ノ戰時編制カ軍事上秘密ニ屬スル事項ナルコトヲ知り乍ラ昭和十一年七月二十日過頃東京市杉並區井萩二丁目八十二番地ノ被告人ノ當時ノ居宅ニ於テ豫テ知合ノ同市淀橋區上落合一丁目四百二十番地豫備陸軍歩兵中尉松下芳男ニ宛テ日本陸軍ノ平戰兩時ニ於ケル一個師團ノ人員並ニ編制ニ付其ノ概要ヲ教示セラレ度旨ヲ記載シタル依頼狀ヲ作成シテ之ヲ同人ニ郵送シ因テ右松下ヲシテ同月二十三、四日頃日本陸軍部隊ノ平戰兩時ニ於ケル編制並ニ裝備ニ付相當詳細ニ記述シタル書面(昭和十二年押第一〇〇五號ノ一ノ一及二)ヲ郵便ニ依リ被告人居宅ニ送付セシメテ之ヲ閱讀シ以テ戰時部隊ノ裝備及人員數等ニ關シ軍事上ノ秘密ノ事項ヲ探知シタリト判示シ行爲時法タル明治三十二年法律第百四號軍機保護法(舊軍機保護法)第一條後段及裁判時法タル昭和十二年法律第七十二號ヲ以テ改正セラレタル軍機保護法(新軍機保護法)第二條第一項第一條(昭和十二年陸軍省令第四十三號軍機保護法施行規則第一條第一項第二號イ)ニ該當スルモノト爲シ有罪ノ判決ヲ言渡シタリ然レトモ本件ノ陸軍平戰兩時ニ於ケル編制表ハ軍機保護法上所謂軍事上ノ秘密ニ該當セサルモノナルヲ以テ其ノ理由ヲ左ニ説明スヘシ一、本件編制表ノ作成者松下芳男カ其ノ作成ニ當リ資料トシタルモノハ陸軍歩兵操典戰術學教程(借行社記事新聞雜誌ノ記事(何レモ公刊出版物歩兵操典戰術學教程等モ陸軍士官學校前ニテハ古本トシテ一般人ノ購入ヲ許スモノナリ)並ニ松下自身カ約滿十七年前面モ下級將校陸軍歩兵中尉トシテ動

務シタル當時ノ智識經驗ニシテ陸軍ニ現在スル軍ノ秘密書類ヲ轉寫シ又ハ秘密擔當ノ局ニ當ル者ヨリ聞知シタル事項ヲ表トシタルモノニ非ス換言スレハ陸軍ニ現在スル軍ノ秘密ニ直接ニ觸レタル所ハ本件ノ犯罪ノ核心ヲ爲ス編制表ニ一點モ存セサルナリ(記錄第一二二丁第三二二丁以下第三二二丁)從テ本件編制表ハ全ク松下一個人カ前掲資料ヲ基礎トシテ想像的ニ獨創シタルモノト謂フヘク而モ其ノ想像的獨創ハ今日ヨリ約十年前頃ヲ想定シタルモノニシテ今日陸軍ニ現在スル編制ト比較スルトキハ其ノ相異モ著シク陸軍省ノ其ノ局ニ當ル者ヨリ見ルトキハ全ク一附スヘキ程度ノモノタルニ過キス(記錄第三二二丁以下第三二二丁)若シ本件編制表ト陸軍ニ現在スル軍ノ編制トノ比較ヲ許スニ於テハ本件編制表カ軍機保護法上所謂軍ノ秘密事項ニ紙觸スルトコロ一點モ存セサルコト極メテ明瞭ナリト信スルモ軍事上ノ秘密ニ關スル犯罪ナルカ爲之カ比較對照ヲ許ササルハ檢事ニ利ニシテ被告人ニ不利ナリ然レトモ本件編制表ハ既ニ前記ノ如ク公刊サレタル出版物ヲ基礎的資料トシ之ニ松下一個人ノ想像ヲ以テ獨創シタルモノナルコトハ昭和十二年押第一〇〇五號ノ手紙ノ文中「答解ハ零點云々」及編制表中本件犯罪ノ成否ノ鍵トモ言フヘキ裝備及人員數ハ其ノ記載ニ於テ凡テ「？」ナル疑問符ヲ附シアリ殊ニ今日陸軍ニ機械化部隊ナル化學部隊ノ存スルコト一般人ノ常識ナルニ拘ラス本件編制表ニハ化學部隊ヲ全ク缺除セル點及本件編制表ハ約十年前ヲ想定シタルモノナル點等ヲ照合考査スルトキハ恐ラクハ陸軍ニ秘匿セラルル軍ノ編制ト只一點ノ偶然ノ一致點スラナク如何ニ出鱈目ニシテ全ク軍機保

護法上所謂軍ノ秘密ニ屬スル事項トシテ秘匿スルニ價スヘキモノニ非サルコトハ容易ニ首肯シ得ヘシ
軍機保護法上所謂「軍ノ秘密ニ屬スル事項ノ探知」トハ眞ニ軍ニ現存スル軍ノ秘密事項ヲ探知スルコ
トヲ指稱スルモノニシテ本件編制表ノ如ク概念上ヨリスレハ軍事上秘密事項ノ如キ外觀アルモ其ノ實
ハ軍ニ一個人カ何等現實軍ニ存スル軍事上ノ秘密事項ニ觸レシテ想像的ニ獨創セル事項ノ探知ヲモ
指稱スルモノニ非ス二、軍事上ノ秘密事項中ニハ文書ヲ以テ之ヲ表ハシ秘密事項トシテ秘匿セラルル
場合ト文書ニ表ハサス其ノ局ニ當ル者ノミノ秘匿ニ依リテ秘匿セラルル場合トアリ昭和八年陸軍第二
號陸軍ノ秘密書類ニ關スル件第一條ニ於テハ陸軍ノ秘密書類ヲ機密書類及秘密書類ノ二種ニ分チ第二
條陸軍ノ機密書類トハ作戰時編制及動員ニ關スルモノ竝ニ特ニ指定シタル書類ヲ謂フ第三條陸軍ノ
秘密書類トハ作戰時編制及動員ニ關スル書類中輕易ナルモノ竝ニ陸軍ノ内外ヲ問ハス公表ヲ禁シタ
ル書類ヲ謂フト規定スルニ觀レハ陸軍ニ於テハ軍事上ノ秘密ヲ機密ト狹義ノ秘密トニ分ケ國軍ノ戰時
編制及動員ニ關スル事項ハ主トシテ文書トシテ秘匿セラルルモノナルコトヲ窺フニ足ル前記陸軍第二
號ニ於テ直接斯ル意義ヲ表明シタリトハ謂ヒ難キモ元來國軍ノ編制トハ軍令ニ依リ規定セラレタル國
軍ノ組織ニシテ即チ部隊ノ單位タル旅團聯隊等ト之ヲ組織スル人馬數及裝備ヲ稱スルモノナリ從ツテ
斯ル事項ハ現地ニ於ケル作戰用兵ノ如ク敵ノ動靜ニ應ジ機宜ニ處シテ刻々ニ變更スルカ如キ事項トハ
異リ相當長期ニ互リテ不動ノモノナルヲ以テ斯ル事項ノ秘匿ハ其ノ事項ノ性質上文書ニ表ハシ之ヲ秘

匿セラルヘキモノト謂ハサルヘカラス然ルニ本件編制表ノ作成ハ一モ斯ル軍ノ機密書類ニ觸ルルコ
トナク既ニ公刊セラレタル出版物ヲ基礎資料トシ之ニ一個人ノ想像ヲ加味シテ獨創シタルモノナリ
果シテ然ラハ軍機保護法上所謂軍事上ノ秘密事項ナリト斷定シ得サルヘシ三、軍事上ノ秘密事項ハ客
觀的ニ既ニ決定セル事項ニシテ陸軍大臣ト雖モ之ヲ左右シ得ルモノニ非ス況ンヤ被告人ヤ證人カ客觀
的ノ信否ニ依ツテ軍事上ノ秘密事項タルト否トヲ左右シ得ルモノニ非ス舊軍機保護法ニ於テハ軍事上
ノ秘密事項及圖書物件ニ關シテハ前掲陸軍第二號存スルノミニシテ其ノ種類範圍ヲ定メサリシ爲部外
者ハ之ヲ知ルニ由ナク嚴罰ヲ以テ臨ム軍機保護法ニ對シ異常ナル警戒心ヲ生セシムルト共ニ反面不用
意ノ間ニ罪ヲ犯ス者又ハ不知ニシテ軍事上ノ秘密ヲ探知收集シ或ハ漏洩スル者アルト共ニ之カ檢舉取
締ノ局ニ當ル者モ的確ナル判斷ノ標準ヲ缺キ實行ニ多大ノ困難ヲ感スル所アリタリ從ツテ新法ハ斯ル
無要ノ警戒心ヲ去ラシメ軍民一致ノ實ヲ舉ケ且不用意又ハ不知ニシテ犯ス者ヲ鮮カラシムルト共ニ檢
舉取締ヲ的確易ナラシメ以テ吞舟ノ魚ヲ逸シ却テ輕キ無辜ヲ泣カシムルコト無キヲ期スル爲軍事上
秘密ニ屬スル事項及圖書物件ノ種類範圍ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ命令ヲ以テ規定セシムルコトト爲
セリ(新軍機保護法第一條第二項)然レトモ軍機保護法第一條第二項ノ規定ハ他ノ委任命令ノ如ク主
務大臣ノ自由裁量ニ依リ其ノ種類範圍ヲ定ムル所謂創設的ノモノニ非ス換言スレハ陸軍大臣又ハ海軍
大臣カ省令ヲ以テ定ムルコトニ依リ初メテ軍事上ノ秘密ト爲ルモノニ非スシテ本來存スル軍事上ノ秘

密事項又ハ圖書物件ノ種類範圍ヲ只明示スルニ過キス蓋シ軍ニ於ケル秘密ヲ分テテ二ト爲スコトヲ得
 一ハ統帥ノ範疇ニ屬スル秘密ニシテ一ハ軍政ノ範疇ニ屬スル秘密ナリ統帥ノ範疇ニ屬スル秘密トハ統
 帥事項及統帥ニ密接ナル關係アル秘密ニシテ軍政ニ關スル秘密トハ統帥ニ密接ナル關係アル事項ヲ除
 キタル軍政事項ニ關スル秘密ナリ軍機保護法上所謂軍事上ノ秘密トハ統帥ノ範疇ニ屬スル秘密ヲ指稱
 スルモノナルコトハ「軍事上」ノ例示ニ徴スルモ明ナリ統帥作用及統帥ニ密接ナル關係アル作用カ秘
 密タルハ本質的ニ秘密タルノ性質ヲ帶フルニ依ル換言スレハ軍事上ノ秘密ハ統帥作用及統帥ニ密接ナ
 ル關係アル作用ノ屬性ナリト謂ヒ得ヘシ蓋シ統帥作用ノ目的ハ戰勝ニ在リ戰勝ノ爲ニハ彼ヲ知ルト共
 ニ己ヲ知リ且彼ヲシテ己ヲ知ラシメサルコトヲ最モ必要トス從ツテ己ヲ秘スルコトハ統帥作用ノ本質
 上然ルモノニシテ統帥作用ヲ暴露スルコトハ統帥作用ノ否定ナリト謂ハサルヘカラス故ニ軍事上ノ秘
 密ハ統帥作用本來ノ性質上然ルモノニシテ陸軍大臣又ハ海軍大臣カ省令ニ規定スルカ故ニ軍事上ノ秘
 密ト爲ルモノニ非ス即チ省令ノ規定ハ軍事上ノ秘密タルモノノ種類範圍ヲ只明示スルニ過キス(日高
 己雄氏著軍機保護法)斯ル既定ノ事實ヲ示スニ省令ヲ以テスル所以ノモノハ其ノ事實ヲ最モ良ク知ル
 者ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ヲ指テ他ニ無ク且軍事上ノ秘密ハ統帥ノ範疇ニ屬スル秘密ナルカ故ニ其ノ
 種類範圍ヲ法律勅令ヲ以テ規定スルトセハ勢ヒ統帥作用ノ内容ニ論及スルニ至ルヘク其ノ種類範圍ヲ
 論スルトキハ之ヲ知ル者ノ數ヲ増スノ結果ヲ招來スルカ故ナリ如斯軍事上ノ秘密事項ハ客觀的ニ既ニ

決定セル事實ニシテ此ノコトハ新舊何レノ軍機保護法ニ依ルモ同一ナリ然ルニ原審判決ハ被告人ノ原
 審公廷ニ於ケル原審判決ノ判示理由同旨ノ供述及證人松下芳男ノ豫審判事ニ對スル昭和十二年十二月
 二十七日ノ訊問調書ノ供述記載ヲ採證シ以テ有罪ナル旨認定シタリ然レトモ軍事上ノ秘密事項ハ客觀
 的ニ既ニ決定セルモノニシテ其ノ種類範圍ノ決定ヲ委ネラレタル陸軍大臣又ハ海軍大臣ト雖モ自由裁
 量ニ依リテ創設的ニ決定シ得ルモノニ非サルコトハ前述ノ如シ況ンヤ本件編制表ハ前述ノ如ク既ニ公
 刊サレ一般人ノ閱覽シ得ヘキ出版物ヲ基礎資料トシ假令軍人タリシコトアリトハ謂ヘ滿十七年前ノ而
 モ下級將校タリシ者ノ一個人ノ想像ヲ加味シテ獨創セルモノニシテ全ク軍ニ現在スル秘密ニ直接ニモ
 間接ニモ一指モ漏レサルモノナル以上被告人又ハ證人松下芳男カ主觀的ニ本件編制表中ノ記載事項カ
 軍事上ノ秘密事項ナリト信シタレハトテ其ノ主觀ノ信否ニ依リ軍事上ノ秘密事項タルト否トヲ左右ス
 キヘモノニ非ス殊ニ本件編制表ノ記載事項カ果シテ軍事上ノ秘密事項ナリヤ否ヤニ付唯一ノ基礎的準
 據ヲ爲ストモ謂フヘキモノニシテ原審判決カ採證シタル證人岩野豪雄カ昭和十二年十二月二十七日豫
 審判事ニ對スル「昭和十二年押第一〇〇五號ノ一ノ一及二ノ松下芳男名義被告人宛ノ書面及之ニ附シ
 アル別表ニ記載ノ事項中日本陸軍部隊ノ戰時編制並ニ人員ニ關スル事項ハ軍機保護法改正ノ前後ヲ通
 シテ軍事上ノ秘密事項ニ屬ス尤モ其ノ中陸軍カ軍隊ノ教育並ニ國民ノ軍事思想普及等ノ爲必要ト認メ
 或程度ノ部隊編制ハ之ヲ公表シ居リ其ノ範圍内ニ於テハ秘密事項ニ屬セストハ解釋ヲ採リ居タルヲ以

テ此ノ標準ノ下ニ松下方男名義被告人宛ノ前述ノ書面及之ニ附シアル別表ノ戰時編制ニ關スル記載事項ヲ見ルニ大體ニ於テ單位内ノ部隊數ハ既ニ公表サレ秘密事項ニ屬セサルモ兵器及其ノ人數ノ如キ裝備設ニ人馬數ニ關スルコトハ絕對ニ公表セラレタルコトナク斯ル事項ハ總テ秘密事項ニ屬スルモノニシテ陸軍ニテハ一般ニ部隊ノ編制トハ單位即旅團トカ聯隊トカ言フ如キモノト其ノ裝備及人馬數ヲ一括シタルモノヲ指稱スル」旨ノ供述記載(記錄第三三〇丁以下第三三六丁)ハ採リテ以テ斷罪ノ資料ト爲スニハ全ク無價値ノモノナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ一通リ形式ヲ備ヘタル陸軍ノ戰時編制表ヲ示シ此ノ記載中何レカノ部分ニ於テ軍事上ノ秘密事項アリヤト問ヘハ升ハ裝備及人馬數ノ記載ナリト答フルハ當然ノ理數ナリ然レトモ軍機保護法上處罰ニ價スヘキ軍事上ノ秘密事項トハ斯ル形式上ノモノヲ指稱スルモノニ非スシテ實質的ニ軍事上ノ秘密事項ニ觸レタルモノヲ指稱スルモノナリ從ツテ前掲記ノ證人岩畔豪雄ニ對シテハ更ニ進ンテ本件編制表成立ノ事情ヲ説キ即チ此ノ編制表ハ松下方男カ既ニ公刊サレ一般人ノ閱覽ニ供サレタル出版物ヲ基礎トシ之ニ松下方男ノ智識經驗ニ依リ想像シタルモノヲ加味シテ表ニ作成シタルモノナルモ斯ル場合ニ於テモ軍機保護法上軍事上ノ秘密事項ナリト指稱シ得ルモノヲ訊問ヲ爲シ之ニ對シテ然リノ答ヲ得タル旨ノ供述記載アラハ格別然ラサルニ於テ證人岩畔ノ供述ハ最重要ナル前提ヲ忘レタル答ナルヲ以テ之ヲ斷罪ノ資料ニ供スルコトハ結局論理ノ飛躍ヲ試ミタルコトニ歸シ探證ノ法則ヲ誤リ全ク事實ヲ誤認シタルモノナリト斷シ得ヘシ更ニ證人

岩畔ノ前記供述記載中ニハ「昭和十二年押第一〇〇五號ノ一ノ一及二ノ書面ニ記載シアル戰時編制ニ關スル事項ハ大體ニ於テ概念上現行ノモノト同シナルモ只數ノ内ニハ作成者ノ無理解カ忘却ノ爲多少現行ノモノト相違セル」旨ノ供述記載アリ此ノ證言ヲ分析シテ其ノ意義ヲ釋明シ且他ノ證言ト綜合シテ見ルトキハ證人岩畔ノ供述記載カ斷罪ノ資料トシテ如何ニ無價値ナルカヲ諒解シ得ラルヘシ此ノ證言中「多少現行ノモノト違フ」旨ノ一句ハ極メテ曖昧ナルモノニシテ二様ノ意義ニ解スルコトヲ得即チ(一)ハ此ノ編制表ノ各小隊ノ個々ニ付キ見ルトキハ其ノ數カ何レモ少シツツ相違セル場合ナリ(二)ハ此ノ編制表ヲ全體カラ見テ其ノ一部分即チ騎兵ノ部トカ又ハ歩兵ノ部トカノ一又ハ二小隊ノ數カ少シツツ相違セル場合ナリ若シ(一)ノ意ニ解シ一小隊毎ニ多少相違スルモノトセハ各小隊全部ニ互リテ相違アルヲ以テ表全體ヨリ見レハ全部相違スル結果トナルヘシ然ラハ此ノ二ツヲ何レノ意ニ解スルカニ依リ結果ニ於テハ極メテ重大ナル差異ヲ生スルコトヲ知ル然ラハ之ヲ何レノ意ニ解スヘキカハ證人岩畔ノ供述記載中「大體ニ於テ概念上同シナル」旨設ニ「無理解カ又ハ忘却ノ爲多少現行ノモノト相違セル」旨ノ二句ニ付テ吟味セサルヘカラス「大體」ト謂ヒ「概念」ト謂フ語ハ「あらま

し」ト謂フ意味ヲ有シ「無理解」トハ全ク理解ナキコトヲ意味シ「忘却」トハ全ク忘レタリトノコトヲ意味スル語ニシテ單ニ理解ナシトカ又ハ忘レタリトカ謂フコトニ非ス全ク冠スル程ノ強キ意味ヲ有ス從ツテ無理解カ忘却ノ爲數ニ於テ大部分相違セリト言ヘハ其ノ意通スルモ無理解カ忘却ノ爲少シ

相違スルモ「あらずし」同シナリトハ意義通セサル矛盾セル語ナリト謂ハサルヘカラス然ラハ證人岩
 畔ノ「多少相違セル」旨ノ供述記載ハ前記(一)ノ意ニ解スヘク本件編制表ノ記載事項中「裝備及人
 馬數カ軍事上ノ秘密事項ナル」旨ノ供述記載ハ外觀上形式上又ハ概念上ノモノニシテ實質上ノモノ換
 言スレハ軍機保護法上處罰ニ價スヘキ軍事上ノ秘密事項ニ非スト斷スルヲ得ヘシ畢竟スルニ證人岩畔
 ノ供述記載ハ本件編制表ノ記載事項ハ軍事上ノ秘密ニ屬スト證言セルモ結果ニ於テハ本件編制表ノ記
 載事項ハ軍機保護法上ノ所謂軍事上ノ秘密事項ニ屬セスト證言セルニ歸ス蓋シ前述ノ如ク軍事上ノ秘
 密事項ハ客觀的ニ既ニ決定セルモノナルヲ以テ本件編制表カ前記繰述ノ如ク軍機保護法上所謂軍事上
 ノ秘密ニ値セサルモノナルト共ニ前記供述記載ニ於テ或ハ前提ヲ忘レ或ハ矛盾撞著アル以上之カ軍事
 上ノ秘密ニ屬ストハ證人岩畔ノ大體トカ概念上トカノ曖昧ナル主觀ニ基ク獨斷ニシテ到底斷罪ノ資
 料ニ供スルニ足ルヘキ價値アル供述トハ謂ヒ難シ從ツテ此ノ點ヨリ見ルニ原審判決ハ探證ノ法則ヲ誤
 リ事實ヲ不當ニ認定シタルモノト謂ハサルヘカラス四、或ハ謂ハシテ松下芳男ハ嘗テ軍籍ニ在リテ軍事
 上ノ秘密ヲ知得シタリ本件編制表ハ既ニ公刊サレタル出版物ヲ基礎資料トシテ作成サレタルモノナリ
 トハ謂ヘ共ノ表中ニハ松下ノ智識經驗ヲ加味シ得タルヲ以テ此ノ點ニ於テ軍事上ノ秘密ニ觸レタリト
 然レトモ軍事上ノ秘密ハ科學ノ進歩ト戦法ノ變遷ニ伴ヒ變化スルモノニシテ一定不變ノモノトハ謂ヒ
 難ク今日ノ秘密ハ必スシモ明日ノ秘密ニ非ス松下ハ嘗テ軍籍ニ在リタリトハ謂ヘ共ノ地位ハ陸軍歩兵

中尉ノ下級將校ニシテ而モ滿十七年前ニ現役ヲ退キタルモノナリ軍ノ編制ノ如キハ相當期間ニ互リ變
 化ナキモノトハ謂ヘ十年一昔ノ例ノ如ク十七年前ノ智識經驗ハ假令軍ニ直接在籍シテ得タルモノナリ
 トスルモ歐洲戰爭ヲ契機トシテ著シキ進歩發達ヲ遂ケタル今日ノ戰略竝ニ組織トハ到底比スヘクモナ
 キ運庭アリ若シモ之ニ重點ヲ置キ本件ノ處斷ニ及ヒタリトセハ開ハ三百代言式立論ニシテ乘強附會モ
 甚シト謂ハサルヘカラスト謂ヒ「第二點原審判決ハ判斷遺脱カ又ハ理由不備ノ違法アリ本件編制表中
 單位内ノ部隊數ハ既ニ公表セラレタルモノニシテ軍事上ノ秘密ニ屬セサルモ兵器及其ノ數ノ如キ裝備
 及人馬數ニ關スル記載事項ハ未タ公表サレタルコトナク軍事上ノ秘密事項ニ屬ス(岩畔供述前掲參
 照)本件編制表記載事項ハ第一點繰述ノ如ク軍機保護法上軍事上ノ秘密事項ト稱シ得サルモ假ニ百步
 譲リテ軍事上ノ秘密事項ナリトスルモ被告人ハ斯ル事項ヲ能動的ニ「探知」シタルモノニ非ス靜止的
 ニ即チ偶然知得シタルモノナリ蓋シ被告人カ松下芳男ニ教示ヲ求メタルハ原審判決理由摘示ノ如ク帝
 國陸軍ノ平戰兩時ニ於ケル編制等ノ大略ニシテ本件編制表記載ノ如キ詳細ナルモノニ非ス(松下供述
 記錄第三二〇丁石丸供述記錄第二二四丁第二三九八丁)然ルニ松下カ被告人ニ郵送シ來リタ
 ルモノハ被告人ノ求メタル範圍ヲ遙カニ越エタル詳細ノモノナリシヲ以テ被告人ハ求メスシテ偶然斯
 ル事項ヲ知得シタルモノナリ(被告人供述記錄第二二五丁第三九八丁松下供述記錄第三二〇丁)之ヲ
 要言スレハ被告カ松下ニ求メタル範圍ニ於テハ軍機保護法上軍事上ノ秘密ニ觸ルル程度ニ至ラザリシ

モ個々松下ノ報告詳細ナリシ爲故意ナクシテ軍事上ノ秘密事項ヲ知得シタルモノト謂フヘキナリ從ツ
テ斯ル軍事上ノ秘密事項ノ知得ハ舊軍機保護法第三條所定ノ如ク他人ニ傳説セサル限り罪ト爲ラス然
ラハ如斯記録上明白ナル前掲示ノ事實アルニ對シ原審判決ノ如ク舊軍機保護法第一條ヲ適用スルニハ
被告人カ軍事上ノ秘密ヲ知リタル事情ハ偶然ナルカ如キモ實ハ斯々ノ理由アルヲ以テ故意ヲ缺クトハ
謂ヒ難ク畢竟探知ニ歸スルカ故ニ舊軍機保護法第一條ヲ適用ストノ理由ノ判示ヲ爲ササルヘカラス面
モ當辯護人ハ第一點竝ニ原審ニ於テ辯論中ニモ主張シ居ル所ナレハナリ(當辯護人提出ノ辯論要綱及
上申書)然ルニ原審判決ハ事茲ニ出テスシテ漫然舊軍機保護法ヲ適用シタルハ判斷遺脱又ハ理由不備
ノ違法アルモノト謂フニ在リ

按ズルニ原判決舉示ノ證據ヲ綜合スレバ被告人カ軍事上ノ秘密ノ事項タルコトヲ知リナガラ之ヲ探知シ
タル原判示事實ヲ優ニ認定スルニ足リ記録竝押收物件ニ就キ精査檢討スルモ原判決ノ右事實認定ニ重
大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルベキ顯著ナル事由アルヲ見ズ而シテ帝國陸軍部隊ノ戰時編制殊ニ其
ノ裝備竝人馬數等ニ關スル事項ノ如キハ新舊孰レノ軍機保護法ニ於テモ所謂軍事上ノ秘密ノ事項ニ屬ス
ルコト疑フ容レズ押收ニ係ル陸軍戰時編制表竝關係手紙中ニ記載ノ事項ハ右ニ該當シ而カモ原判決援
用ノ證據ニ依リ明カナル如ク實際ノモノト多少異ナル點アルモ大體ニ於テ之ト符合シ居ルモノナルヲ
以テ所謂軍事上ノ秘密ノ事項ニ屬スルモノト謂ハザルヲ得ズ是レ蓋シ軍機保護法ノ法意ニ照シ明カナリ

【要旨】

トス尤モ戰時編制等ニ關スル事項ト雖既ニ公表サレタルモノニ付テハ軍事上ノ秘密ノ事項ト稱シ得ザル
コト言フ俟タザル所ナルモ原判示ノ戰時裝備及人馬數等ニ關スル事項ノ如キハ未ダ公表ノ事實ナキコ
ト原判決援用ノ證據ニ徴シ疑ナキ所ナリト然リ而シテ原判示ノ如ク被告人ハ軍事小説ノ準備資料ト
シテ帝國陸軍ノ戰時ニ於ケル部隊ノ編制等ニ關シ其ノ大略ノ智識ヲ獲得セント欲シ帝國陸軍ノ戰時編
制カ軍事上ノ秘密ニ屬スルコトヲ知リナガラ豫備陸軍歩兵中尉松下芳男ニ對シ日本陸軍ノ平戰兩時ニ
於ケル一個師團ノ人員竝編制ニ付其ノ概要ヲ教示セラレタキ旨ヲ記載シタル依頼狀ヲ作成シテ之ヲ同
人ニ郵送シタル以上特ニ詳細ノ回答ヲ欲セザル旨ノ意思表示ナキ限り該書狀ノ受領者タル松下芳男ガ
之ニ應ジ日本陸軍部隊ノ平戰兩時ニ於ケル編制竝裝備ニ付相當詳細ニ記載シタル書面(昭和十二年押
第一〇〇五號ノ一ノ一及二)ヲ被告人方ニ郵送シタリトスルモ毫モ被告人ノ依頼ノ趣旨ニ背クモノト
ハ謂ヒ難ク畢竟斯ル書面ノ被告人方ニ來リシハ其ノ作爲ニ基クモノニシテ被告人ノ所爲ハ所謂軍事上
ノ秘密事項ヲ探知シタルモノニ該當スルモノトス左レバ原判決ハ毫モ擬律ノ錯誤ナキハ勿論所論ノ如キ
違法一モ存在セズ論旨孰レモ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事村上常太郎關與

○再審請求棄却決定ニ對スル抗告事件(昭和十四年(一)第五號
同年五月十六日第三刑事部決定 棄却)

【被告人】 再審請求人 中島長兵衛 外二名

【原 審】 横濱地方裁判所

○判 示 事 項

供與者ト被供與者トノ罪責ニ付相異レル裁判ト再審原因

○決 定 要 旨

供與者ト被供與者ニ對スル罪責力相異レル裁判アリタル場合ニ於テ有罪事件ノ證據材料中自己ノ有罪事件ノ證據材料タラサリシモノニシテ且自己カ無罪ノ言渡ヲ受クルニ足ル明確ナル證據ヲ發見

供與者ト被供與者トノ罪責ニ付相異レル裁判ト再審原因

シタルニ於テハ之ニ基キ再審ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

【参照】 刑事訴訟法第四百八十五條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シ

タル確定判決ニ對シテ其ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得

(中略)

六 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪若ハ免訴ヲ言渡シ、刑ノ言渡ヲ受ケタル

者ニ對シテ刑ノ免除ヲ言渡シ又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムハ

キ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

(以下省略)

○ 事 實

被告人等ハ衆議院議員選舉法違反被告事件ニ付昭和十一年十一月十四日横濱地方裁判所ニ於テ同年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ執レモ選舉人ナリシトコロ小島金之助ヨリ其ノ居村神奈川縣津久井郡串川村青山ニ於テ議員候補者胎中楠右衛門ノ爲(一) 被告人中島長兵衛ハ同年二月六、七日頃投票竝投票取纏ノ選舉運動方ヲ依頼セラレ其ノ費用報酬トシテ金十圓(二) 被告人原健造、齋藤盛征ノ兩名ハ同月十日頃投票方ヲ依頼セラレ其ノ報酬トシテ各金五圓宛ヲ夫レ夫レ供與セラレ其ノ趣旨ヲ諒シテ該供與ヲ受ケタリトノ事實ニ付處罰セラレ各上告ヲ爲シタルモ棄却セラレテ該判決ハ確定シタルカ前示小島金之助ハ右供與罪ニ付別件衆議院議員選舉法違反被告事件ニ付昭和十三年二月二十四日

東京控訴院ニ於テ執レモ犯罪事實ノ證明ナシトノ理由ニ依リ無罪ノ判決アリ該判決ハ確定セルヲ以テ被告人等ハ刑事訴訟法第四百八十五條第六號ニ該當スル事由アリト爲シ横濱地方裁判所ニ再審ノ請求ヲ爲シタルニ同裁判所ニ於テ棄却ノ決定ヲ受ケタルニ因リ當院ニ抗告ヲ爲シタリ

○ 主 文

本件抗告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○ 理 由

被告人等ノ本件抗告理由ノ要旨ハ數人ノ被告人カ關與スル事件ニシテ裁判ノ結果ハ合一ニ確定スヘキ性質ノ事案ニ付キ訴訟手續カ當初ヨリ分離サレ二件トシテ審理ヲ受ケタル爲メ一ハ犯罪事實ノ證明アリト認定サレ有罪ノ判決ヲ受ケ確定セルモ其ノ後他ノ事件ニ於テハ犯罪事實ノ證明ナシトテ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ト雖モ之ノ兩判決カ各擔當判事ノ自由ナル判斷ニ基キ下サレタル以上共ニ形式上ニ於テ瑕疵ナク併立シ得ル事ハ論ナシサレト之ノ兩判決カ共ニ夫々真正ナル事實ヲ認定セル完全且ツ最良ノ判決ニ非サルコトモ亦否定シ得サル處ニシテ其ノ一ニハ必ス誤判アルコトハ疑フ餘地ナキトコロトスサレハ被告人等ニ對スル有罪判決及右判決確定後ニ言渡サレタル小島金之助ニ對スル東京控訴院ノ無罪判決ハ其ノ何レカカ正シク他ノ一方ノ誤判ナルコト極メテ明カナリ而シテ被告人等ノ有罪判決確定後ニ言渡サレタル小島金之助ノ無罪判決ノ謬本ハ被告人等ノ有罪判決ニ掲ケタル事實ノ誤認カ否

供與者ト被供與者トノ罪責ニ付相異レテ裁判ト再審原因

カニ對スル有力ナル新證據タルヲ失ハス只右被告人等ヲシテ無罪タラシムヘキ程ノ明確ナル證據ナル
 ヤ否ヤカ本件再審ノ運命ヲ左右スルノミ之ヲ決センカ爲メニハ實質的ニ兩事件ノ判決ヲ調査ノ上再審
 許否ヲ斷スヘク只單ニ兩判決共ニ判事ノ自由ナル判斷ニ基キタルモノ故後ノ無罪ノ判決ハ前ノ有罪判
 決ヲ覆ス新證據タラスト爲スカ如キ抽象論ヲ以テ排斥シ去ルノ不法ナルコト論ヲ俟タス而シテ後ノ無
 罪判決ト雖モ實質的ニ證據ト爲ラサルトキハ其ノ理由ヲ以テ堂々排斥スヘク又實質的明白ナル證據ト
 ナシ得ヘキ場合ハ原判決ニ拘泥スルコトナク眞實ノ發見ニ向ツテ再審スヘキモノト確信ス然ルニ原判
 決ハ事件ノ本體ニ觸レズ形式論ヲ試ミテ再審請求ヲ拒否セルハ審理ヲ盡ササル裁判ナリト信ス尙ホ刑
 事訴訟法第四百八十五條第六號ニ所謂明確ナル新證據ノ性質種類ニ關シテハ何等制限ヲ附セサルヲ以
 テ(御院大正十三年九月六日決定刑事判決集第三卷六六頁)別事件ノ判決ト雖モ證據タリ得ルモノ
 ナリ然ルニ原審ハ被告人カ提出セル小島金之助ニ對スル無罪判決本ニ對シ其ノ内容ヲ審査スルコト
 ナク刑事訴訟法第四百八十五條第六號ノ場合ニ該當セスト判斷セルハ右證據ノ趣旨ヲ誤解シタルモノ
 ニシテ不法ノ裁判ナリ新證據ニ該當スル限リ實質ニ付判斷ヲ爲シ該證據カ採用ニ値スルヤ否ヤヲ決ス
 ヘキモノト信スト云フニ在リ

案スルニ記録第十丁乃至第十八丁添綴判決書謄本ニ依レハ被告人等ハ衆議院議員選舉法違反事件ニ付
 昭和十一年十一月十日控訴審タル横濱地方裁判所ニ於テ原決定書記載ノ如キ選舉法違反ノ事實ヲ認定

セラレ被告人中島長兵衛ヲ罰金百二十圓同原健造、齋藤盛征兩名ヲ各罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納
 スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人中島長兵
 衛ヨリ金十圓同原健造及齋藤盛征ヨリ各金五圓ヲ追徴ス訴訟費用ハ原健造ノ負擔トスヘキ旨ノ有罪判
 決ヲ受ケ之ニ對シ各被告人等ヨリ上告ヲ爲シタルモ孰レモ之ヲ棄却セラレ該判決カ確定シタルコト並
 控訴審ノ爲シタル有罪判決ハ小島金之助ニ對スル檢事ノ聽取書中ノ供述記載及被告人等ニ對スル檢事
 ノ各聽取書中ノ記載ヲ證據トシテ引用シタルコトヲ認メ得ヘク又記録第十九丁乃至第四十四丁添綴ノ
 判決書謄本ニ依レハ被告人等ニ本件金錢ノ供與ヲ爲シタリト云フ小島金之助カ昭和十三年二月二十四
 日東京控訴院ニ於テ右ノ供述ヲ爲シタリトノ公訴事實(該判決中原健治トアルハ原健造ノ誤記ト認ム)
 ニ付犯罪ノ證明ナシトシテ無罪ノ判決ヲ受ケタルコトヲ認メ得ヘク右判決ノ確定シタルコトモ記録上
 明ナルヲ以テ以上二箇ノ判決ハ同一ノ事實ニ付一ハ供與ヲ受ケタル者ニ付犯罪ノ證明アリトスルニ反
 シ一ハ供與ヲ爲シタル者ニ付犯罪ノ證明ナシトスルモノナルコト所論ノ如ク而カモ各判決ノ趣旨ニ見
 ルニ一ハ證據ニ依リテ右供與ノ事實ヲ認ムヘシトナスニ對シ一ハ其ノ事實ヲ認ムヘキ證據ナシトスル
 モノナルコトヲ知り得ルカ故ニ右兩判決ハ事實ノ認定ニ付互ニ相容レサル見解ニ立ツモノト謂フヘク
 從テ其ノ事實認定ニ付テハ其ノ何レカカ正シク何レカカ誤ナルコトヲ認メサルヲ得ス然レトモ果シテ
 其ノ何レカ正シキヤハ妄リニ判斷ヲ許ササルコトニ屬ス蓋シ右判決ハ何レモ其ノ裁判所カ適法ノ手續

ニ則リ其ノ事件ニ付言渡シタルトコロノモノニシテ其ノ確定シタル以上其ノ價値ニ於テ徑庭アルコトナク偶々一ノ判決カ他ノ判決ヨリ後レテ確定シタレハトテ前ノ判決ノ判斷ヲ誤ナリト論斷スヘキニアラサルト共ニ一カ上級審ニ於テ確定シタレハトテ其ノ判決カ下級審ニ於テ確定シタル判決ヨリモ其ノ判斷ニ於テ正鵠ヲ得タリト做スヘキ理アルコトナシ故ニ所論ノ如キ相容レサル判決ノ確定シタル一事ヲ以テ直ニ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪ヲ言渡スヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタリト做シ再審ノ申立ヲ爲スヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス然シナカラ等シク國家ノ言渡シタル二箇ノ確定判決カ其ノ内容ニ於テ矛盾シ其ノ何レカ誤レリト謂フカ如キコトハ絕對眞實ノ發見ヲ目標トスル刑事訴訟手續ニ於テハ極力避ケサルヘカラサルコトニ屬ス思フニ右兩箇ノ事件カ併合セラレテ同一裁判所ニヨリ同一ノ證據材料ニ基キ判斷セラレタリトセハ兩箇ノ判斷ノ間固ヨリ矛盾ノ生スヘキ筈ナシ若シ又兩箇ノ事件カ別箇ノ裁判所ニヨリ別々ニ判斷セラレタリトスレハ其ノ判斷ノ資料タル證據材料ハ自ラ相異ナレリト謂フヘク斯ル場合其ノ判斷ニシテ異ナレリトセハソハ證據材料ノ異ナレルニ因ルコトアルヘク或ハ又同一ノ證據材料ニ付之カ證明力ニ對スル判斷ノ價值判斷ノ異ナレルニ因ルコトアルヘシ此ノ後者ノ場合ニ於テハ判斷ノ相違ハ之カ當否ヲ判斷スルニ由ナク再審ヲ求ムヘキ理由アルコトナクレハ其ノ處置ハ結局裁判手續以外ノ方法(例ヘハ恩赦ノ如キ)ニ俟タサルヘカラスト雖前者ノ場合即チ判斷カ各別ノ證據材料ニ基ケル爲ニ相違ヲ生シタル場合ニ於テハ若シ一ノ判斷ヲ爲スニ付他ノ判斷

【要旨】

ノ資料ヲ參酌シタランニハ其ノ判斷ヲ異ニシタルナルヘシト認メラルルコトアルヘキカ故ニ斯ノ如キ場合ニ於テ有罪ノ確定判決ヲ受ケタル者カ之ト相容レサル確定判決アリタルヲ知其ノ事件ノ證據材料ヲ檢シ其ノ中ニ就キ自己ニ對スル事件ノ證據材料タラサリシモノニシテ且自己カ無罪ノ言渡ヲ受ケルニ足ル明確ナル證據ヲ發見シタリトスルニ於テハ之ニ基キ再審ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス本件ニ於テ抗告人ハ東京控訴院ノ爲シタル前記確定判決ヲ指シ抗告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見セリト主張シ本件再審ノ申立ヲ爲スト雖右確定判決カ斯ル證據ト認ムヘカラサルコト以上説明セルトコロニ依リ明ナルヲ以テ右ニ説明セルカ如キ新ナル證據材料ヲ提出スルニ於テハ格別然ラスシテ單ニ該判決書ノミヲ以テシテハ直ニ以テ刑事訴訟法第四百八十五條第六號ニ所謂有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ無罪ヲ言渡スヘキ明確ナル證據ナリト爲スヲ得ス右ニ反スル抗告人等ノ見解ハ妥當ナラス其ノ他再審ノ理由アルコトヲ認メ得サルカ故ニ本件請求ハ其ノ理由ナク之ヲ棄却スヘキモノトス然ラハ右ト同趣旨ニ出テタル原決定ハ正當ニシテ抗告ハ理由ナキモノトス仍テ刑事訴訟法第四百六十六條第一項ニ則リ主文ノ如ク決定ス

檢事村上常太郎關與

○背任詐欺有價證券虛偽記入行使並業務上横領被告事件

(昭和十四年(九)第二四一號
同年五月二十四日第一刑事部判決 破毀差戻)

【上告人】 被告人 佐藤善三郎 辯護人 (四方田保
外一名)

【第一審】 高松地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

刑事訴訟法第三百三十四條ニ依ル發問ト事實ノ審理

○判決要旨

刑事訴訟法第三百三十四條ニ依ル問ヲ發シタレハトテ事實ノ審理ヲ
爲シタルモノト謂フヲ得ス

【參照】 刑事訴訟法第三百三十四條 被告人ニ對シテハ被告事件ヲ告ケ其ノ事件ニ付陳

述スヘキコトアリヤ否ヤヲ問フヘシ

同法第三百四十五條 裁判長被告人ニ對シ第三百三十三條ノ訊問ヲ爲シタル後檢事ハ

被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシ

前項ノ陳述終リタルトキハ被告人訊問及證據調ヲ爲スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人善三郎ヲ懲役三年ニ被告人米次ヲ懲役二年
ニ處ス第一審未決勾留日數中被告人兩名ニ對シ各六十日ヲ右本刑ニ算入ス(其ノ他省略)ル旨ノ判決
ヲ爲シタリ

被告人井上米次ハ昭和五年二月香川縣香川郡川岡村大字川部五百三十二番地ノ二保證責任川岡村信用購買販賣利用組
合(同組合ハ元有限責任ナリシモ昭和九年四月七日保證責任ニ其ノ組織ヲ變更シタリ以下川岡組合ト略記ス)理事ト
ナリ同年二月十七日ヨリ専務理事ニ就任シ引續キ同組合ノ業務ヲ掌理シ同組合長理事稻本元三郎名義ヲ以テ金錢ノ
貸付農業倉庫業務法ニヨル受託米麥ノ出納保管及農業倉庫證券ノ發行等一切ノ權限ヲ有シ被告人間島政市ハ昭和七年
十一月ヨリ川岡組合ニ雇ハレ同組合倉庫係書記トシテ被告人米次ノ命ニヨリ受託米麥ノ出納保管倉庫證券ノ作成等ノ
業務ニ從事シ來リ被告人佐藤善三郎ハ昭和八年五月頃ヨリ同村大字川部五百二十七番地ノ店舖ニ於テ米穀仲買業自動
車運輸業ヲ營ミ被告人森秀夫ハ昭和八年七月ヨリ被告人善三郎ニ外交係トシテ雇ハレ居リタルモノナルトコト被告人
佐藤善三郎ハ昭和十年七月頃ヨリ米麥相場ノ暴落等ノ爲營業上巨額ノ損失ヲ蒙リ之カ金策ニ焦慮シタル結果被告人米
次政市又ハ秀夫等ト相謀リ共ニ前示川岡組合ノ信用ヲ背景トシテ之ヲ濫用シテ被告人善三郎ノ窮境ヲ打開センコトヲ
企テ

(中略)

第三 被告人井上米次同間島政市同佐藤善三郎ノ三名ハ共謀ノ上川岡組合名義ノ虚偽ノ倉荷證券ヲ作成シ之ヲ被告人善三郎ノ金庫ニ使用センコトヲ企テ行使ノ目的ヲ以テ被告人米次同政市ニ於テ昭和十一年十二月十一日頃ヨリ昭和十二年十月二十六日迄ノ間別表甲一乙一記載ノ各作成日頃右川岡組合事務所ニ於テ同組合カ同表記載ノ各寄託者ヨリ現實ニ米又ハ麥ノ寄託ヲ受ケサルニ拘ラス同表記載ノ作成日附ヲ以テ同表記載ノ如ク米又ハ麥ノ寄託ヲ受ケ之ヲ保管セル旨虚偽ノ事項ヲ記入シタル川岡組合理事稻本元三郎名義ノ倉庫證券三十六通ヲ作成シ以テ有價證券ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタル上

(中略)

乙(ト) 兼ニ被告人善三郎ヨリ川岡組合名義ヲ以テ保證責任香川縣信用購買販賣利用組合聯合會(以下聯合會ト略記ス)ニ對シ賣渡シアリタル小麥ノ引渡ヲ爲スニ當リ被告人間島政市ニ於テ高松市北濱町同聯合會事務所ニ到リ同所ニ於テ

一 昭和十二年九月九日之カ履行トシテ別表乙一(四七)ノ虚偽ノ倉荷證券一通ヲ同聯合會理事松本千歳ニ交付シテ之ヲ行使シ同人ヲシテ恰モ眞正ナル倉荷證券ノ交付ヲ受ケタルモノノ如ク誤信セシメ因テ同人ヲシテ小麥千依ノ代金八千三百四十三圓五十錢ノ内金三千二百六圓四十七錢ヲ被告人政市ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ殘金五千三百三十七圓三錢ヲ被告人善三郎ノ指圖ニヨリ同聯合會ニ於ケル川岡組合名義ノ當座預金口座ニ振替シメ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得

二 同年九月十五日同表(四九)ノ虚偽ノ倉荷證券一通ヲ同聯合會理事松本千歳ニ交付シテ之ヲ行使シ同人ヲシテ前同様誤信セシメ因テ同人ヲシテ小麥二千依ノ代金一萬七千五百四十四圓ヲ被告人政市ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(チ) 被告人間島政市ニ於テ昭和十二年十月二十六日川岡組合事務所ニ於テ別表甲一(六六)乃至(六八)記載ノ虚偽ノ倉荷證券三通ヲ一括シテ前記上笠居組合書記泉保起美ニ交付シテ之ヲ行使シ(以上同決定第四)

(中略)

タルモノニシテ叙上所爲中被告人善三郎ノ背任有價證券虚偽記入同行使及詐欺被告人米次ノ背任業務上横領有價證券虚偽記入同行使ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人兩名ノ背任ノ所爲ハ刑法第二百四十七條ニ被告人米次ノ業務上横領ノ所爲ハ同法第二百五十三條ニ被告人兩名ノ有價證券虚偽記入ノ所爲ハ同法第六十二條第二項同行使ノ所爲ハ同法第六十三條第一項ニ詐欺ノ所爲ハ同法第二百四十六條ニ各該當スルトコロ叙上所爲中各共謀ノ點ニ付テハ各同法第六十條ヲ適用シ以上ハ夫々連續犯ニ係カルヲ以テ同法第五十五條ニ從ヒ尙虚偽記入有價證券ノ一括行使ノ所爲ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又有價證券ノ虚偽記入同行使詐欺ノ間ニハ順次手段結果ノ關係アルカ故ニ同法第五十四條第一項第十條ヲ適用シ結局最モ重キ虚偽記入有價證券行使罪ノ刑ニ法廷ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人善三郎ヲ懲役三年ニ被告人米次ヲ同二年ニ處スヘク同法第二十一條ニ從ヒ主文掲記ノ如ク原案未決勾留日數ヲ夫々右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

本件ヲ大阪控訴院ニ差戻ス

○理 由

刑事訴訟法第三百三十四條ニ依リ發同ト事實ノ審理

被告人佐藤善三郎辯護人四方田保上告趣意書第七點ハ原判決ノ採用シタル第一審判決ハ其ノ第三事實トシテ「被告人井上米次同間島政市同佐藤善三郎ノ三名ハ共謀ノ上……乙(ト)曩ニ被告人善三郎ヨリ川岡組合名義ヲ以テ保證責任香川縣信用購買販賣利用組合聯合會ニ對シ賣渡シアリタル小麥ノ引渡ヲ爲スニ當リ被告人間島政市ニ於テ高松市北濱町聯合會事務所ニ到リ同所ニ於テ一、昭和十二年九月九日之カ履行トシテ別表乙一(四七)ノ虛偽ノ倉荷證券一通ヲ同聯合會理事松本千歳ニ交付シテ之ヲ行使シ同人ヲシテ恰モ真正ナル倉荷證券ヲ受ケタルモノノ如ク誤信セシメ因ツテ同人ヲシテ小麥千俵ノ代金八千三百四十三圓五十錢ノ内金三千二百六圓四十七錢ヲ被告人政市ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ殘金五千三百三十七圓三錢ヲ被告人善三郎ノ指圖ニヨリ同聯合會ニ於ケル川岡組合名義ノ當座預金口座ニ振替ヘシメ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得二、同年九月十五日同表(四九)ノ虛偽ノ倉荷證券一通ヲ同聯合會理事松本千歳ニ交付シテ之ヲ行使シ同人ヲシテ前同様誤信セシメ因ツテ同人ヲシテ小麥千俵ノ代金一萬七千五百四十四圓ヲ被告人政市ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ(チ)被告人間島政市ニ於テ昭和十二年十月二十六日川岡組合事務所ニ於テ別表甲一(六六)乃至(六八)ノ虛偽ノ倉荷證券三通ヲ一括シテ前記上笠居組合書記泉保起美ニ交付シテ之ヲ行使シ」(以上同決定第四)ト認定シ被告人善三郎ヲ虛偽有價證券行使詐欺罪ニ問擬シタリ然ルニ原院公判調書中被告人善三郎ニ對スル訊問供述ノ部ニハ「問、此ノ證券ハ被告人ノ手ヲ行使シタノカ答、左様雇人テアル原審相被告人森秀夫ヤ其ノ他

ノ雇人ニヤラカサシメタノテアリマス問、其ノ使途ハ此ノ表ノ通りテアルカ此ノ時前同決定書添付ノ甲二、乙二ノ表ヲ示シタリ答、左様テアリマス」(記錄二〇一二丁裏)ト供述シタルニ止マリ原院ニ於テハ被告人善三郎ニ對シ判示第三事實中判示虛偽有價證券行使詐欺ノ事實ニ付テハ豫審終結決定添付甲二、乙二ノ表記載ノ事實ニ付テノミ訊問シタルモノナリ然ルニ右第三ノ乙(ト)ノ一、二及(チ)ノ事實ハ豫審終結決定書添付甲二、乙二ノ表中ニ全然記載シアラサルヲ以テ結局原院ニ於テ右第三ノ乙(ト)ノ一、二及(チ)ノ事實ニ付テハ公判ニ於テ事實ノ審理ヲ爲サシテ判決ヲ爲シタルコトトナリ公判手續上重大ノ違法アルモノニシテ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信ス(昭和六年(レ)第一一〇一號事件ノ內被告人牧谷貞藏ニ係ル六年十二月二十一日第一刑事部決定、大正十二年(レ)第一四一六號被告人高橋圓三郎ニ係ル第一刑事部決定參照)ト云ヒ「被告人井上米次辯護人河西善太郎上告趣意書第二點ハ相被告佐藤善三郎及同被告ノ辯護人ヨリ已ニ提出又ハ提出スヘキ上告理由ハ全部ヲ被告井上米次ノ爲メニモ利益ニ之ヲ引用スト云フニ在リ仍テ原審公判調書ヲ查スルニ原判決カ其ノ第三事實トシテ認定シタル犯罪事實中(乙)(ト)ノ一、二及(チ)ノ事實ニ付テハ被告人善三郎ニ對シ公判ニ於テ事實ノ審理ヲ爲シタル形迹ナシ而モ原判決ハ之ニ付原判示ノ如キ犯行ノ認定ヲ爲シタルモノトス從テ原審訴訟手續ハ刑事訴訟法第三百四十五條ノ規定ニ違背セルモノニシテ而モ此ノ違背ハ事實ノ確定ニ影響ヲ及ボスコト勿論ナリトス若夫レ原審

【要旨】
 裁判長カ檢事ノ被告事件ノ陳述後檢事ノ陳述シタルト同一ノ被告事件ヲ告知シ此ノ事件ニ付陳述スル
 コトアルカトノ發問ニ至リテハ刑事訴訟法第三百三十四條ノ規定ニ基クモノニシテ斯ル問ヲ發シタルノ
 故ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲シタルモノト謂フヲ得サルコト論ヲ俟タス仍テ原判決ニハ各辯護人カ論難ス
 ル如キ幾多ノ瑕疵(量刑論ハ別トシ)アレトモ之ニ對スル説明ヲ省略シ前段ノ理由ニ因リ刑事訴訟法
 第四百四十八條ノ二ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス
 檢事正木亮關與

○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十四年(一)第二九七號
 同年六月三日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告 川嶋 實 辯護人 漢江 武秀
 【第一審】 弘前區裁判所 【第二審】 青森地方裁判所

○判示事項

皮革使用制限規則(昭和十三年商工省令第四十三號)第一條ノ牛革ト

「舶來ボツクス」

○判決要旨

昭和十三年商工省令第四十三號皮革使用制限規則第一條所定ノ牛
 革中ニハ所謂「舶來ボツクス」ヲ包含スルモノトス

【參照】 輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律(昭和十二年法律第九十二號)第三條
 政府ハ第一條ノ制限若ハ禁止又ハ第二條ノ命令若ハ處分ニ關係アル事項ニ付報告
 ヲ發シ又ハ監督其ノ他ノ検査ヲ爲スコトヲ得
 同法第六條 第三條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ検査ヲ拒ミ
 妨ケ若ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キ
 テ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲
 シタル者亦同シ

皮革使用制限規則(昭和十三年商工省令第四十三號)第一條 左ニ掲ゲル物品又ハ其ノ
 材料ハ牛革(黃牛革及水牛革ヲ含ム以下同シ)ヲ使用シテ之ヲ製造スルコトヲ得ズ但
 シ軍ノ註文又ハ輸出註文(關東州、滿州國又ハ中華民國向ノモノヲ除ク)ニ係ル場合及
 特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 二 馬具
 - 三 自轉車又ハ自動自轉車用サドル
 - 四 調帶
 - 五 ハツキンダ
 - 六 運動用具
 - 七 革紙
- 同規則附則第三項 本則施行ノ際第二條ニ掲ケル物品又ハ其ノ材料ノ製造ヲ業トスル者ニシテ他ノ用途ニ轉用シ得ザル革ヲ所有スルモノハ本則施行後二月間ヲ限リ地方長官ノ許可ヲ受テ第二條ニ掲ケル物品又ハ其ノ材料ヲ製造スルコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス(訴訟費用ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ肩書居住地(弘前市大字土手町三十九番地)ニ於テ靴製造販賣業ヲ營ミ居ルモノナルトコロ昭和十三年七月六日頃地方長官ニ對シ皮革使用制限規則ニ基キ同月一日現在ノ皮革ノ種類別在庫數量ヲ届出ツルニ際シボツクス革ハ四十八枚約千二十餘坪アリタルニ拘ラス二十八枚約八百三十坪ト届出テ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ昭和十二年法律第九十二號輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第三條第六條昭和十三年商工省令第四十三號皮革使用制限規則附則第三項ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍

内ニ於テ被告人ヲ罰金百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人溝江武秀上告趣意書原判決理由ニ「被告人ハ肩書居住地ニ於テ靴製造販賣業ヲ營ミ居ルモノナル處昭和十三年七月六日頃地方長官ニ對シ皮革使用制限規則ニ基キ同月一日現在ノ皮革ノ種類別在庫數量ヲ届出ツルニ際シボツクス革ハ四十八枚約千二十餘坪アリタルニ不拘二十八枚約八百三十坪ト届出テ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタルモノナリ」トアリ其ノ意タルヤボツクス革四十八枚約千二十餘坪ノ内二十枚約百九十餘坪ノ在庫品ヲ隠蔽シテ二十八枚約八百三十坪ト虚偽ノ申告ヲ爲シタリト云フニアルヘク(第一審判決ニ照シテ)而シテ又右隠蔽シタリト認メラレタルボツクスハ百九十三坪ニシテ舶來ボツクスナルコトハ檢事ノ略式命令請求書記載ノ公訴事實竝被告人ノ全供述ニヨリ明瞭ナル處ナリ茲ニ於テ上告人ノ舶來ボツクスニ關スル右行爲ハ果シテ皮革制限規則第三項ニ抵觸スルヤ否ヤヲ案スルニ左記理由ニヨリ抵觸セスト斷定シテ憚ラス(一)同規則第一條ニハ「左ニ掲タル物品又ハ其ノ材料ハ皮革(黃牛革及水牛革ヲ含ム以下同シ)ヲ使用シテ之ヲ製造スルコトヲ得ス」云々同附則第三項ニ

皮革使用制限規則(昭和十三年商工省令第四十三號)第一條ノ牛革ト(舶來ボツクス)

所謂牛革ハ右第一條ノ牛革ト同意義ナルコトハ(……以下同シ)ニ徴シテ明カナリ然ラハ本件牛革ノ内ニハ舶來ボツクスヲ包含セサルヤ言フ俟タスト云ハサルヘカラス何トナレハボツクスト稱スルモノハ牛革ナルコト何人モ疑ハサル處ニシテボツクスニハ舶來ボツクス及和製ボツクスノ區別アリ舶來ボツクスハ外國ヨリ來レルモノ和製ボツクスハ内地產ノモノヲ云フ而シテ本附則ニ所謂在庫品ノ届出義務ヲ認メタルモノハ主トシテ内地產牛革ナルコト法文ニ「牛革(黃牛革及水牛革ヲ含ム以下同シ)」トアル法意ヨリ十分窺知スルニ足ルト信スルモノナリ若シ夫レ牛革ナル以上洋ノ東西ヲ問ハス其ノ舶來タルト和製タルトヲ論セサルモノトセハ牛革ノ下ニ態々括弧ヲ設ケテ黃牛革及水牛革ヲ含ムト記載スル要ナケレハナリ即チ内地產ニ限ルトセハ黃牛革及水牛革カ問題トナル故是ニ特ニ之等ヲ含ムト定メタルモノニシテ其ノ舶來ボツクス(牛革)ヲ包含セサルヤ益々明瞭ナリト謂フヘシ原判決ハ意ヲ茲ニ用ヒス漫然牛革ナル字句ニ捕ハレ牛革ノ意ヲ不法ニ廣ク解釋シタルハ法文ノ嚴正ナル解釋ヲ誤リタル誹ヲ免レス(2)又觸ツテ此ノ取締法規ヲ制定シタル立法趣旨ヲ按スルニ今ヤ我國ハ長期聖戰ノ目的ヲ達スル爲ニ經濟統制ヲ執行シ主トシテ軍需其ノ他ノ軍需品製造上必要ナル牛革ノ使用ヲ制限シ併セテ當業者ノ手持品ナルモノヲ調査シ置キ軍需其ノ他軍需品製造ニ軍ノ必要アル場合何時ニテモ之カ要求ヲ充タスコトノ出來ル用意ノ爲ニ出ラタルモノニシテ舶來ボツクスノ如ク高價ニシテ費澤ナルモノハ軍需其ノ他ノ軍需品製造ニ適セサルモノナレハ之カ使用制限ハ其ノ目的ニ副ハサルモノナリナレ

ハコソ立法者ハ牛革ノ内ニ特ニ黃牛革及水牛革ヲ含メタルニ止マリ舶來牛革即舶來ボツクスヲ含メザリシモノナリト確信ス從テ附則第三項ノ在庫品届出義務モ亦舶來ボツクスヲ含マサル法意ナルコト立法ノ趣旨上最モ明瞭ナル所ト謂ハサルヘカラス原判決ハ斯ル明瞭ナル立法趣旨ヲ究メシテ上告人ニ對シ漫然有罪判決ヲ言渡シタルハ法規ノ解釋ヲ誤リタル違法アリ以上ニヨリ原判決ハ到底破毀ヲ免レスト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

昭和十二年法律第九十二號輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條ニ基ク昭和十三年商工省令第四十三號皮革使用制限規則第一條ノ規定ハ牛革ニ付外國產牛皮ヨリ製糝シタル牛革ヲ除外セル趣旨ノ認ムヘキモノナキノミナラス同規則附則第三項ノ規定ヲ參照スレハ同條所定ノ牛革中ニハ外國產牛皮ヨリ製糝シタル所謂「舶來ボツクス」ヲ包含スルモノト解スルヲ相當トス同條ハ牛革ニハ水牛革黃牛革ヲ包含スル旨規定セリト雖這ハ唯疑義ヲ避クル爲ノ註釋的ノモノニ外ナラサルカ故ニ之アルノ故ヲ以テ同條ハ外國產牛革ヲ包含セスト解スルハ正當ニ非ス而シテ原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ被告人ハ判示場所ニ於テ靴製造販賣業ヲ營メル者ナルトコロ判示日時所轄地方長官ニ對シ昭和十三年七月一日現在ノ皮革ノ種類別在庫數量ヲ届出ツルニ際シボツクス革ハ四十八枚約千二十餘坪在リタルニ拘ラス二十八枚約八百三十坪ト届出テ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタリト云フニアルヲ以テ昭和十三年商工省令第四十三號皮革使用制限規則附則第三項ニ違反シ昭和十二年法律第九十二號輸出入品等ニ關ス

ル臨時措置ニ關スル法律第三條第六條ニ該當スルコト勿論ニシテ原審カ該法條ニ間擬シタルハ正當ナ
リ從テ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルモノト云フヲ得ス論旨理由ナシ
右ノ理由ニ據リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事徳永榮吉關與

○放火被告事件(昭和十四年(九)第三四三號
同年六月六日第三刑事部判決) 棄却

【上告人】 被告人 大石嘉一郎 辯護人 高古島 義元 亮三

【第一審】 神戸地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

接続セル二棟ノ建物ト刑法第百八條

○判決要旨

接続セル二棟ノ建物中其ノ一ニ人カ現在シ他ノ一ニ人ノ現在セス
トスルモ其ノ全部ヲ刑法第百八條ノ建物ト解スヘキモノトス

【参照】 刑法第百八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建物、汽車

接続セル二棟ノ建物ト刑法第百八條

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十年ニ處ス原審ニ於ケル未決勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入ス(訴訟費用ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ其ノ妻ヒデト共ニ昭和三年四月頃ヨリ兵庫縣武庫郡魚崎町横屋七百七十五番地ノ二私立瀧中學校ニ小使トシテ雇ハレ妻等ト同校小使室ニ起居シ居リタルモノナルトコロ

第一 數年前ヨリ同校教諭牧田貞雄ニ對シ些細ノ事ヨリ不快ノ感ヲ抱キ含ムトコロアリシカ其ノ失態ヲ作爲スルニ於テハ同人ハ必ス窮地ニ陥ルヘシト思惟シ昭和十二年十一月十一日午後八時半頃同校職員室ニ入り牧田教諭使用ノ机ノ下ニ押込アリタル椅子ノ下ニ其ノ隣机上ニ在リシ試験答案紙四、五十枚ヲ立掛ケ之ニ所携ノ燐寸ヲ以テ點火シテ放火シ該椅子一脚ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメ

第二 昭和十一年九月頃ヨリ同校書記三船久米三郎等ヨリ金借シテ家屋ヲ買入レ之ヲ他ニ賃貸シテ利殖ノ途ヲ講シ居タルモ所期ノ利益ヲ擧タルコトヲ得ス同十二年十二月末頃右久米三郎ヨリ翌年一月末頃迄ニ金三百圓ノ返済方ヲ督促セラレ其ノ金策ニ窮シタル結果豫テ日本動産火災保險株式會社トノ間ニ自己等ノ所有ニシテ同校小使室内ニ在リタル動産ニ付保險金千圓同校第二校舍及第三校舍各階段下倉庫内ニ藏置ノ動産ニ付保險金各五百圓合計金二千圓ノ火災保險契約ヲ締結シ居ルコトヲ想起シ茲ニ右第三校舍ニ放火シ之ト共ニ其ノ階段下倉庫内ノ動産ヲ燒キ右保險金ノ一部ヲ取得センコトヲ決意シ昭和十三年一月七日午後九時過頃同校第三校舍ニ西出入口ヨリ入り階下化學準備室前廊下ノ北側洗面所ノ西横ニ在リタル紙屑入ヲ化學教室前ナル階段下倉庫ノ南側廊下ニ運ヒ同所ニ於テ右紙屑入

ヲ紙屑ヲ取出シテ右倉庫ノ南側板壁ニ接シテ積重ネ之ニ所携ノ燐寸ヲ以テ點火シテ放火シタル爲メ火ハ宿直教諭永澤敦治等ノ現在スル同校本館及前掲小使室等ニ廊下等ニヨリ連接シテ一體トナリ居タル同校舍ニ燃エ移リ折柄ノ強風ト相俟テ順次第二校舍第一校舍及生徒控場等ニ燃エ廣カリ之等ノ建物及備品等ヲ燒燬シタルモノナリ

而シテ右第一、第二ノ所爲ハ犯意繼續ニ出テタルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第一ノ點ハ刑法第五十條第一項第二ノ點ハ同法第八條ニ該當スルトコロ以上ハ連續犯ナルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ之ヲ一罪トシ重キ後者ノ罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷シ同法第二十一條ニ依リ主文ノ如ク原審ニ於ケル未決勾留日數中ノ一部ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人古賀元吉上告趣意書第三點原審判決ニハ重大ナル事實ノ誤認及擬律錯誤ノ違法有リ原審判決ニハ其ノ事實摘示第二ニ於テ「點火シテ放火シタル火ハ宿直教諭永澤敦治等ノ現在スル同校本館及前掲小使室等ニ廊下等ニヨリ連接シテ一體トナリ居タル同校舍」ニ燃エ移リト事實ヲ認定シタルモノナル處之ヲ豫審判事ノ檢證調書同附屬書面ニ付稽ヘ之ヲ實地ニ照シ考フルトキハ私立瀧中學校ノ第三乃至第一校舍ト本館及小使室トヲ連接スル廊下トハ「バラツク式」屋根ノミヲ以テ連接スル兩除ケ程度ノ

モノニシテ建造物ノ觀念ヲ以テスレハ右校舍ハ本館及小使室トハ獨立シタル建造物ナリ而シテ右中學
校ノ第一乃至第三校舍ニハ人ハ現在セザリシコト記録上明カナリ然ラハ原審判決カ本案燒失家屋ヲ刑
法第百八條ニ該當スル建造物ナリト認定シ刑法第百八條ヲ適用シタルハ重大ナル事實ノ誤認ヲ敢テシ
擬律錯誤ノ違法有ルモノトスヘク破毀ヲ免レスト信スト云フニ在レドモ

原判決擧示強制處分ニ依ル豫審判事ノ檢證調書及同附屬圖面ノ記載ニ依レバ原判示第二記載第三校舍
ハ同判示ノ如ク本館及小使室ト連接一體ヲ成シ居リタルコトヲ認ムルヲ得ベク既ニ斯ノ如ク一體ヲ成
セル以上縱令右第三校舍ニハ人ノ現在スルモノナカリシトスルモ右本館及小使室ニハ夫々人ノ現在セ
シコト原判示ノ如クナルトキハ是等建物ハ一體トシテ刑法第百八條ニ所謂人ノ現在スル建造物ニ該當
スルコト明カニシテ記録ヲ精査スルモ原審ノ右事實認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フベキ顯著ナル
事由ヲ發見スルコト能ハズ從テ之ヲ燒燬シタル被告人ノ所爲ハ右法條ヲ以テ律スベキコト言フ俟タズ
之ト同旨ノ擬律ヲ爲シタル原判決ハ至當ニシテ何等擬律錯誤ノ違法アルコト莫シ論旨理由ナシ(其ノ
他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
仍テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ通り判決ス
檢事横田麟二關與

【要旨】

○名譽毀損被告事件(昭和十四年(レ)第三六九號 棄却)

(昭和十四年(レ)第三六九號 棄却)

【上告人】 被告人 堀川 實寛 原審辯護人 赤羽根銀作

外一名

【第一審】 岩村田區裁判所 【第二審】 長野地方裁判所

○判示事項

略式命令 謄本ノ送達前ニ爲サレタル正式裁判ノ請求

○判決要旨

略式命令 謄本ノ送達前ニ爲サレタル正式裁判ノ請求ハ不違法ナリトス

【參照】 刑事訴訟法第五百二十三條 區裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ其ノ管轄ニ屬スル

事件ニ付公判前略式命令ヲ以テ罰金又ハ科料ヲ科スルコトヲ得

略式命令謄本ノ送達前ニ爲サレタル正式裁判ノ請求